

那霸市文化財調査報告書 第76集

城岳古墓群(Ⅱ)

— 城岳公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告 Ⅱ —

2008年2月

那霸市教育委員会

序

本報告書は、城岳公園整備事業に伴う埋蔵文化財「城岳古墓群」の緊急発掘調査の成果を収録したものです。城岳古墓群では、平成14年度から平成17年度にかけて発掘調査を実施しました。古墓群全体では、合計63基の古墓を今までに確認しております。古墓の形態としては、破風墓を主体としていますが、亀甲墓や掘込墓も確認することができます。今回は、平成14年度に発掘調査を実施した古墓15基の検出遺構について報告します。

現在の県立那覇高等学校の南に位置する城岳（グスクダケ）と呼ばれる丘陵一帯は、かつては清の冊封使もわざわざ訪れた沖縄でも有数の景勝地がありました。戦前まで見ることのできた丘陵の頂から見下ろす泉崎や那覇港周辺の風景は、すばらしいものであったとのことです。しかし、沖縄戦での戦火により那覇の町は焦土と化し、また、戦後の度重なる建物の建設や土地造成によって、城岳周辺の景観は大きく変貌しました。さらに、丘陵自体も、戦後の遊園地建設に伴って頂上部分が削られ、地形が著しく変わってしまいました。那覇市のような人口の集中する都市地域では、戦後の復興に始まる土地開発が急速に進行してきたという経緯もあり、近代まで良好な状態で各地に残っていた歴史的景観の多くが失われていく傾向にあります。城岳古墓群に関しても、かつては丘陵周辺に120基以上の古墓が存在していたようですが、現在その数は半数以下となってしまっています。数多くの大きな墓が隣接して並ぶ往時の姿は、かなり壮観なものであったことでしょう。

昔は決してめずらしくもなくその存在が当たり前であったものが、ふと気付くと見つけることが今ではなかなか難しいという事が、私たちの周辺には少なからずあるものではないでしょうか。石で構築された古い破風墓や亀甲墓も、その一つとなっているのかもしれません。そのような意味からも、それらの古墓を詳しく調査し、きちんと記録に残していくという作業は、失われつつある古き沖縄の歴史的・文化的記憶を長く後世に伝えていくための意義深い仕事の一つといえるのではないかと考えます。

那覇市民、ひいては一般県民の方々が県史をより深く学ぶ上で、本報告書がささやかながらもその一助となり、さらには地域の歴史解明にも多少なりとも貢献することができれば幸いです。また、本報告書を作成・刊行するにあたって、多くの方々のご助言・ご協力を賜りました。末尾ではありますが、ここに記して、心より感謝申し上げます。

2008年2月

那覇市教育委員会

教育長 桃原 致上

例　　言

- 1 本報告書は、平成14年度に実施した「城岳古墓群緊急発掘調査」の成果を収録したものである。
- 2 本調査は「城岳公園整備事業」に伴うもので、建設管理部花とみどり課の委託を受けて那覇市教育委員会が実施した。
- 3 本報告書に掲載した航空写真および地形図・国土基本図は、国土地理院発行のものを複製した。
- 4 調査現場での実測作業は、おもに下記のメンバーで行った。

阿部　直子　仲宗根美奈子（旧姓　国吉）　平良　明子（旧姓　島袋）　奥濱　悦子
照喜名武子　嘉数すみ子　玉城　史子　當眞　哲　大城　貴　嘉陽　宗孝

- 5 調査現場での実測作業に関して、下記の方々から助言・協力があった。ここに記して、感謝申し上げる。

奥濱　悦子　照喜名武子　嘉数すみ子　眞喜志悦子　伊計めぐみ　小原　陽子

- 6 本報告書の執筆・編集は、當銘由嗣が行った。

- 7 おもに調査報告書の刊行を目的とした資料整理は、下記のメンバーで行った。

<平成15年度>

眞喜志悦子　當眞かおり　前泊　良枝　具志　良子　喜瀬　リサ　平野友加里

<平成16年度>

眞喜志悦子　前泊　良枝　喜瀬　リサ　平野友加里　知念　和美　新垣　雅代
山城めぐみ　長井　悦子

<平成17年度>

眞喜志悦子　大城亜姫代　前泊　良枝　喜瀬　リサ　平野友加里　金城いづみ
宮里　繪理　知念　和美　新垣　雅代　山城めぐみ　大城美智野　高江洲綾子

<平成18年度>

伊計めぐみ　大城亜姫代　前泊　良枝　平野友加里　新垣　雅代
比嘉　由紀乃

<平成19年度>

前泊　良枝　新垣　裕子　大城美登里　新垣　雅代　島　千香子　比嘉由紀乃

- 8 出土遺物は、那覇市教育委員会文化財課で保管している。

目 次

序

例言

報告書抄録

第Ⅰ章 調査に至る経緯 ······ 1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 ······ 1

第Ⅲ章 調査経過と調査組織 ······ 4

 第1節 調査経過 ······ 4

 第2節 調査組織 ······ 4

第Ⅳ章 遺構 ······ 6

 破風墓 6 掘込墓 8 亀甲墓 8

挿 図 目 次

- 第1図 那覇市の位置
第2図 那覇市内の遺跡分布図
第3図 城岳古墓群 古墓分布状況
(1982年当時)
第4図 城岳古墓群 古墓分布状況
(2002年当時)
第5図 第1～4号墓 平面図
第6図 第1号墓 平面図・正面図・断面図
第7図 第2号墓 平面図・正面図・断面図
第8図 第3号墓 平面図・正面図・断面図
第9図 第4号墓 平面図・正面図・断面図
第10図 第6号墓 平面図・断面図
第11図 第7号墓 平面図・断面図
第12図 第7号墓 脣壁内面被弾状況
第13図 第7号墓 脣壁内面被弾痕跡(第1号穴)
より採取した金属破片
第14図 第7号墓 墓室 平面図・断面図
第15図 第8～10号墓 平面図・断面図
第16図 第8～10号墓 平面図
第17図 第8号墓 墓室 平面図・断面図
第18図 第9号墓 墓室 平面図・断面図
第19図 第10号墓 墓室 平面図・断面図
第20図 第11号墓 平面図・断面図
第21図 第12号墓 平面図・断面図
第22図 第12号墓 墓室 平面図・断面図
第23図 第12号墓 煉瓦証文
第24図 旧那覇の歴史・民俗地図
第25図 第13号墓 平面図・断面図
第26図 第13号墓 墓室 平面図・断面図
第27図 第13号墓 墓室 断面図
第28図 第14号墓 平面図・断面図
第29図 第14・22・64号墓
亀甲墓マユ部分正面図
第30図 第14号墓 墓室 平面図・断面図
第31図 第14号墓 墓口上面より検出した刻印

- 第32図 第18号墓 平面図・断面図
第33図 第18号墓 墓室 平面図・断面図
第34図 第23号墓 平面図・正面図・断面図
第35図 第6・7号墓 墓庭坑内遺物検出状況
第36図 第8号墓 墓庭坑内遺物検出状況
(坑1・2)
第37図 第8号墓 墓庭坑内遺物検出状況
(坑3)
第38図 第12号墓 墓庭坑内遺物検出状況
第39図 第14・18号墓 墓庭坑内遺物検出状況
第40図 第6・7号墓 墓庭坑 平面図・断面図
第41図 第8号墓 墓庭坑 平面図・断面図
第42図 第8・12号墓 墓庭坑 平面図・断面図
第43図 第14・18号墓 墓庭坑 平面図・断面図

図 版 目 次

- 図版1 遺跡一帯の航空写真
図版2 第1・2号墓
図版3 第3・4号墓
図版4 第6・7号墓
図版5 第8・9号墓
図版6 第10・11号墓
図版7 第12・13号墓
図版8 第14・18号墓
図版9 第23号墓・防空壕入口
図版10 第1～4号墓
図版11 第1・2号墓
図版12 第3・4号墓
図版13 第4・6号墓
図版14 第6号墓
図版15 第6・7号墓
図版16 第7号墓
図版17 第7号墓
図版18 第7号墓 脣壁内面被弾痕跡(第1号穴)
より採取した金属破片

- 図版19 第7～10号墓
- 図版20 第8～10号墓
- 図版21 第8号墓
- 図版22 第8号墓
- 図版23 第8・9号墓
- 図版24 第9・10号墓
- 図版25 第10号墓
- 図版26 第11号墓
- 図版27 第11・12号墓
- 図版28 第12号墓
- 図版29 第12・13号墓
- 図版30 第12号墓 墓室内より検出した煉瓦証文
- 図版31 第13号墓
- 図版32 第13・14号墓
- 図版33 第14号墓
- 図版34 第14号墓
- 図版35 第14・18号墓
- 図版36 第18号墓
- 図版37 第18・23号墓
- 図版38 第23号墓

第Ⅰ章 調査に至る経緯

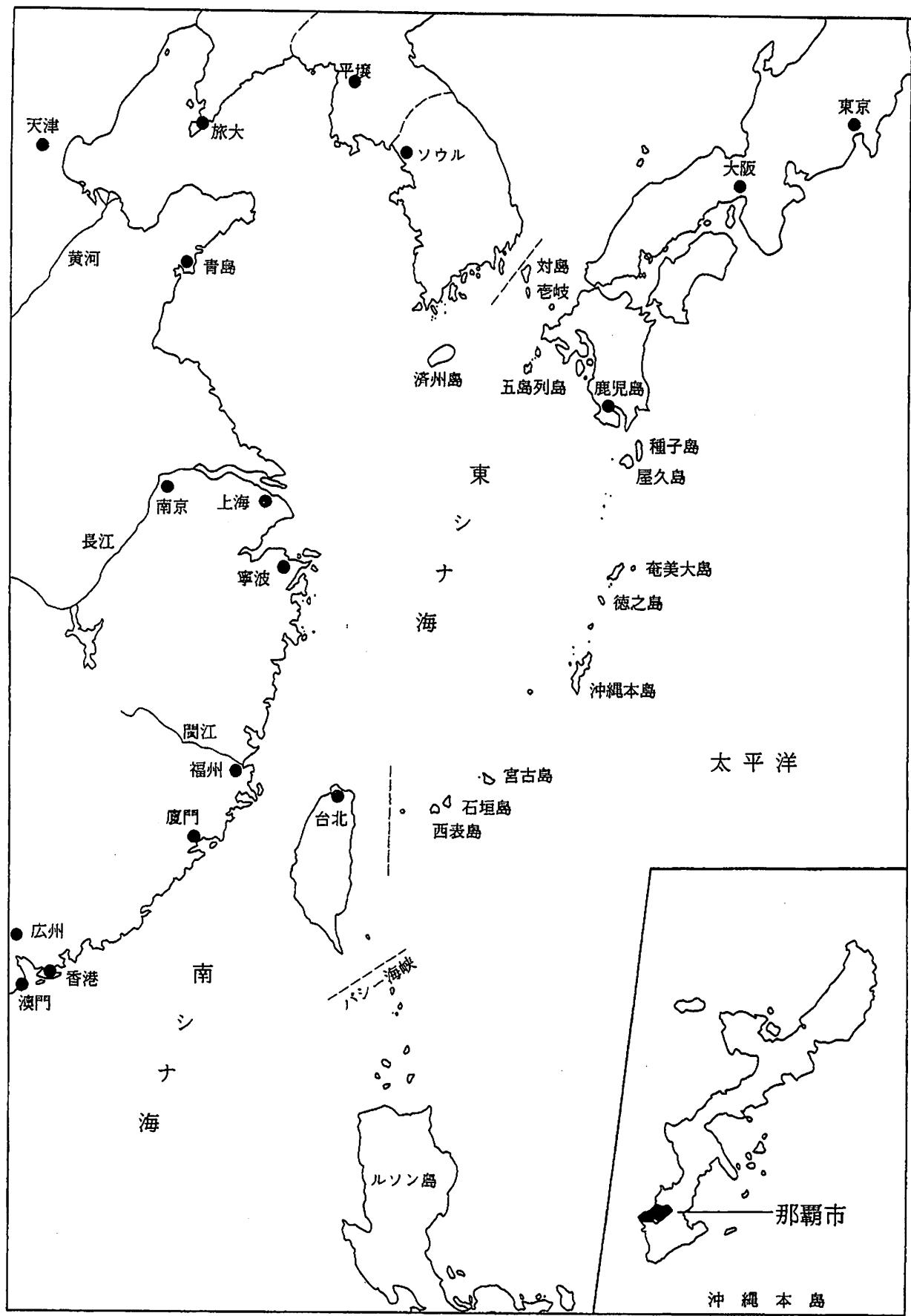
現在、城岳古墓群は、平成 14 年度から平成 17 年度までの 4 次にわたり発掘調査を実施しており、建設管理部花とみどり課による城岳公園整備事業に伴う緊急発掘調査である。平成 14 年度から平成 17 年度までに、計 31 基の古墓の調査が終了している。

城岳古墓群は、2000（平成 12）年に那覇市教育委員会文化財課による古墓の分布調査が実施され、その際に計 63 基の古墓が確認されている。古墓形態は破風墓がほとんどで、その他に数基の堀込墓・亀甲墓が確認されている。古墓には、各々通し番号を付け、第 64 号墓まで確認している。ただし、第 19 号墓については、その後の調査で確認することができず、欠番となっている。これは、1982 年当時の城岳周辺の地図（第 3 図）にはその存在が記載され、分布調査時の周囲の状況から、地表面には墓の構造物を発見することができなかつたが、地下に遺構が残存している可能性が高かつたため、墓番号を付けていたものである。

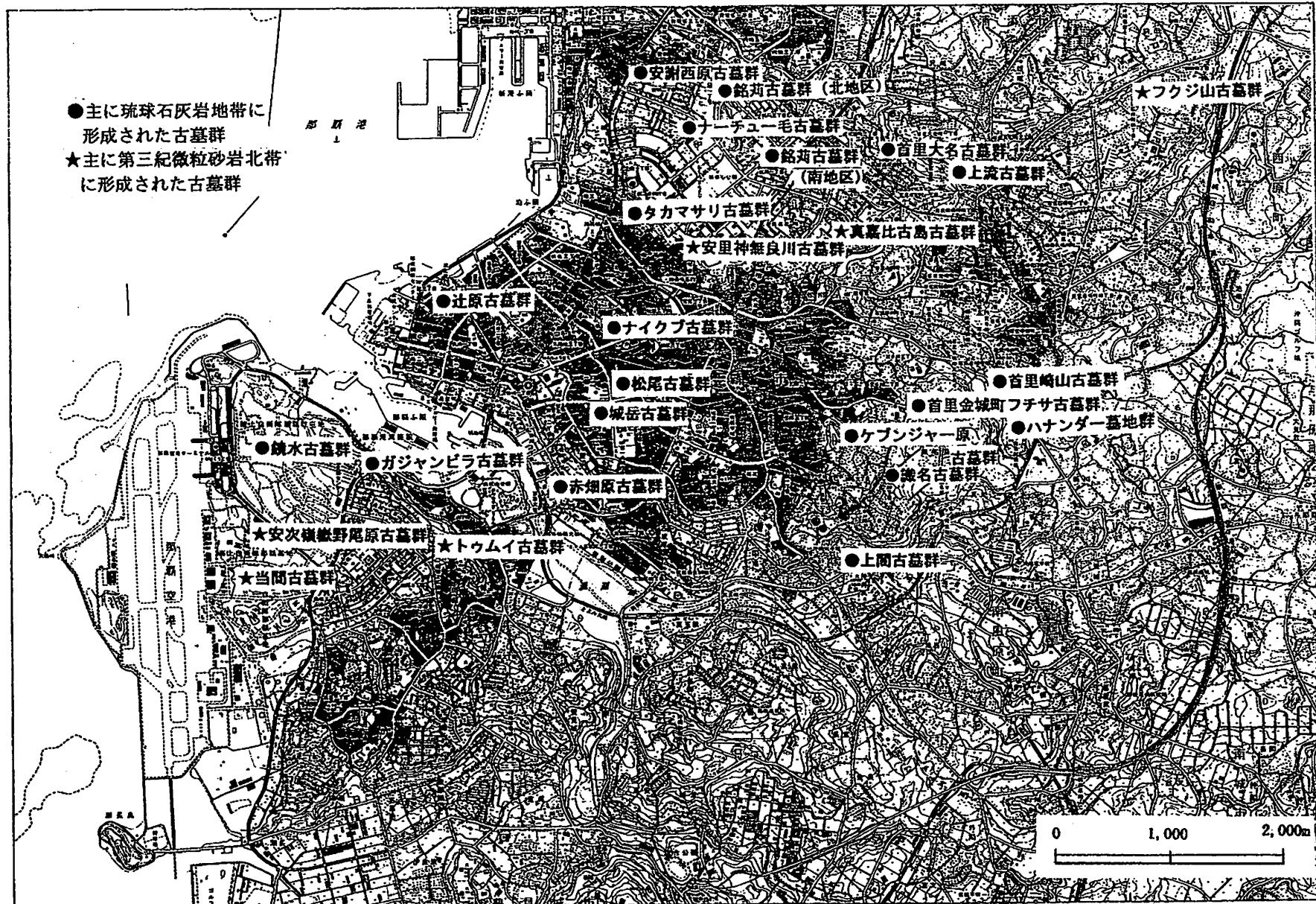
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

城岳古墓群の所在地である城岳公園は、かつてはグスクダケと呼ばれる一つの独立丘陵であった。しかし、現在では、戦後の一時期に遊園地であったことがあり、その造成のために丘陵の頂上部分が掘削・削平されてしまっている。また、丘陵周辺は、都心部に隣接するということもあって、公園用地ぎりぎりまで住宅が建ち並び、建物の群れに埋没してしまい、街路などからは丘陵の存在をうかがい知るがほとんどできない。戦前までは、松林などのある那覇郊外の景勝地として知られ、近世琉球の時代に訪れた中国からの冊封使が記した記録（冊封使録）の中にも「城嶽（ぐすぐだけ）」の名が登場するが、上述したように現在ではいにしえの面影はほとんどない。

城岳丘陵は、1923（大正 12）年頃に当時の那覇商業学校の生徒ら数名により発掘され、中国戦国時代の燕の通貨である明刀銭 1 点が出土したことでも有名な城岳貝塚の所在地でもあるが、上述したような掘削・削平を伴う開発行為により遺跡の主体部はほぼ壊滅てしまっている。ただ、古墓の調査に伴い、古墓周辺の旧地形をかろうじて維持している部分から城岳貝塚に伴うと推察される土器などの遺物が出土しており、今後の城岳丘陵での発掘調査を継続していく過程で保存良好な先史時代の遺物包含層が確認される可能性も出てきた。その検出のためには、古墓調査と並行して、丘陵周辺での試掘調査を行う必要があろう。



第1図 那覇市の位置



第2図 那覇市内の遺跡分布図

[S = 1 / 50000]

第Ⅲ章 調査経過と調査組織

第1節 調査経過

城岳古墓群は、現在、平成14～17年度の4次にわたり発掘調査を行っている。そのうち、今回の報告では、平成14年度に実施した発掘調査の成果について述べることとする。以下では、平成14年度での調査経過の概要について記す。

計15基の古墓を対象として、2002（平成14）年11月5日から2003（平成15）年3月7日にかけて第1次調査を行った。古墓の形態としては、亀甲墓1基・破風墓13基・不明1基である。形態不明とした古墓1基については、墓室のみが遺存し、上部構造が破壊されているため、その外部形状が確認できないものであるが、周辺の状況から考えて破風墓であった可能性が高い。

調査経過については、調査対象である古墓周辺の伐採作業をまず行い、各古墓の規模を確認した後、掘削用機械を搬入して覆土および古墓に伴う石垣などの構造物の補強に使用されたコンクリートを除去した。調査の過程で作成した平板測量図から各古墓のだいたいの地番を確認した後、墓室内の調査を開始した。各古墓の内部の状況については、那覇市が元の墓所有者から土地を買収した段階で墓室内に安置されていた蔵骨器を運び出しているため、ほとんど何もない状態であった。ただ、墓の移転の際に人骨のみを移動したためか、あまり破壊を受けていない蔵骨器（厨子甕）数基が墓室内部に放置されている墓がいくつかあった。各古墓の遺構検出作業の後、墓室内および墓周辺の写真撮影・実測作業を行い、平成14年度の第1次城岳古墓群発掘調査を終了した。

第2節 調査組織

本遺跡の調査組織は、次のとおりである。

調査責任者	那覇市教育委員会	教 育 長	仲田美加子（平成14～17年度）
"	"	"	桃原 致上（平成18年度～）
調査総括	那覇市教育委員会文化財課	課 長	金武 正紀（～平成14年度）
"	"	"	古塚 達朗（平成15年度～）
調査事務	"	係 長	喜納 曙（～平成14年度）
調査事務	那覇市教育委員会文化財課	主幹兼係長	喜納 曙（平成15・16年度）
"	"	主 幹	大城 伸雄（平成17年度）
"	"	"	島 弘（平成18年度）
"	"	副 參 事	島 弘（平成19年度～）
"	"	主 査	田端 瞳子（平成18年度～）
"	"	主 任 主 事	上原 善英（平成14・15年度）

				池間 孝子 (平成 16・17 年度)
				赤嶺 増美 (平成 18 年度~)
			臨時職員	喜屋武朋子 (平成 14 年度)
調査員			主査	島 弘 (~平成 14 年度)
			主任専門員	島 弘 (平成 15~17 年度)
				玉城 安明 (平成 18 年度)
				仲宗根 啓 (平成 19 年度~)
				樋口 麻子 (平成 19 年度~)
				當銘 由嗣 (平成 19 年度~)
			専門員主査	玉城 安明 (平成 19 年度~)
				北條 真子 (平成 19 年度~)
			主任主事	玉城 安明 (~平成 14 年度)
			専門員	玉城 安明 (平成 15~17 年度)
				仲宗根 啓 (平成 15~18 年度)
				樋口 麻子 (平成 15~18 年度)
				當銘 由嗣 (平成 15~18 年度)
				知念 政樹 (平成 18 年度~)
調査補助員			臨時職員	阿部 直子 (平成 14 年度)
				国吉美奈子 (平成 14 年度)
				島袋 明子 (平成 14 年度)

発掘調査作業員 (平成 14 年度)

上原 松吉	瑞慶覽築美	宮城 新一	嘉陽 宗孝	奥濱 悅子	當眞 哲
大城 末子	照喜名武子	嘉数すみ子	桃原佐恵美	玉那覇 修	中村フサ子
玉城 史子	大城 貴	當眞かおり	野原さゆり		

世話人 (平成 14 年度)

前泊 良枝

第IV章 遺構

平成14年度では、計15基の古墓の発掘調査を実施した。いずれも、墓内部の人骨の移転は、かつての墓の所有者により終了している。古墓の形態としては、破風墓9基（第7～13・18・23号墓）、堀込墓4基（第1～4号墓）、亀甲墓1基（第14号墓）がある。第6号墓については、墓の上部構造が破壊され、その形態が不明であるが、両隣となる第5・7号墓が破風墓であり、第3図に記載された形状やその残存状況から考えて破風墓であった可能性が高いと推測される。以下では、破風墓・堀込墓・亀甲墓の順に、各墓の特徴について述べていく。

破風墓（第10～27・32～34図）

第6号墓（第10図）は、上部構造が破壊されているが、破風墓であった可能性が高い。公園用地として買収された後、撤去されたものであろうか。墓室は琉球石灰岩の岩盤を水平方向に掘り込み、構築している。墓庭からは、出入口近くに掘り込まれた坑が1基検出され、その内部からは沖縄産陶器・本土産近現代磁器・金属製煙管等や人骨の一部が検出されている（第35・40図）。

第7号墓（第11・12・14図）は、牆壁内面に無数の穴が穿たれ、複数の穴の内部から腐食した金属破片（鉄）が検出されている（第12図）。ほとんどの破片は腐食が進み、細かい鋸の破片となっていたが、第1号穴検出の金属破片は比較的大きく保存状態も良好であったため、第13図に実測・図示した。城岳周辺は去る沖縄戦でかなりの激戦地であったようであり、第7号墓の南西約20mの場所には、現在でも日本軍により構築された防空壕が残っている。また、4次にわたる発掘調査の期間中にも、古墓周辺から不発弾や手榴弾が数度検出されている。これらの点から考えて、第7号墓牆壁内面に見られる穴は、かつての戦時における周辺での戦闘に伴う弾着痕や被弾痕跡であり、穴の中から検出された金属破片は第7号墓周辺での砲弾等の爆発に伴い破裂した何かの一部が牆壁に突き刺されたものである可能性が高いと推察される。第7号墓の墓室は、第6号墓と同様、岩盤を水平方向に掘り込んで構築している。墓庭には、墓正面に向かって左側に坑が1基検出され、急須・徳利等の本土産近現代磁器が出土している（第35・40図）。また、墓庭からは、墓正面に向かって右側で直径約60cmの石製容器が1点検出され、その内部から本土産近代磁器となる完形の碗1点が出土している。洗骨儀礼に関する遺構であろうか。

第8～10号墓（第15～19図）となる3基は、各墓間に仕切りはあるものの墓庭をある程度共有しており、3基の墓庭への出入口は一つである。3基ともに構築時期にあまり時間差がないものと推測され、特に第9・10号墓の2基は墓正面石積みに境界がなく同時期に構築したものと考えられる。墓室は、3基ともに岩盤を水平方向に掘り込んでおり、壁面の一部に石積みが見られる。第8号墓側の墓庭より坑3基（坑1～3）を検出している（第36・37・41・42図）。坑1内からは、瓶・合子・土瓶などの沖縄産陶器や眼鏡のレンズ、プラスチック製の櫛等が出土している。坑2では、専用蔵骨器の破片や煉瓦破片などが得られている。坑3は琉球石灰岩礫や板状サンゴ石で上面を塞いでおり、その周囲にもサンゴ石や石灰岩礫を若干廻らしていた。坑3の上面やその内部から、沖縄産陶器の瓶や合子が検出されている。

第11号墓（第20図）は、第3図で見るとその両隣に同様の破風墓が並んでいたようである。墓は

平地に立地し、墓室はすべて石積みにより構築されている。墓室内部は崩壊が進んでおり、壁面石積みの一部が崩れ、亀裂も見られた。

第12号墓（第21・22図）は、当初、墓庭にコンクリートが流し込まれており、その上面から多くの蔵骨器破片が得られている。墓の移転の際に、蔵骨器内の人骨を取り出した後に破壊したものであろうか。墓室は、左右壁面の下部と奥壁面が岩盤となっており、墓室上面と左右壁面上部は切石を積み上げている。注目すべき資料として、墓室内より煉瓦に墨書きで文字を記入したものが検出されている（第23図）。文の内容を以下に記す

（表）昭和参年旧九月八日買求 / 同年旧九月貳拾四日供養 / 那覇市上ノ蔵町二ノ六四 / 所有主 房氏 神谷乘徳

（裏）那覇市上ノ蔵町 / 二ノ六四 / 所有主 房氏 神谷乘徳

上記のとおり、墓を購入した年月日、買い求めた墓を「供養」した年月日、墓の所有者の住所・氏名が記入されている。文字を記入した煉瓦は、墓室奥壁面中央に設置され、最下部をコンクリートで固定していた。墓の所有者である神谷氏は、1928（昭和3）年の旧暦9月8日に第12号墓を購入している。墓を購入した日付が墓の構築された時期を示すとは必ずしも限らないが、城岳古墓群のほとんどが近代以降に構築された墓である可能性が高いことから考えて、第12号墓の構築された時期も、神谷氏による墓の購入日からそれほど遡ることはないと推測される。第24図は、第12号墓のかつての所有者であった神谷氏が居住していた頃の那覇上之蔵町周辺の歴史・民俗地図である。

第13号墓（第25～27図）では、公園用地内の道が墓域に接していたため、墓庭の一部は道側面の傾斜地となっている。部分的な破壊が著しく、屋根右側や左袖石、左石垣等が崩壊していた。また、当初は牆壁が存在したようであるが、ほとんどが崩壊しており、おもに屋根の左側面にその一部が残存するのみである。墓正面や左袖石に被弾痕跡らしき穴が確認でき、上述した部分的な構築物の破壊が戦時における城岳周辺での戦闘に伴うものである可能性を有する。墓室に関しても、破壊を受けている。墓室中央が溝状に掘り込まれ（第26図）、シルヒラシドウクルおよび奥棚3段が壊されている。墓口前面のサンミデー上段を構成する切石1つが取り外されており、墓室シルヒラシドウクルへ向かって下るように傾斜させている。シルヒラシドウクルとなる部分が最も深くなるように、地山である岩盤も掘削している。このような墓室構造の改変は、どのような用途を意図したものであろうか。可能性としては、戦時におけるトーチカ的施設として日本軍が墓を利用したことが推測される。つまり、墓室のシルヒラシドウクルとなる部分をサンミデーよりも低く掘り下げ、そこに機関銃等を設置することにより、敵軍の進攻を阻止することを目的とした施設として利用したものではなかろうか。この点については、今後、類例となる調査事例の蓄積が必要であろう。

第18号墓（第32・33図）は、最初はほとんど埋没した状態で確認され、軒の部分のみが地表面にわずかに露出していた。墓室は、岩盤を水平方向に掘り込んで構築している。墓庭より、坑1基が検出され、内部より本土産近代磁器の小碗1点、煙管1点（雁首・吸口）、男性用の簪1組（髪差1点・押差1点）が出土している（第39・43図）。

第23号墓（第34図）は、平地構築型の小型破風墓である。墓の構造は、すべて切石を積み上げて構築している。墓正面に向かって右側、サンミデー右横から本土産近現代磁器となる瓶と香炉が1点ずつ出土している。

掘込墓（第5～9図）

第1～4号墓の4基は、掘込墓（フインチャー）である。小崖地形となる岩盤の下部に、横穴を掘り込んで墓室としている。第2～4号墓は、墓室となる岩盤を掘り込んだ横穴が相互に連結しており、各々の墓室間を石積みで塞いでいる（第5図）。そのため、この3基の墓は、ほぼ同時期に構築された可能性がある。当初、第3・4号墓の墓庭区画は、コンクリート・ブロックで構築された低い壁によってなされていた。この墓庭の構築物に関しては、墓室の構築時期よりもかなり後に設けられたものであろうと判断し、調査開始時に撤去した。

第1号墓（第6図）は、城岳公園のコンクリート擁壁に接しており、調査開始前には石灰岩の大型岩塊を墓室前部に充填した後、コンクリートを流し込んで横穴を塞いでいた。かつては、第2～4号墓と同様、墓室となる横穴の前面に切石を積み上げ、そこに墓口を設けていたものであろう。コンクリート擁壁の設置工事に伴い、破壊されたものであろうか。墓室内の棚構造は、奥棚が1段あるのみである。

第2号墓（第7図）も、墓室内の棚が奥棚1段のみである。

第3号墓（第8図）の内部構造は、調査時に確認した状況では、だいぶ粗雑なつくりであった。長さの不揃いな石灰岩（栗石）となる角柱石を6基、「コ」字形に並べただけのもので、これを墓室の棚として利用したものと推測される。また、墓室の奥壁面に、さらに高さの低い小さな横穴が掘り込まれていた。小形の蔵骨器を安置するためのものであろうか。

第4号墓（第9図）は、墓室内に奥棚3段と左右の棚を1段ずつ配している。各々の棚の縁はコンクリート製の板を垂直に立てて設置し、その裏側にイシグー（石粉）を充填することにより構築している。

亀甲墓（第28～31図）

亀甲墓は、城岳古墓群全域で4基（第14・22・33・64号墓）が現存し、そのうち、3基（第14・22・64号墓）の発掘調査が終了している。今回は、おもに第14号墓のみの調査報告を行う。

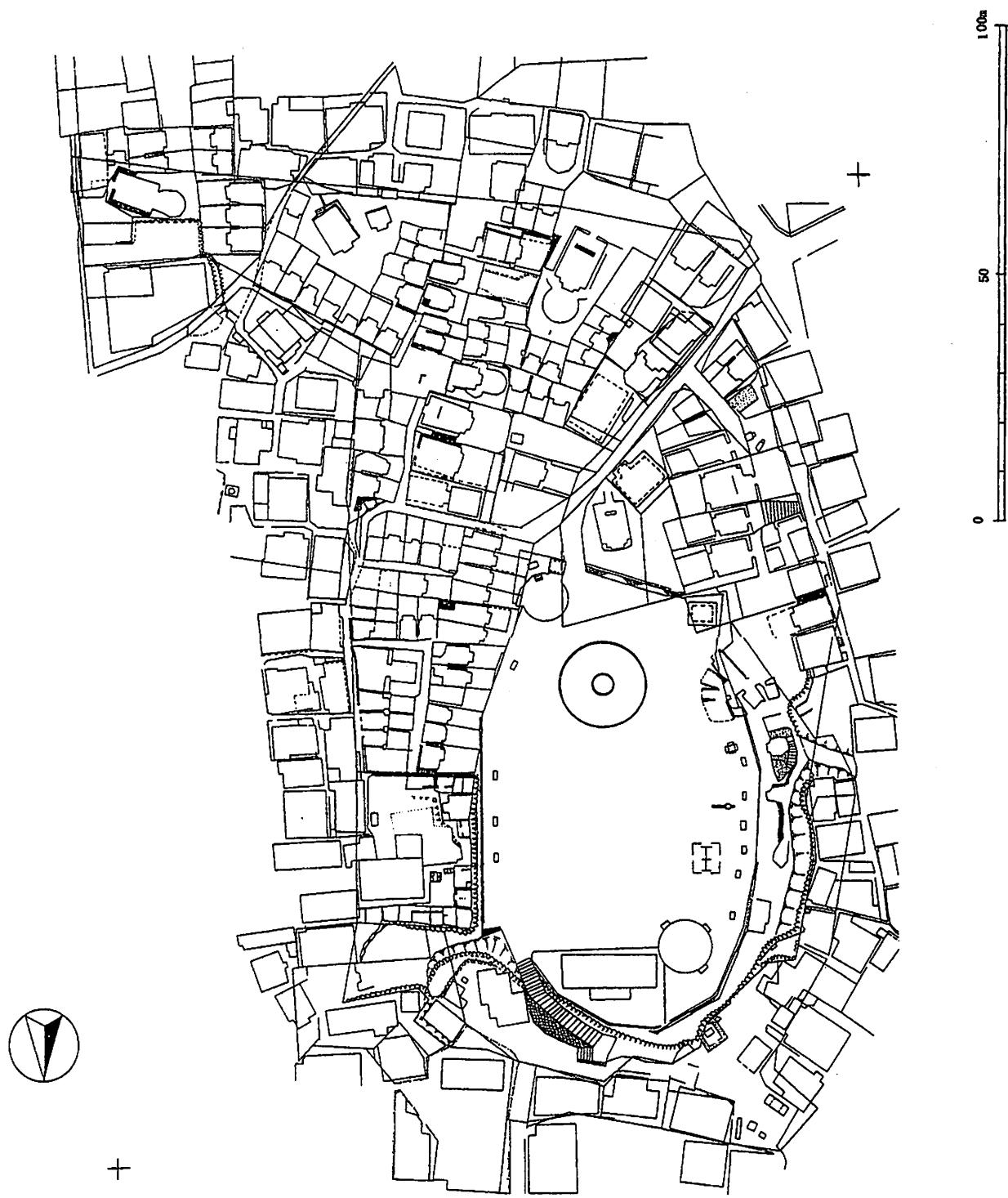
第29図は、第14・22・64号墓のマユ部分の正面図である。1は第14号墓、2は第22号墓、3は第64号墓となる。2・3のマユの全体の形状が緩やかな曲線を描くのに対し、1は左右の端が「く」字状に跳ね上がるよう屈曲する。この形状の違いは、時期差を示すものであろうか。

第14号墓は、墓正面やサンミラーの石材が緻密で硬質の石灰岩を使用しており、現地調達のものではなく、良質の石材を産出する他地域から運び込んだものであることを窺わせる。墓庭の左右の石垣については、かなり破壊を受けている。また、右袖石等の崩壊部分を、コンクリートで補修しているのが確認できる。これらの墓の部分的な破壊は、戦時での戦闘に伴うものである程度含んでいるのではないかと推測する。第14号墓の背面および左右側面には牆壁が設けられており、破風墓の形態からの影響が感じられる。特筆すべきものとして、墓口上面から陰刻された何らかの記号が検出された（第31図）。記号の意味は不明であるが、石材販売業者の商標、あるいは墓建築に携わった特定の工人集団（組合・会社等）を示すロゴタイプであることが推察される。

墓室内からは、墓移転に伴い放置された蔵骨器が数基得られている。蔵骨器の形態としては、陶製家形蔵骨器（上焼コバルト掛け厨子甕）・陶製有頸甕形蔵骨器が検出されている。また、火葬骨用の小形蔵骨器を納めたものかと推測される蓋付きの木箱も得られている。墓室は、岩盤を水平方向に掘り

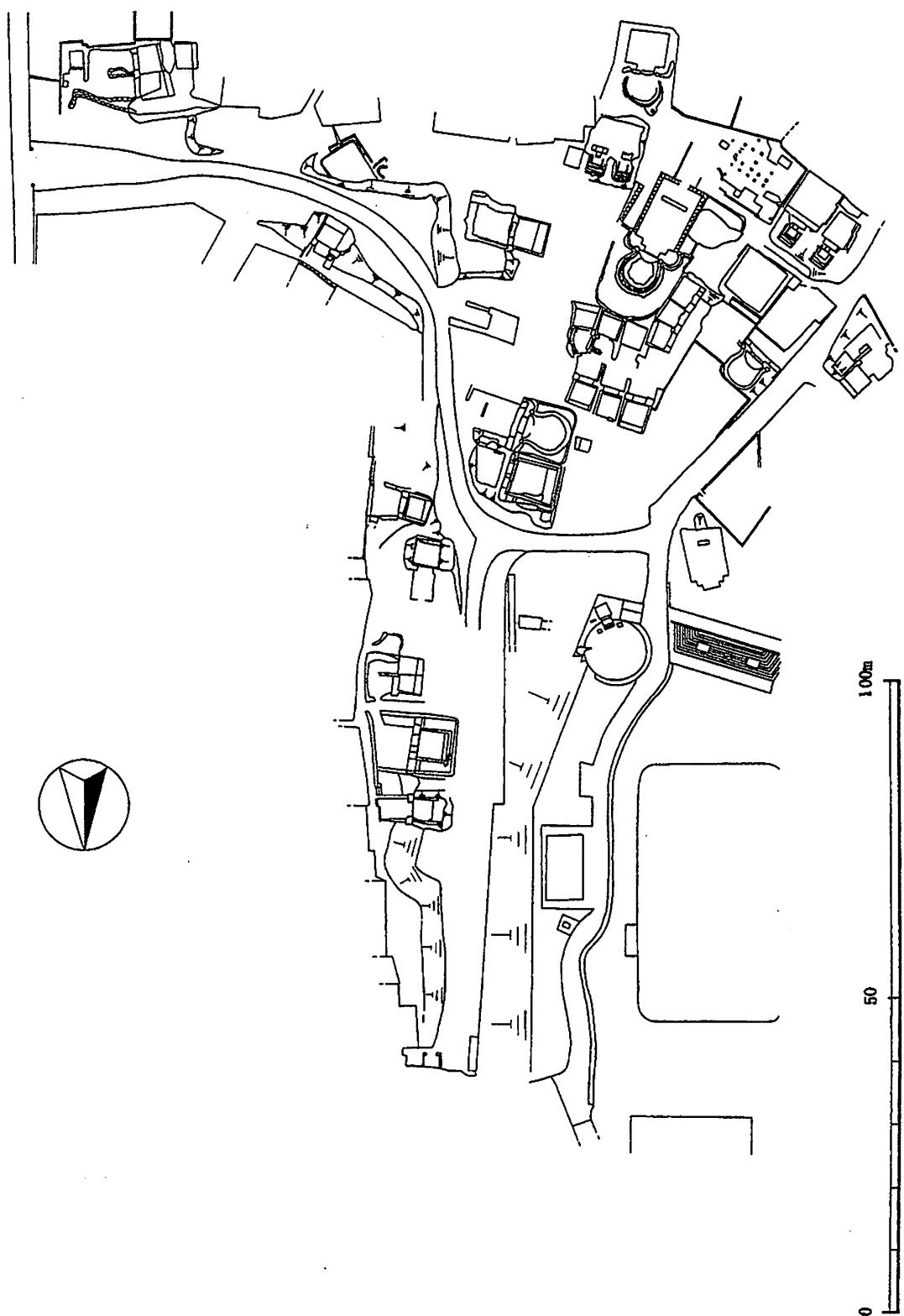
込んで構築している。棚の縁には、栗石製の角柱石を使用している。角柱石には、墨壺による線引きの見られるものがある。シルヒラシドゥクルには、遺体を納めた棺箱を安置するための台石が設置されている。

墓庭では、坑が1基検出されている（第39・43図）。坑の深さは、かなり浅い。坑内からは、沖縄産施釉陶器の瓶・合子・土瓶や煙管（雁首・吸口）等が得られている。



第3図 城岳古墓群 古墓分布状況（1982年当時）

[S=1/1000]

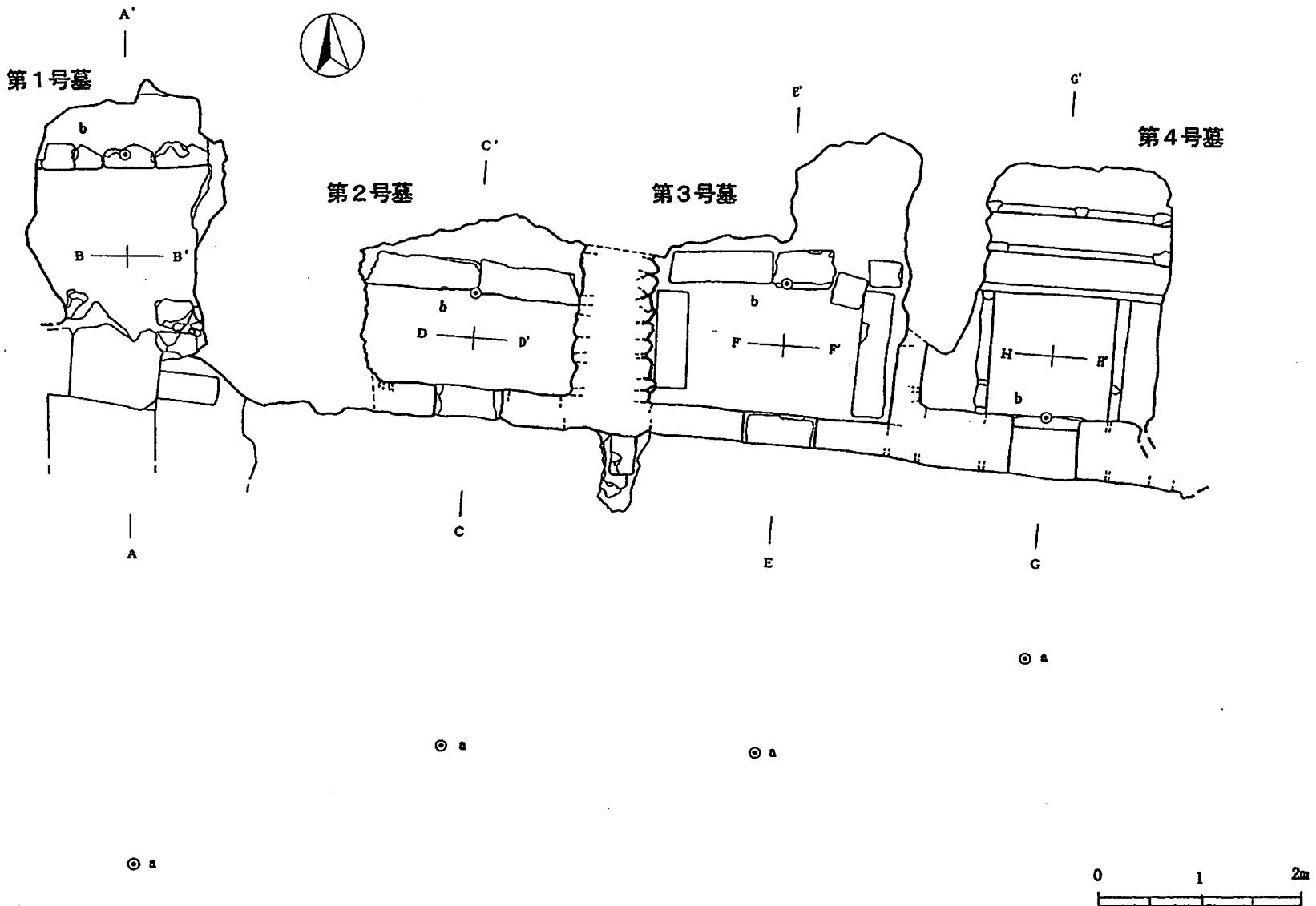


第4図 城岳古墓群 古墓分布状況（2002年当時）

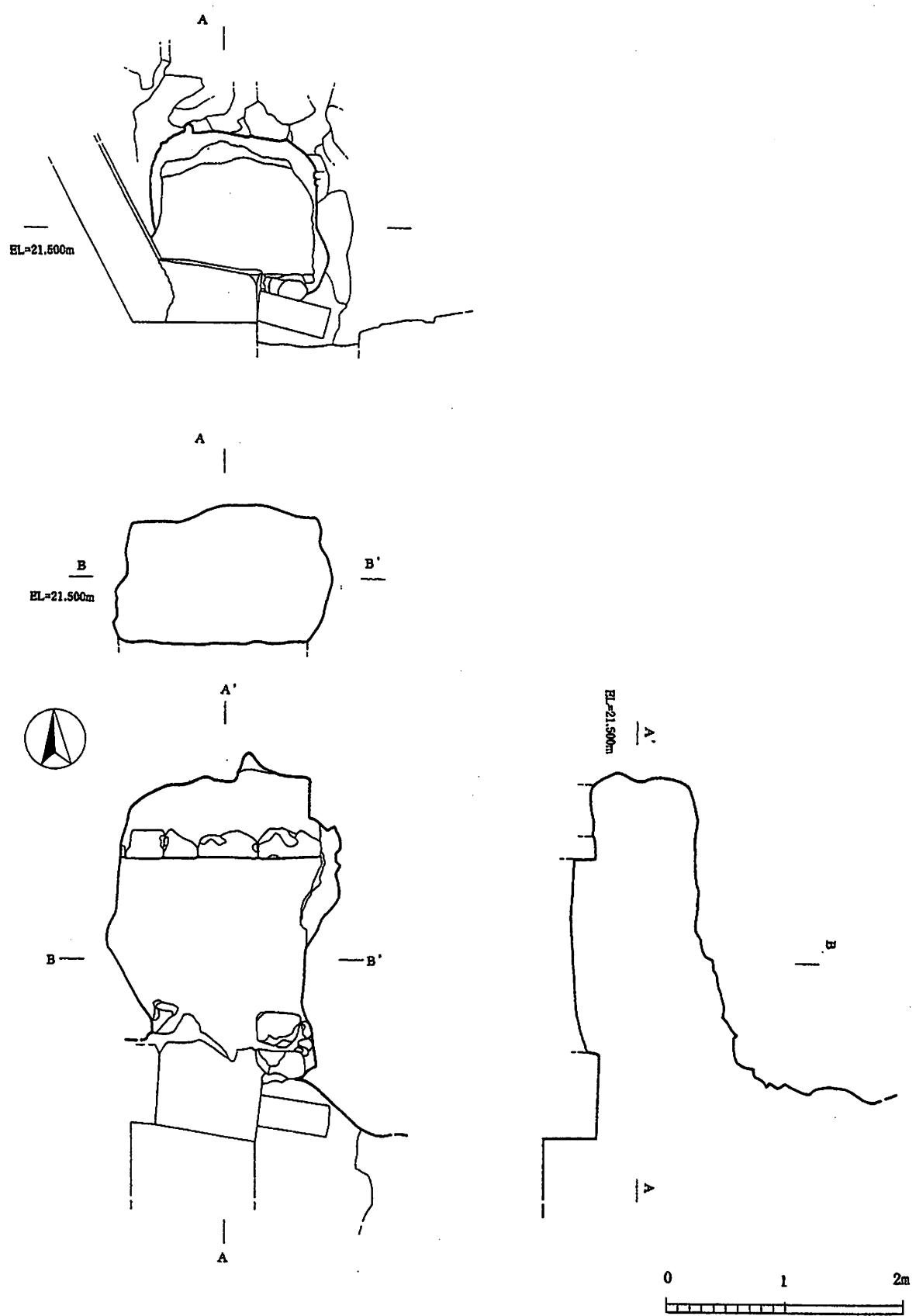
[S=1/1000]

第5図 第1～4号墓 平面図

-12-

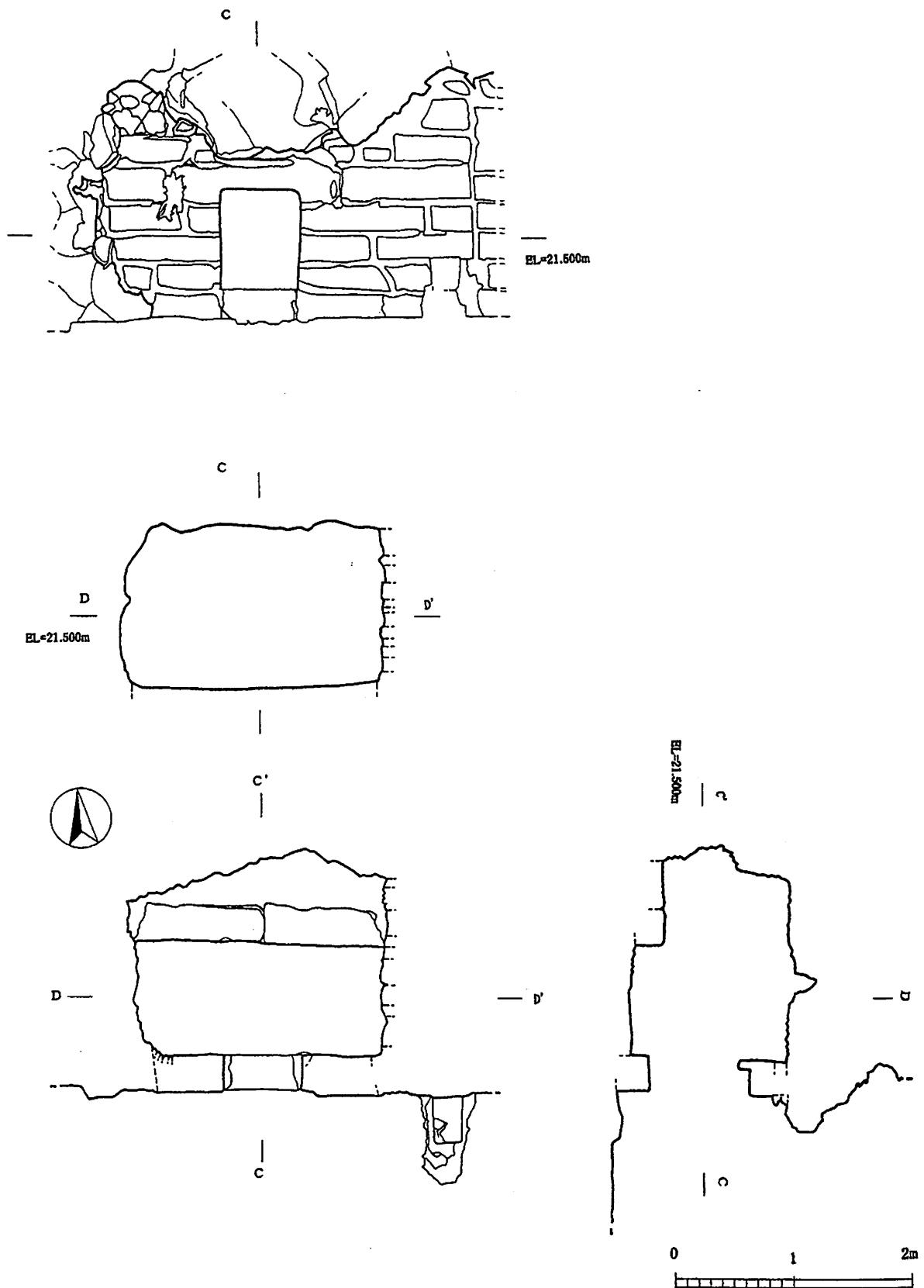


[S=1/60]



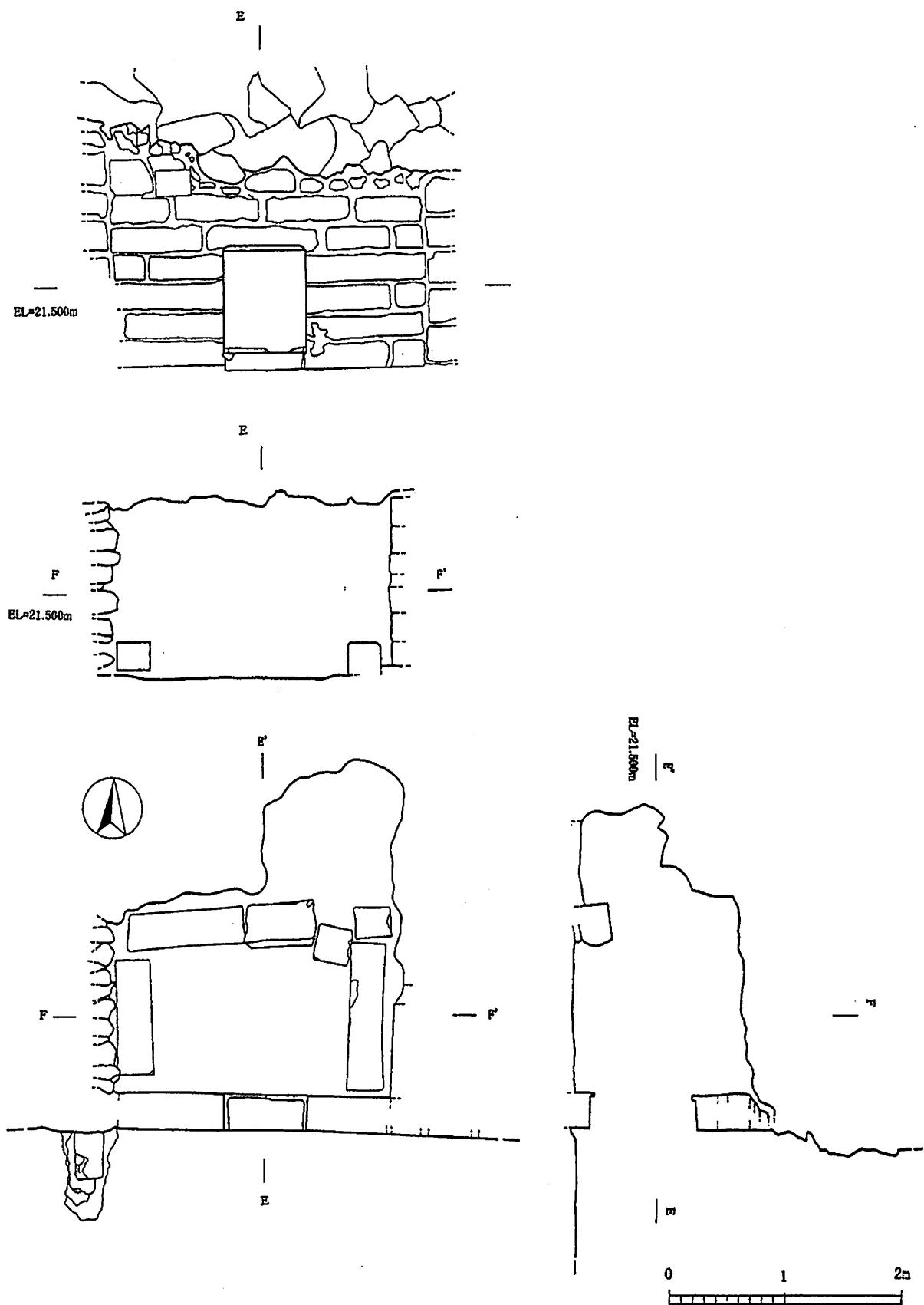
第6図 第1号墓 平面図・正面図・断面図

[S = 1 / 50]



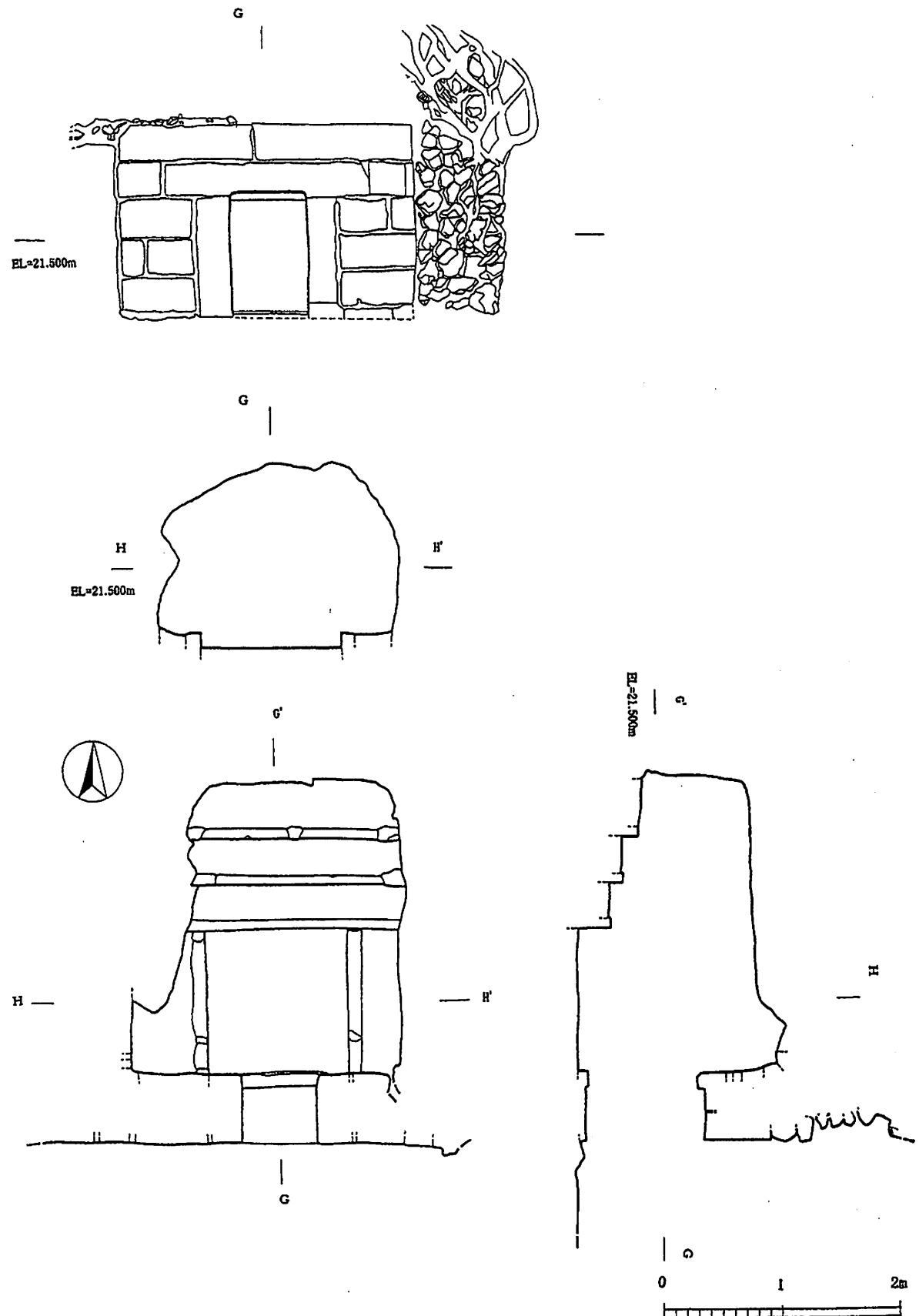
第7図 第2号墓 平面図・正面図・断面図

[S = 1 / 50]



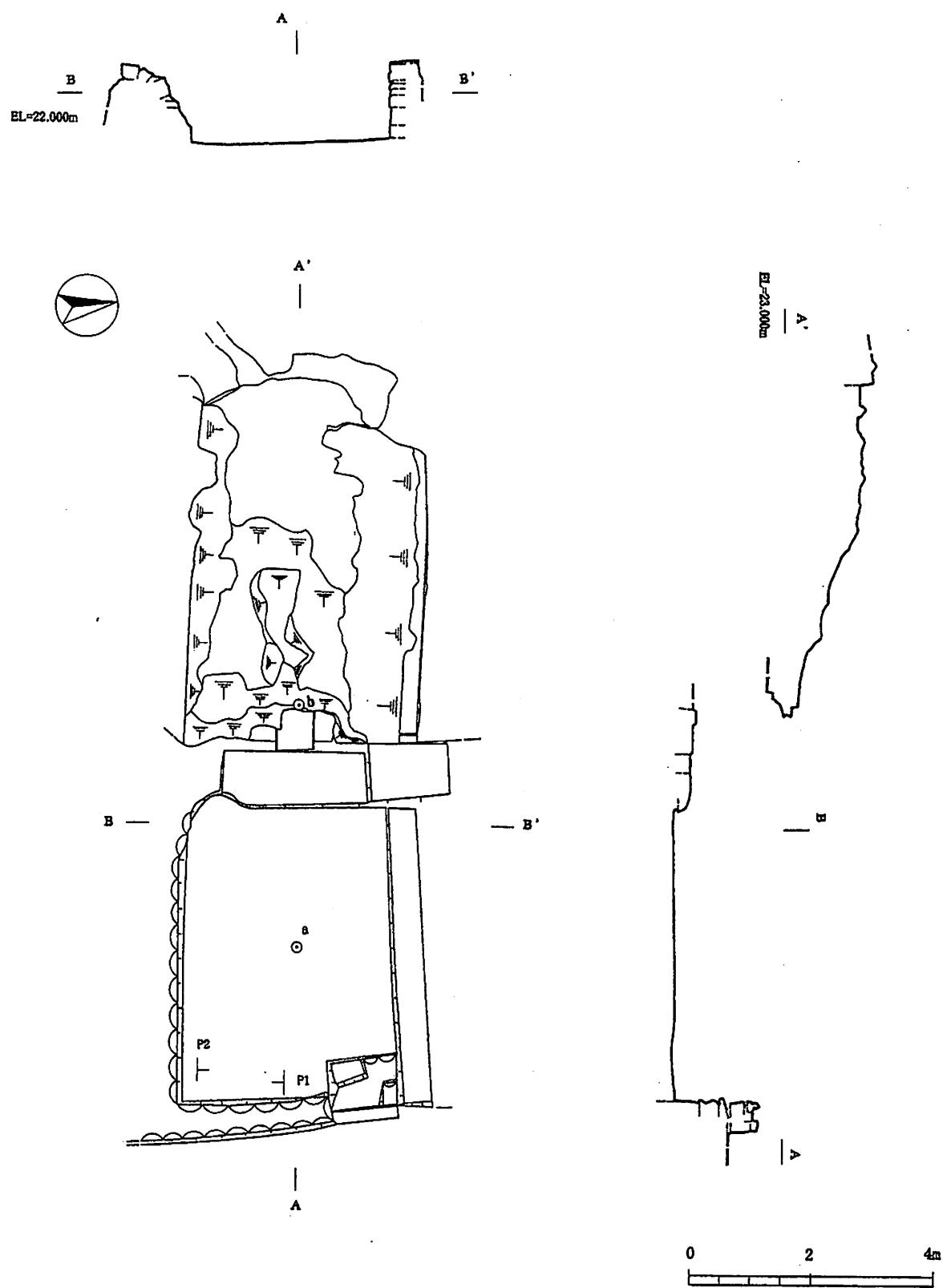
第8図 第3号墓 平面図・正面図・断面図

(S = 1 / 50)



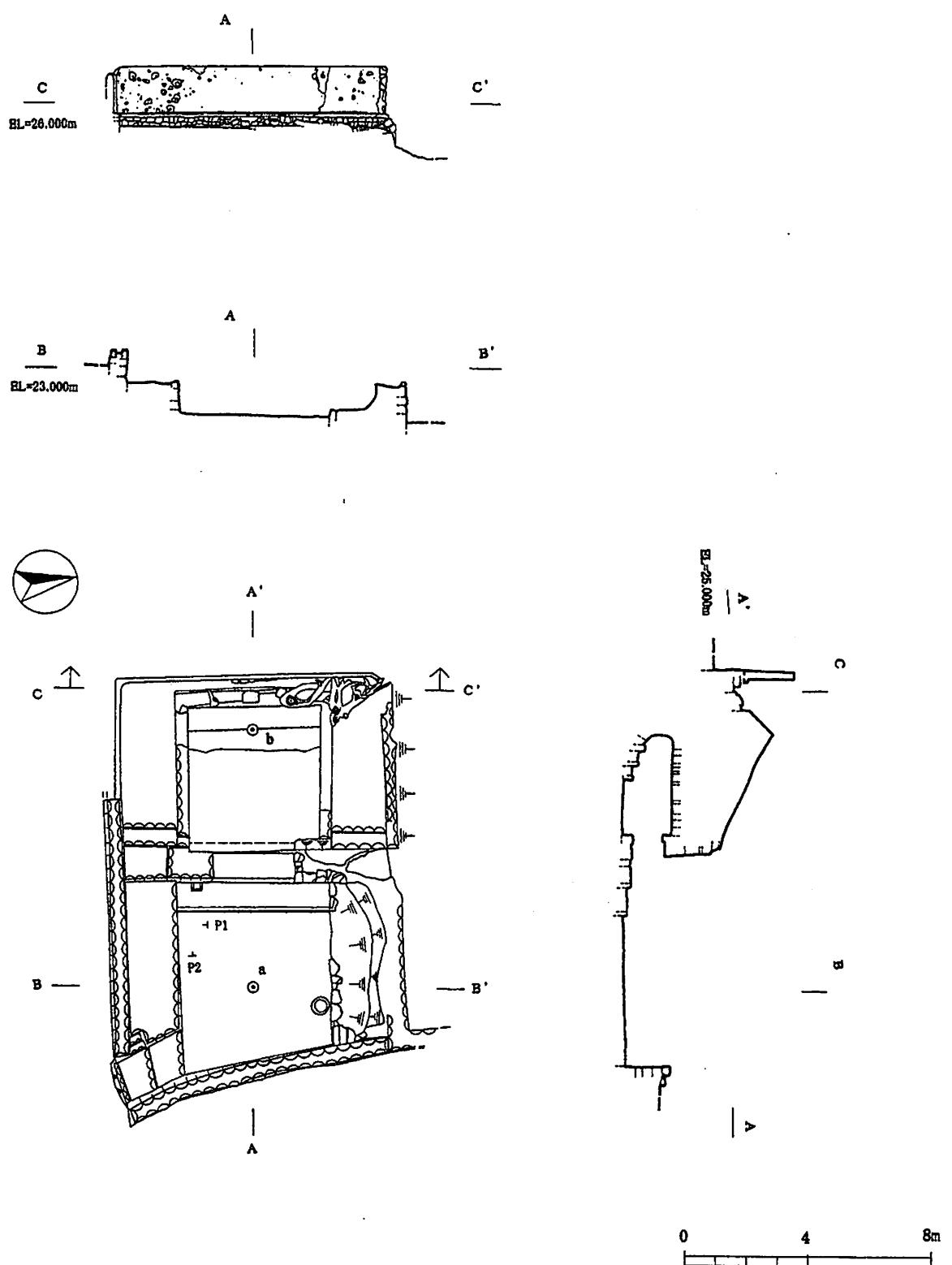
第9図 第4号墓 平面図・正面図・断面図

[S = 1 / 50]



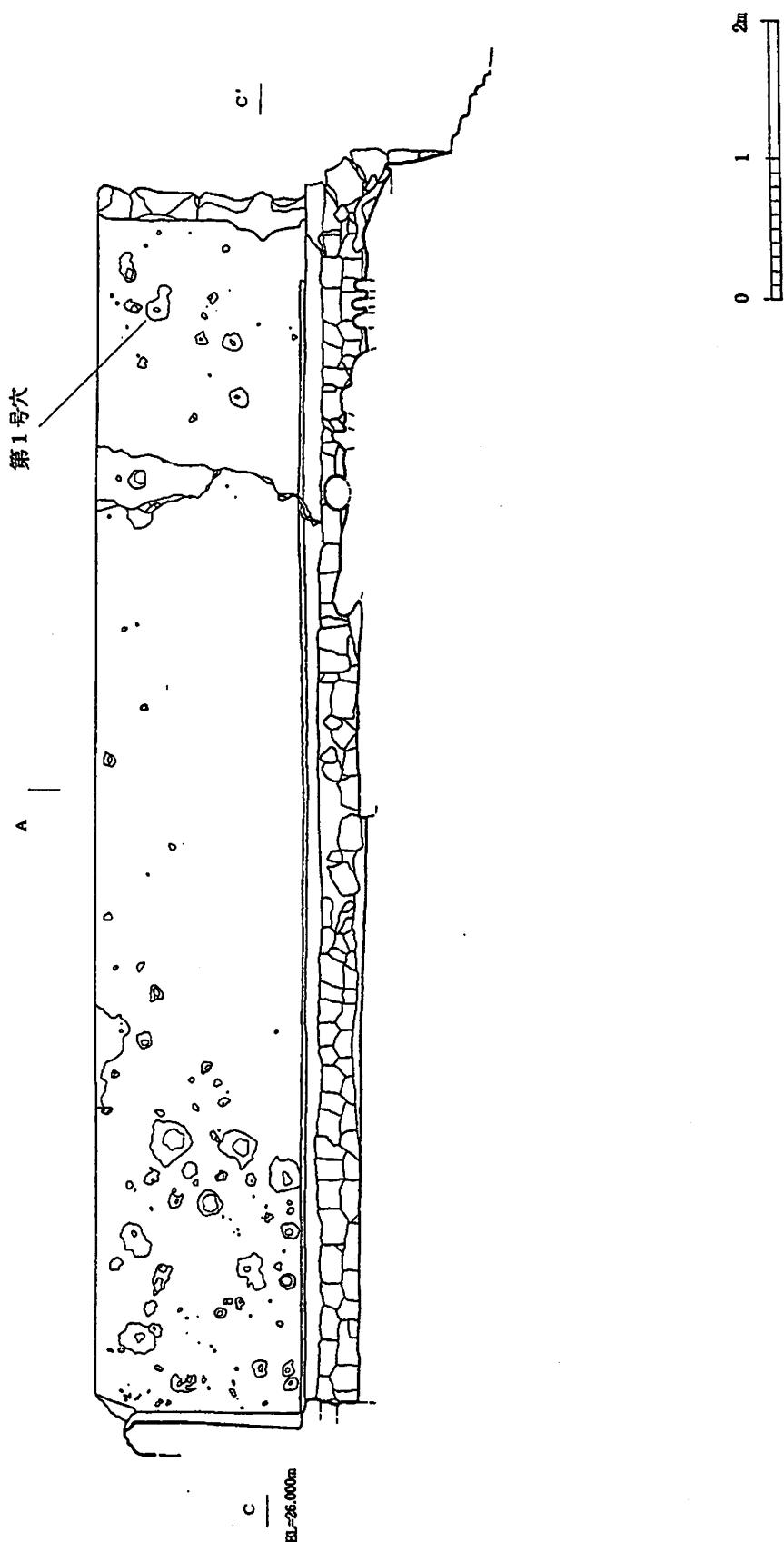
第10図 第6号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 100]



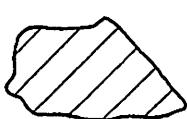
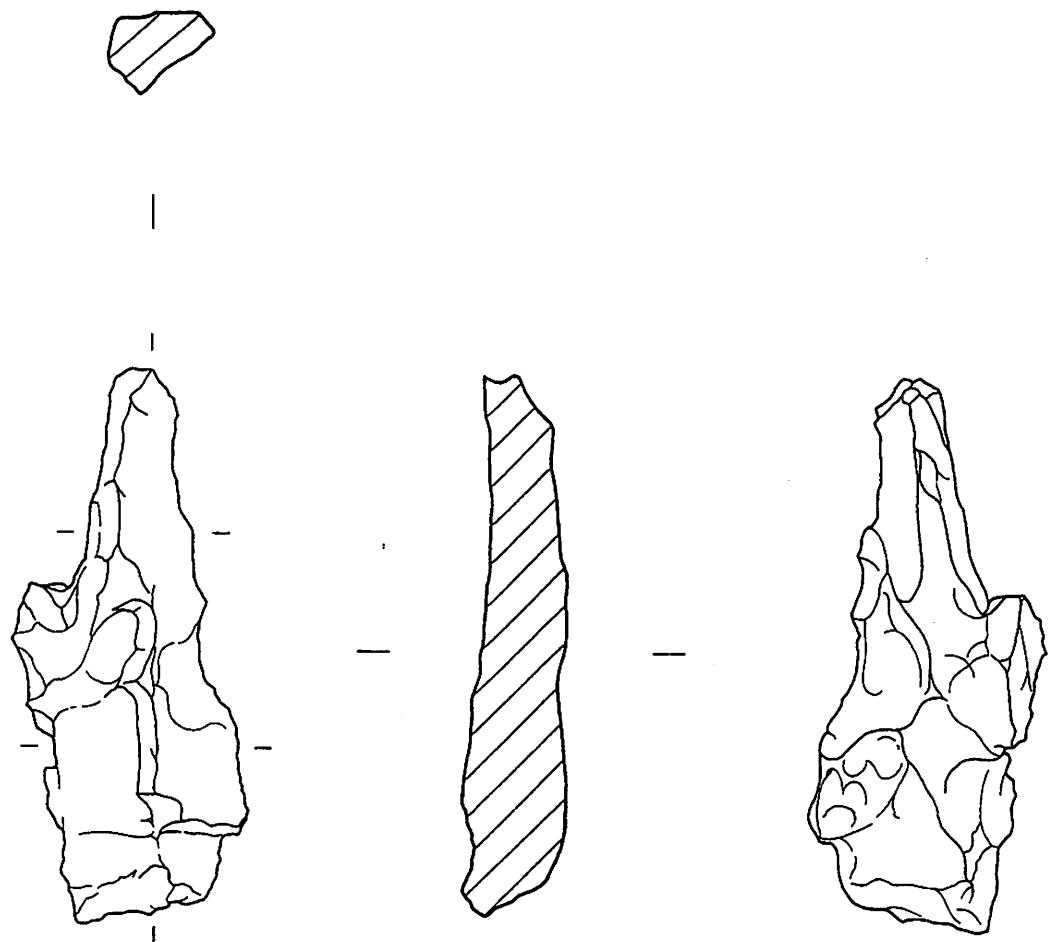
第11図 第7号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 200]



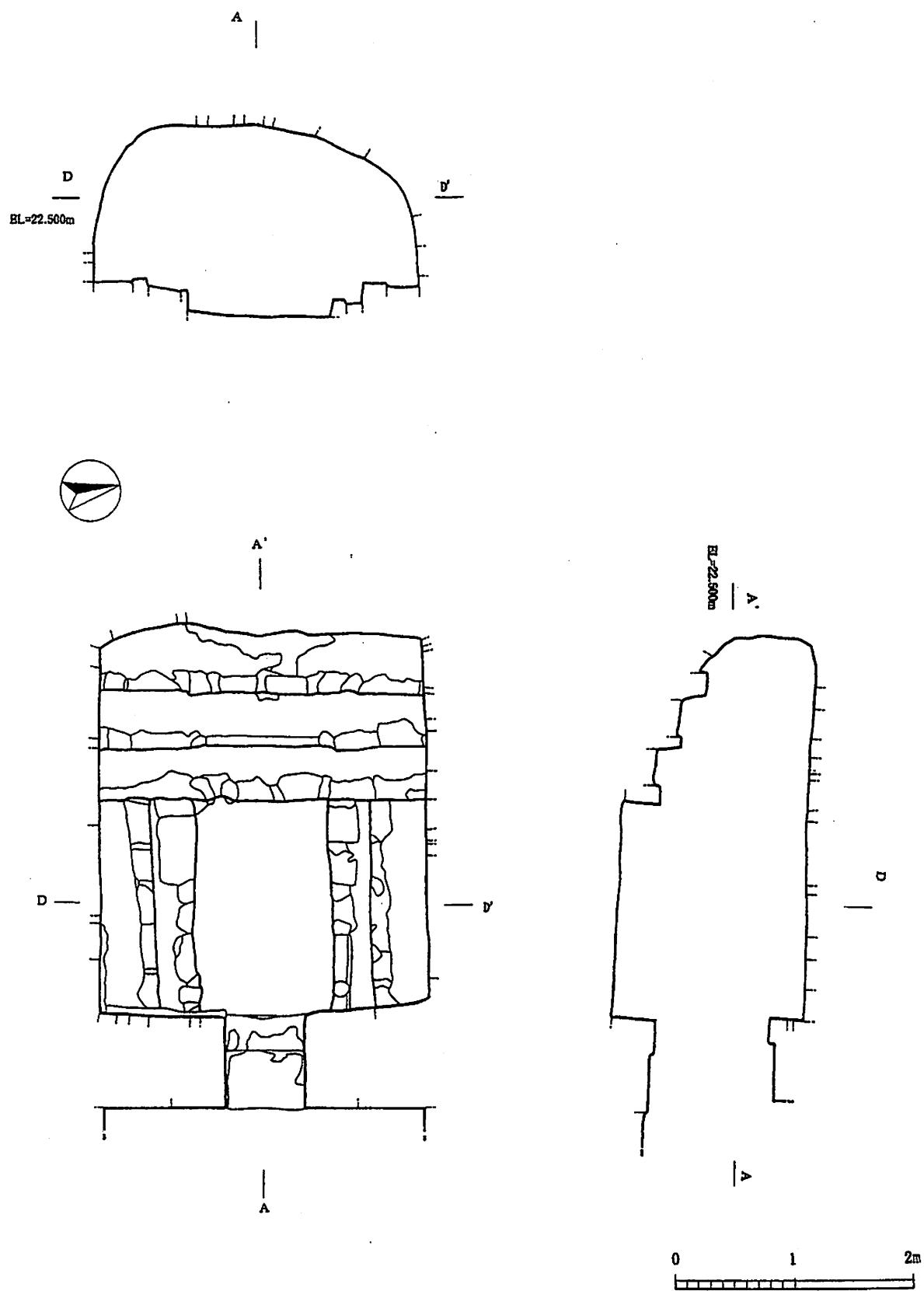
第12図 第7号墓 脳壁内面被弾状況 見通し図 (Cライン)

[S = 1 / 50]



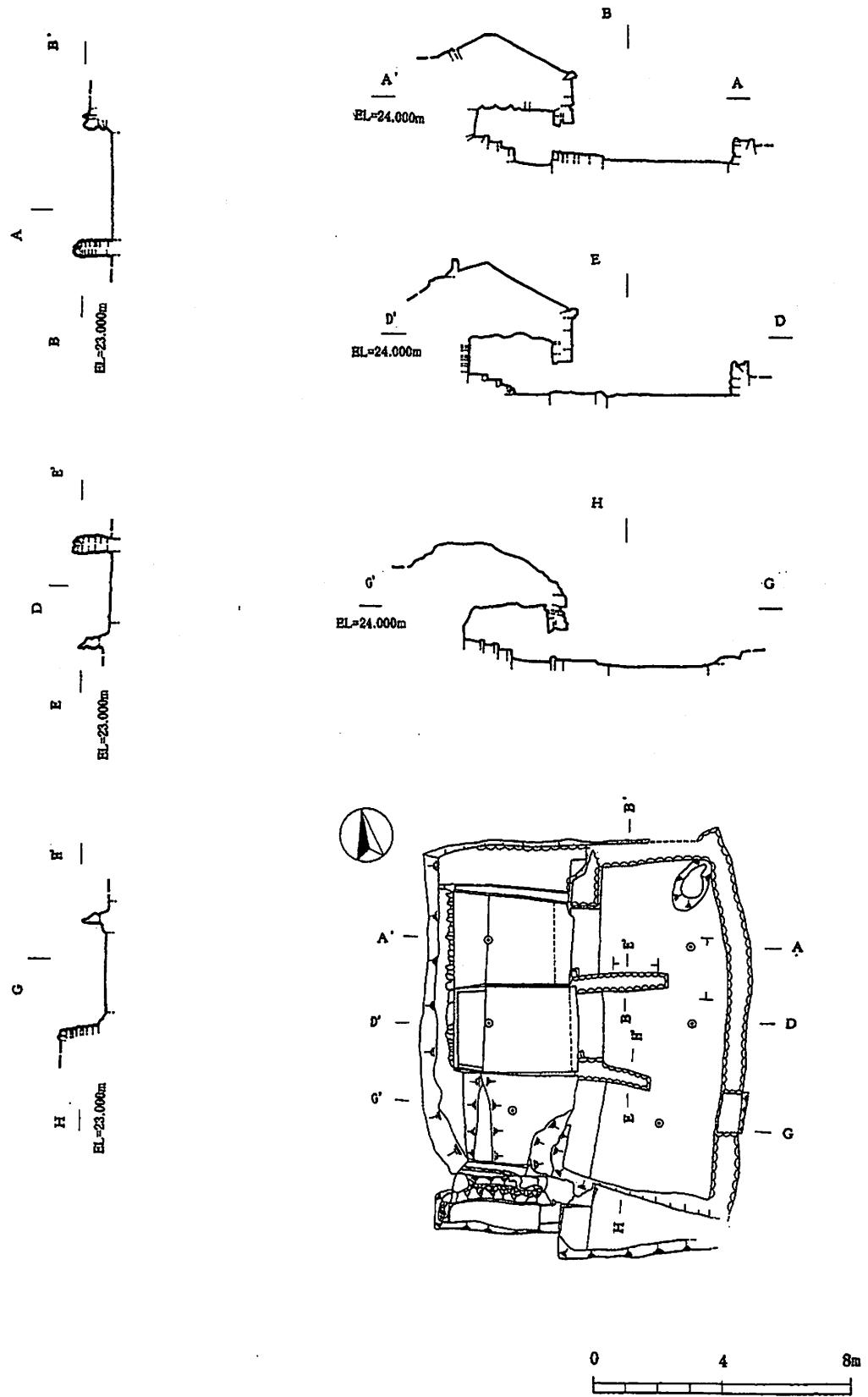
0 5cm

第13図 第7号墓 脣壁内面被弾痕跡（第1号穴）より採取した金属片 [原寸]



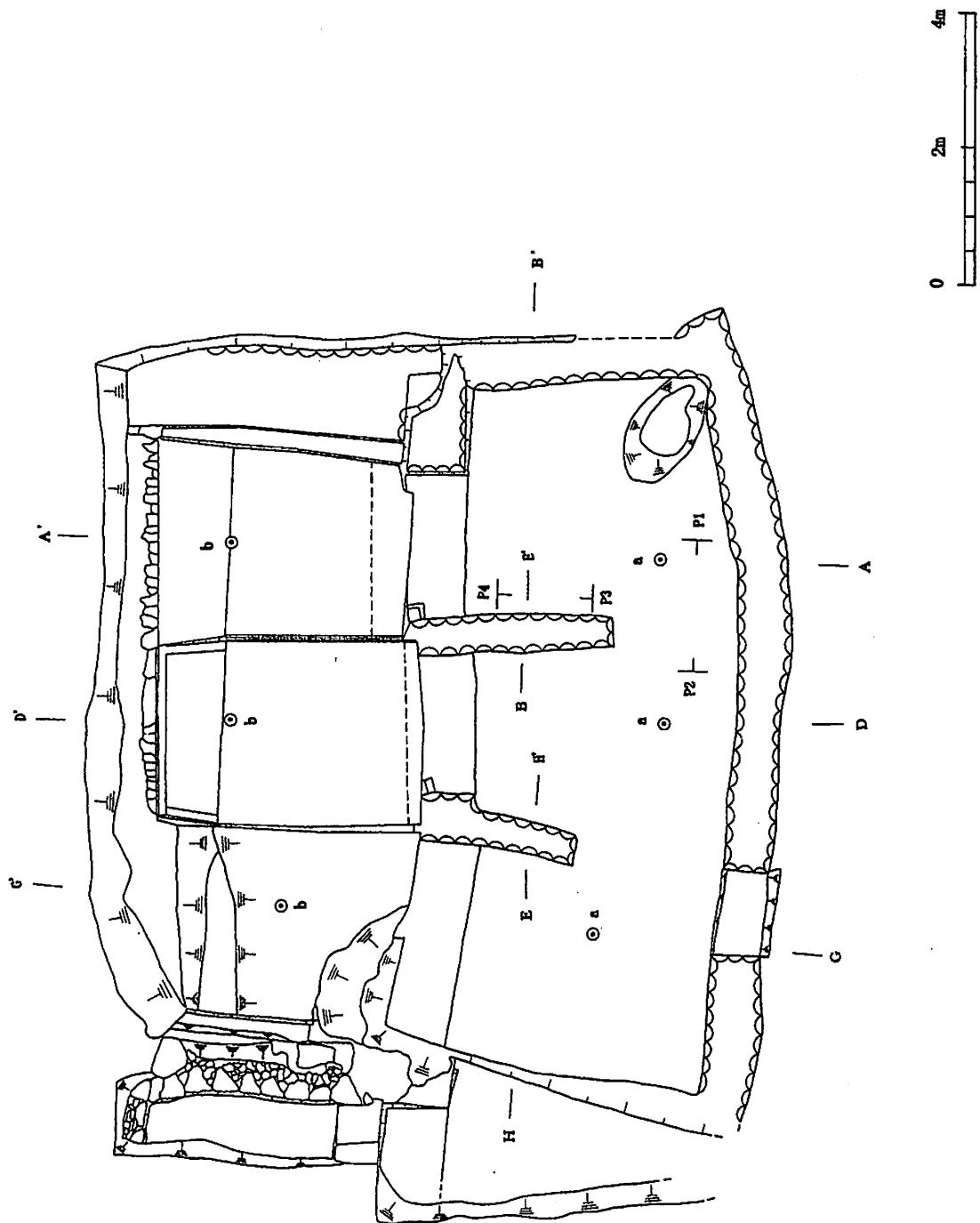
第14図 第7号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



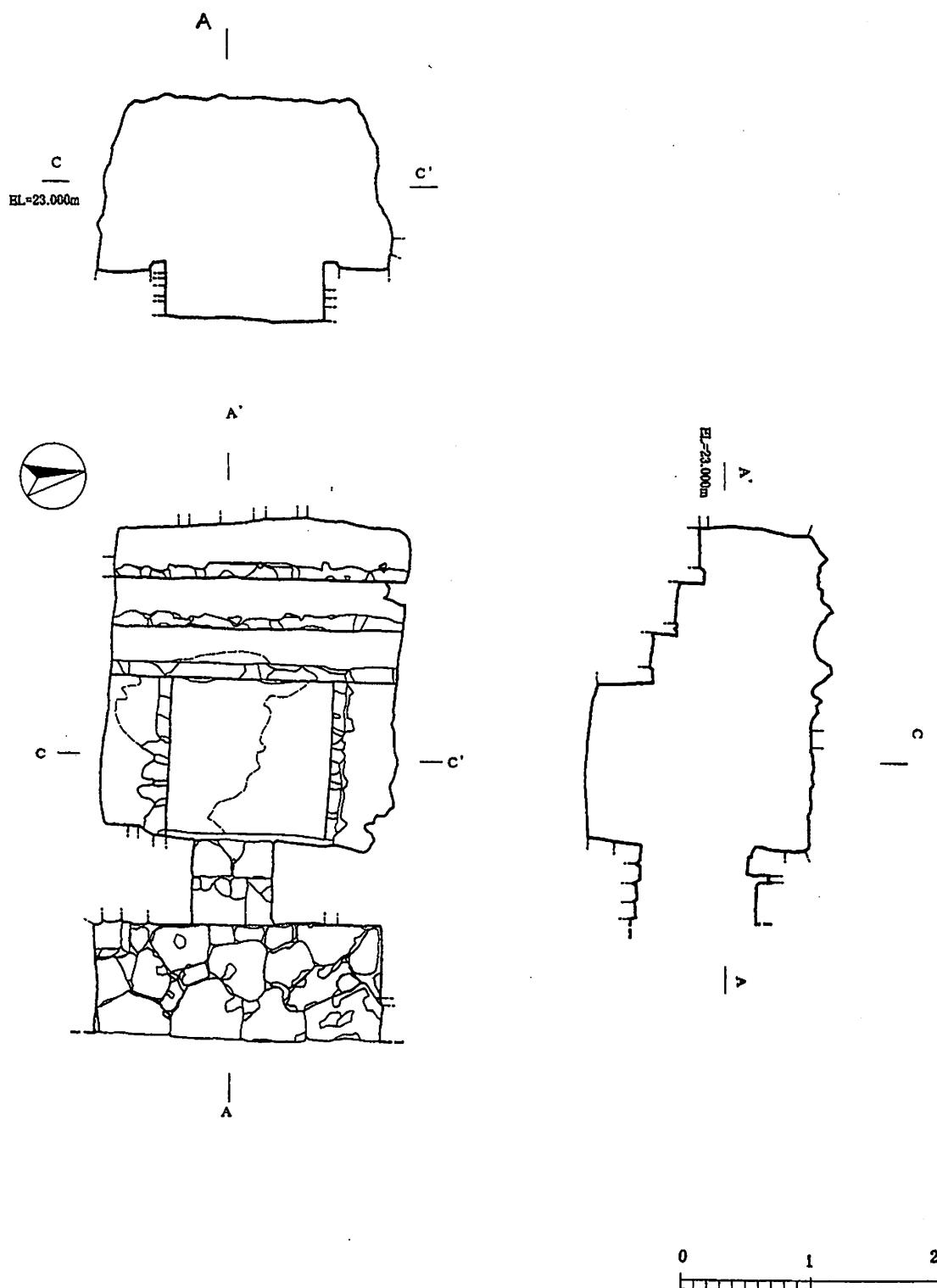
第15図 第8～10号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 200]



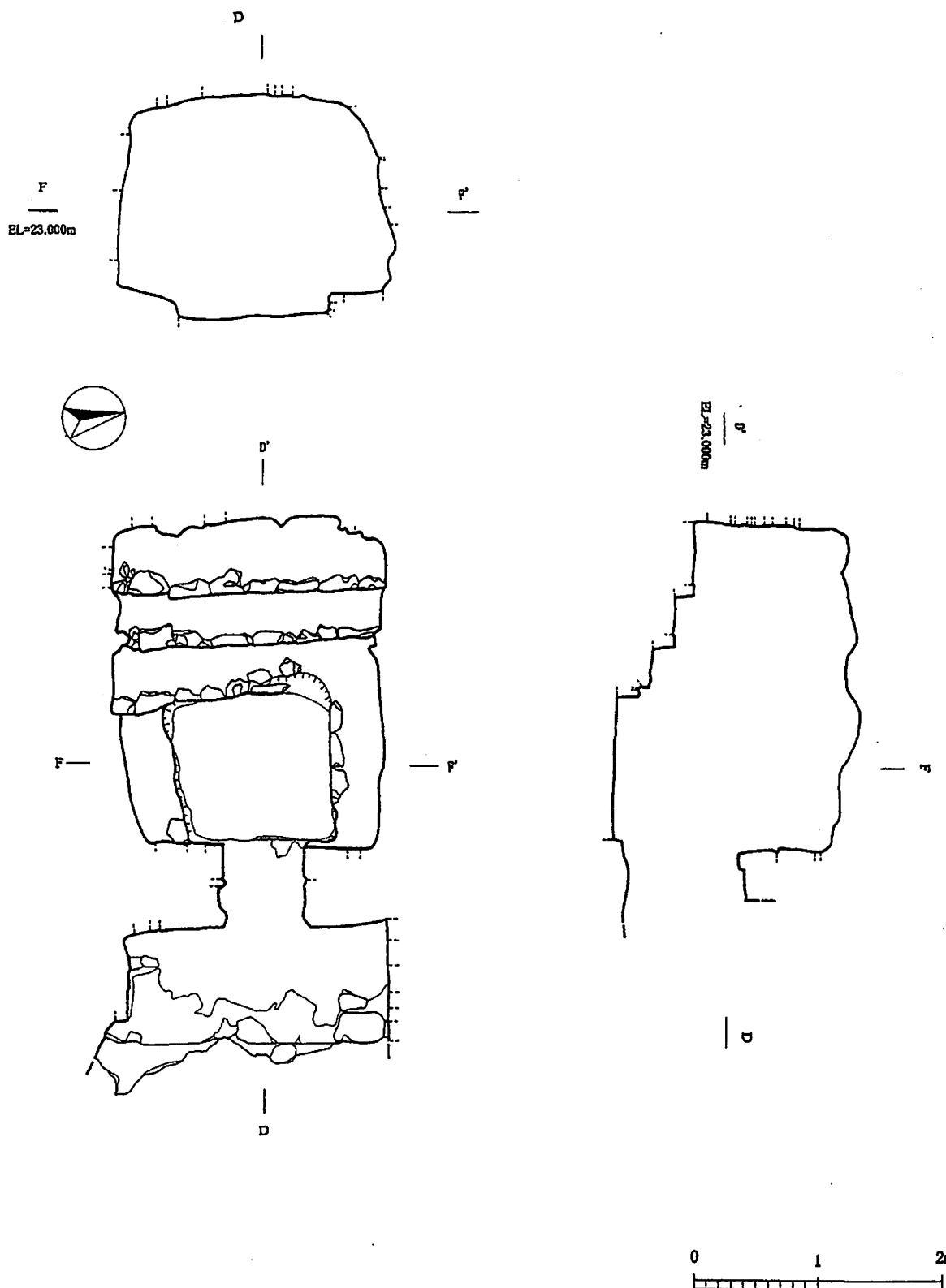
第16図 第8～10号墓 平面図

(S=1/100)



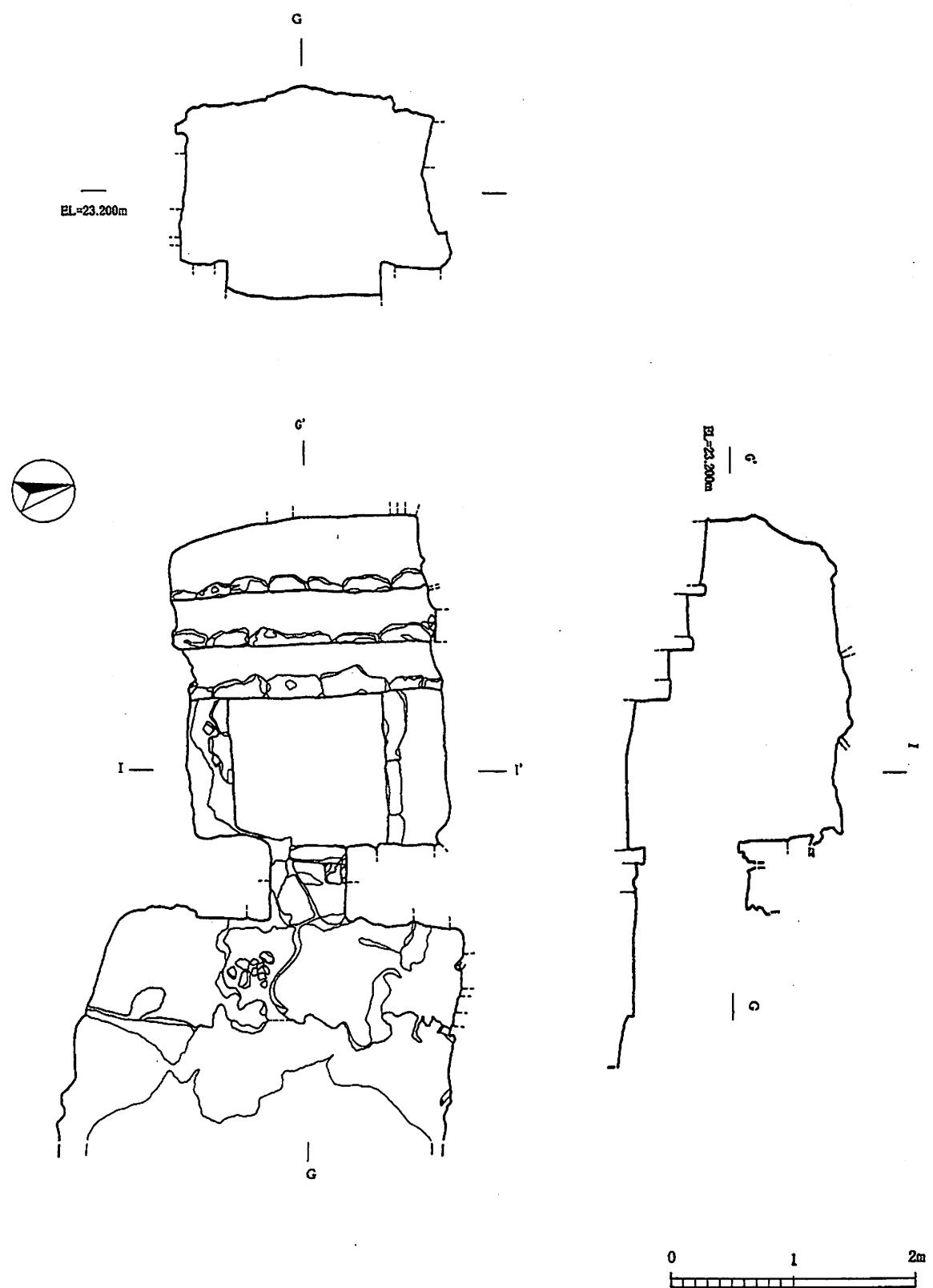
第17図 第8号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



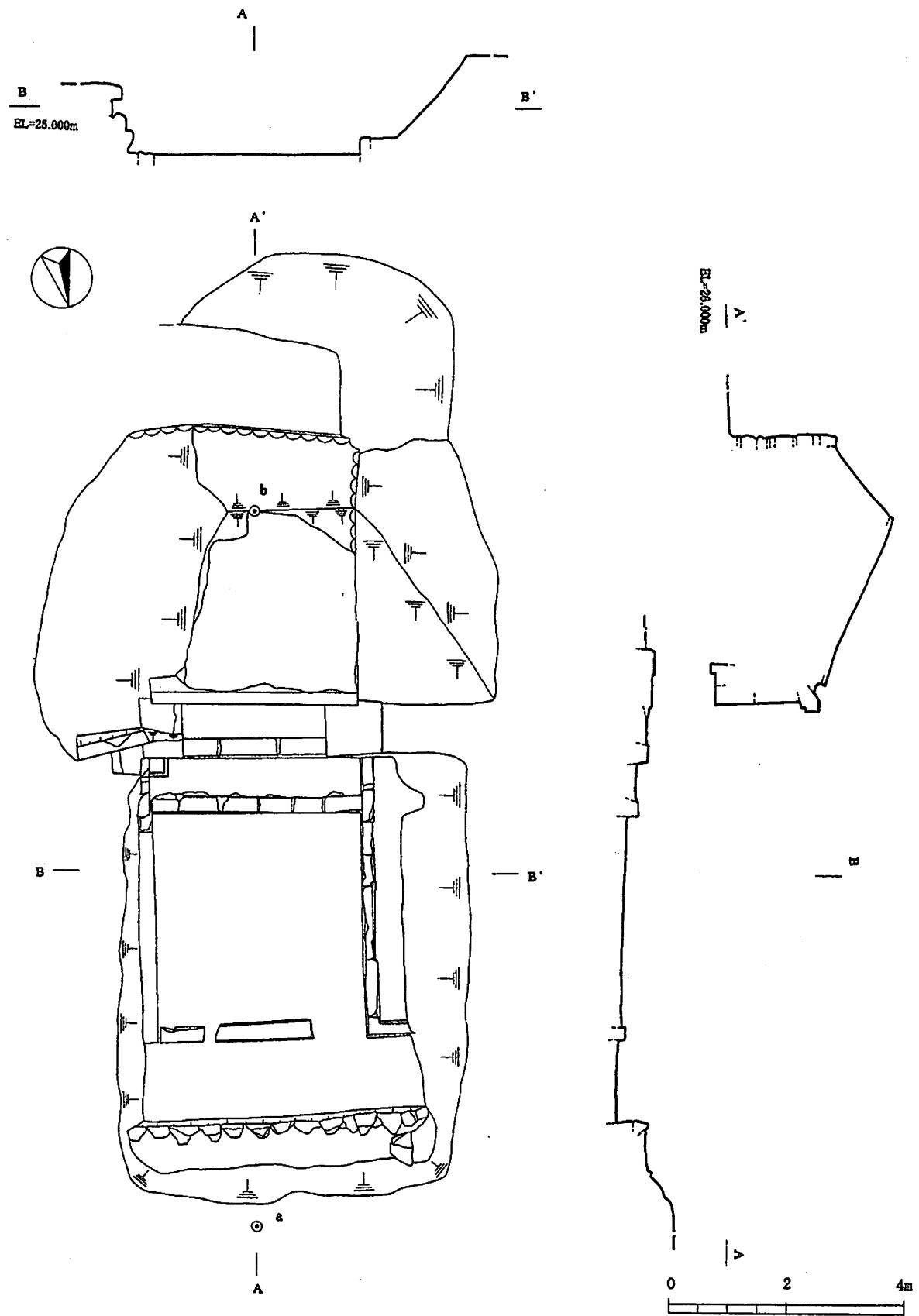
第18図 第9号墓 墓室 平面図・断面図

(S=1/50)



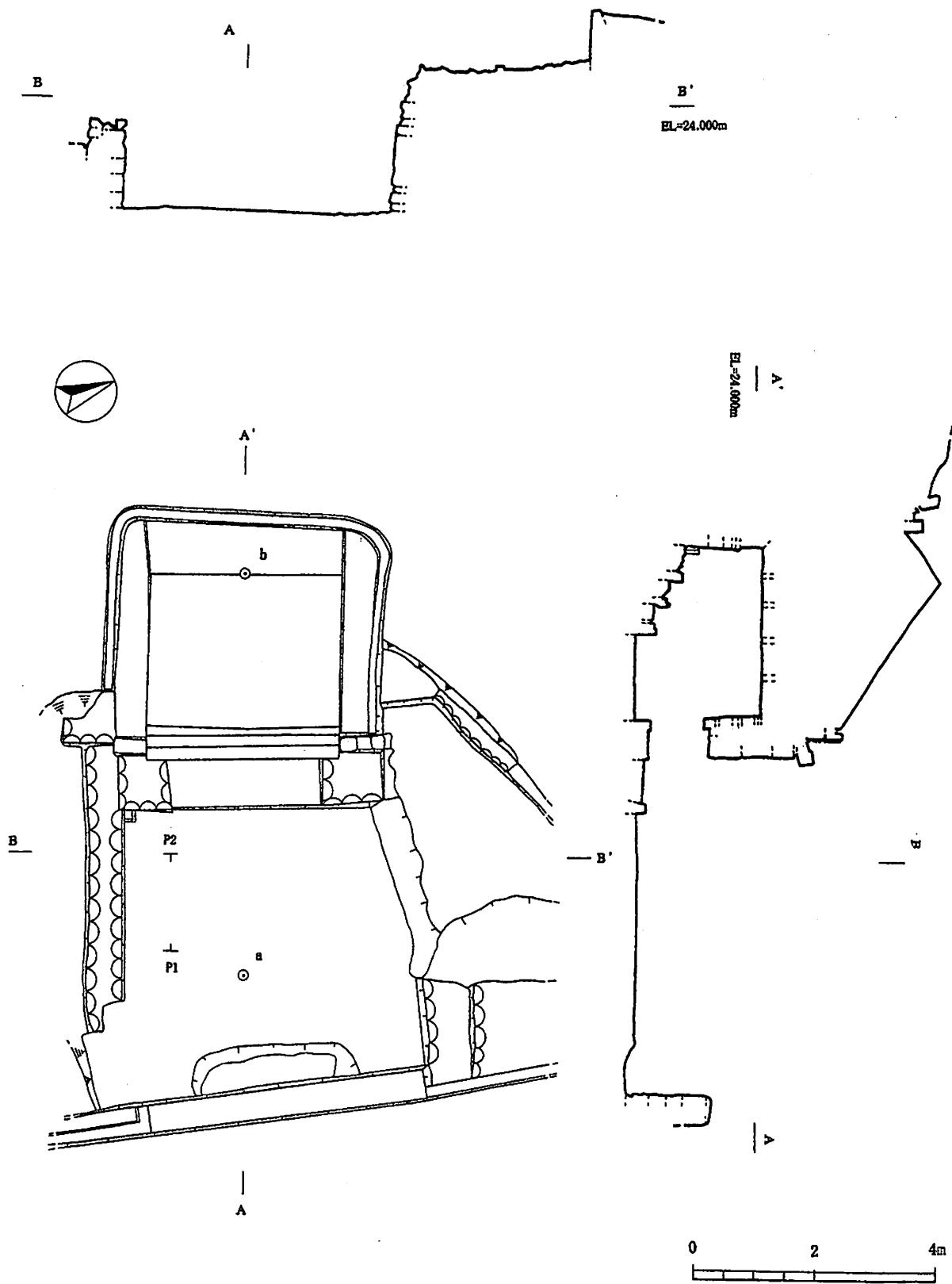
第19図 第10号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



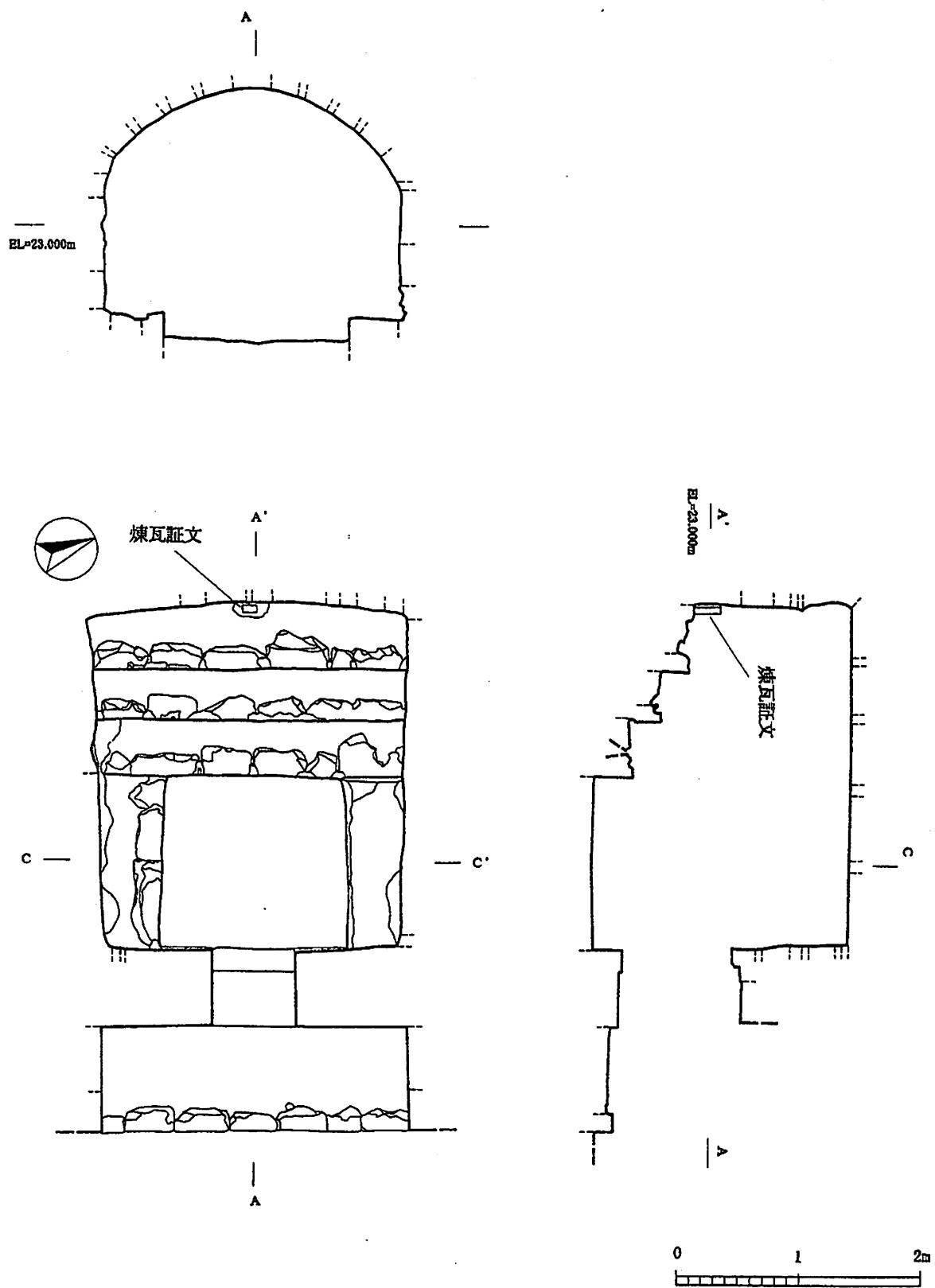
第20図 第11号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 100]



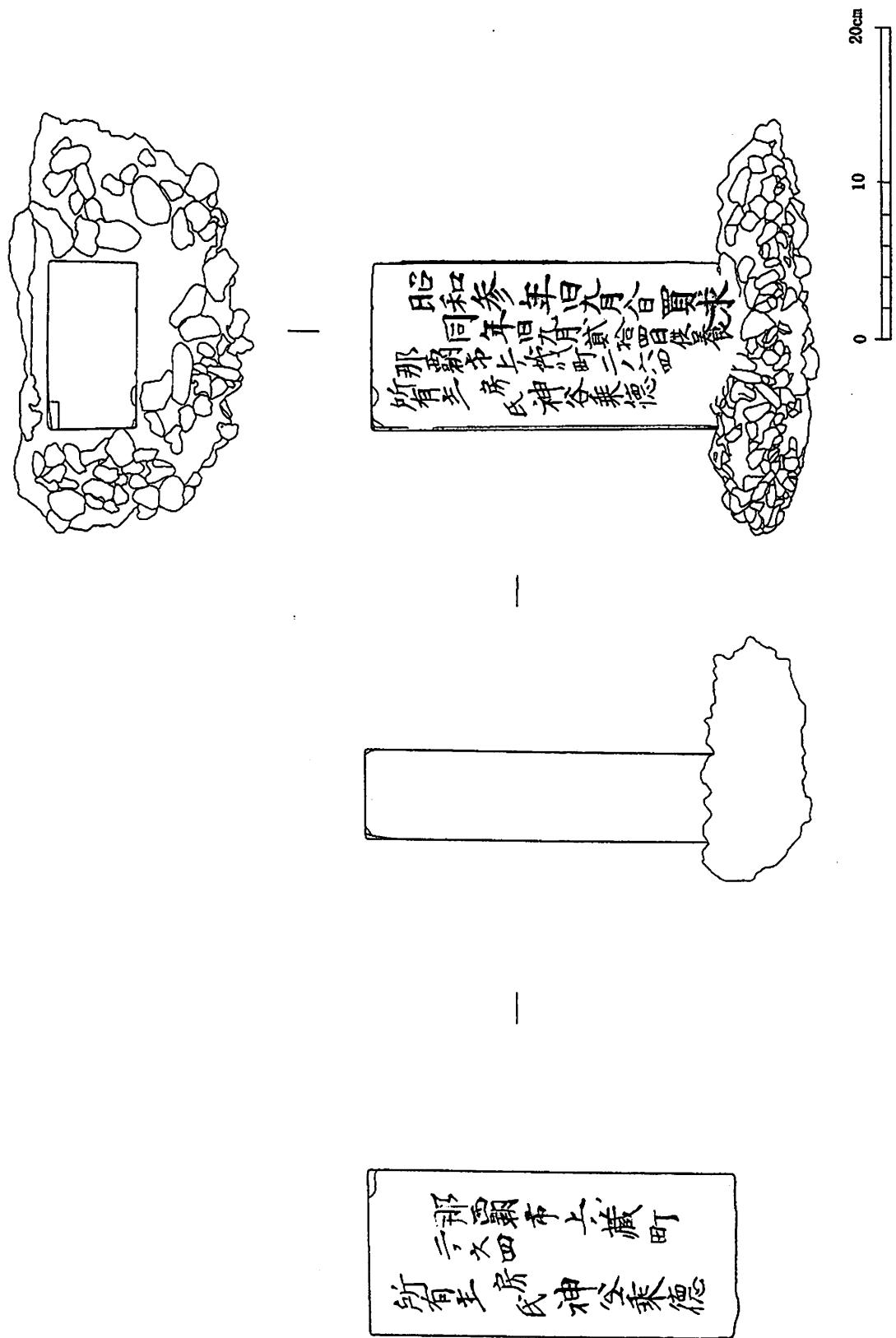
第21図 第12号墓 平面図・断面図

(S=1/100)



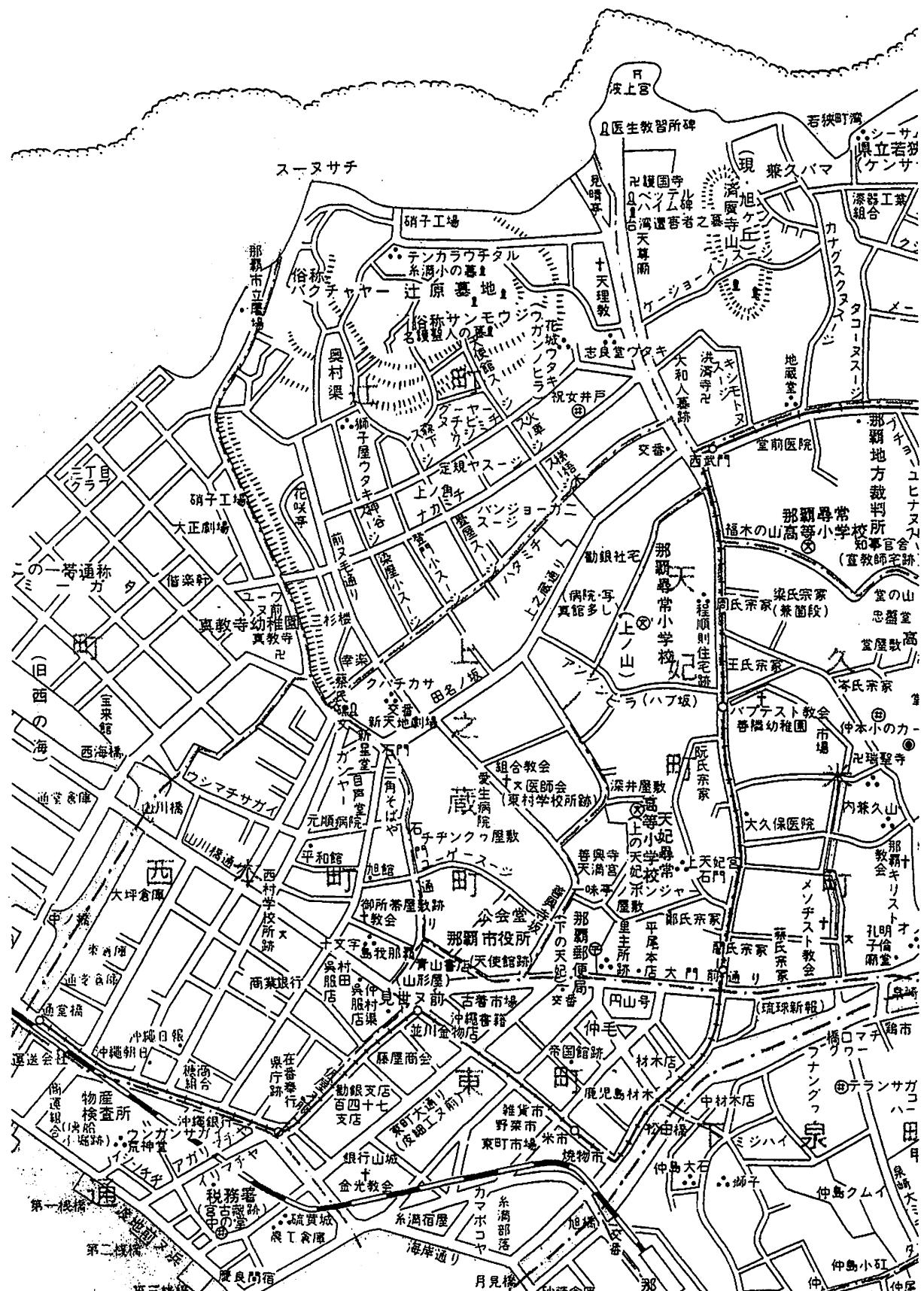
第22図 第12号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



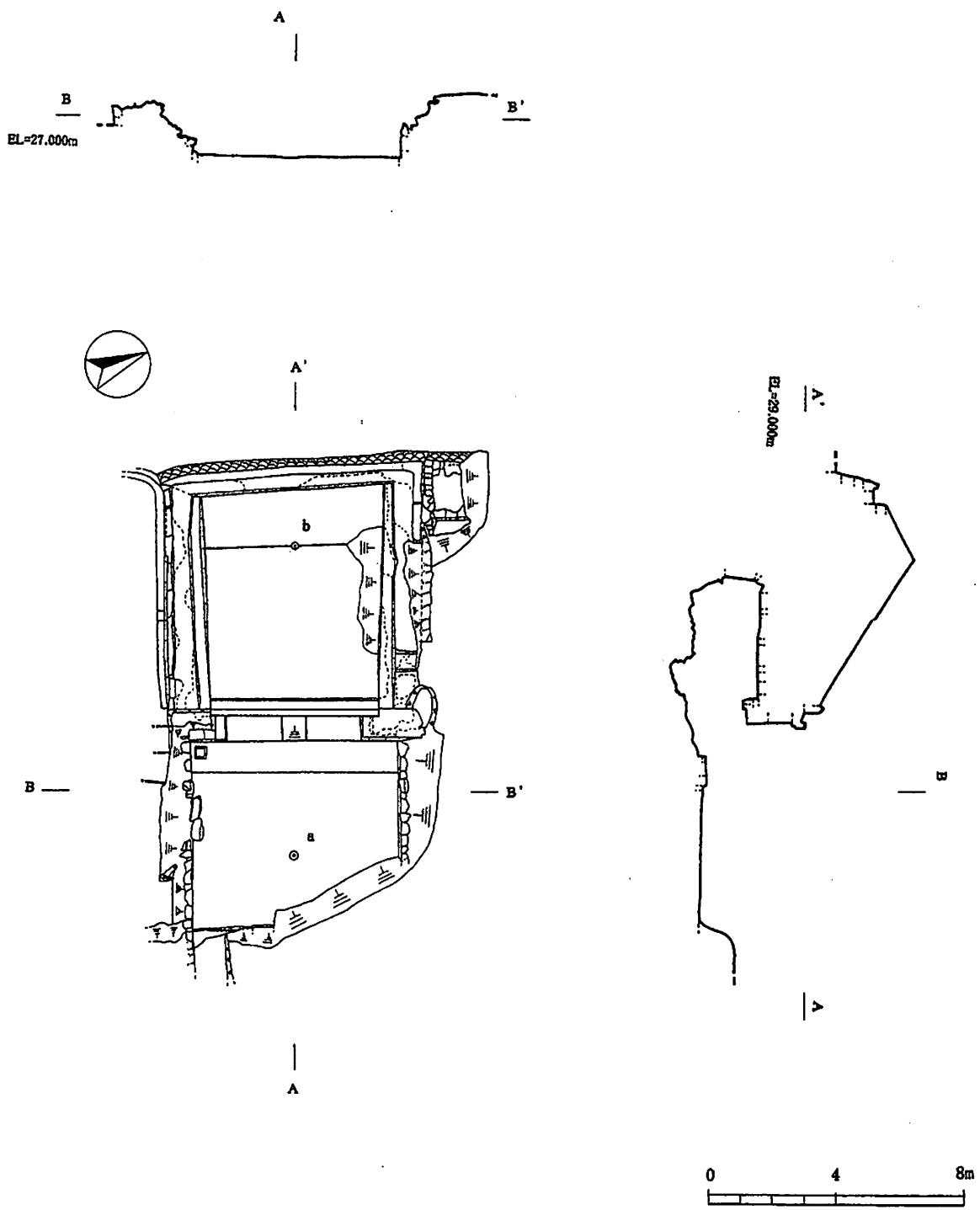
第23圖 第12号墓 煉瓦証文

(S = 1 / 4)



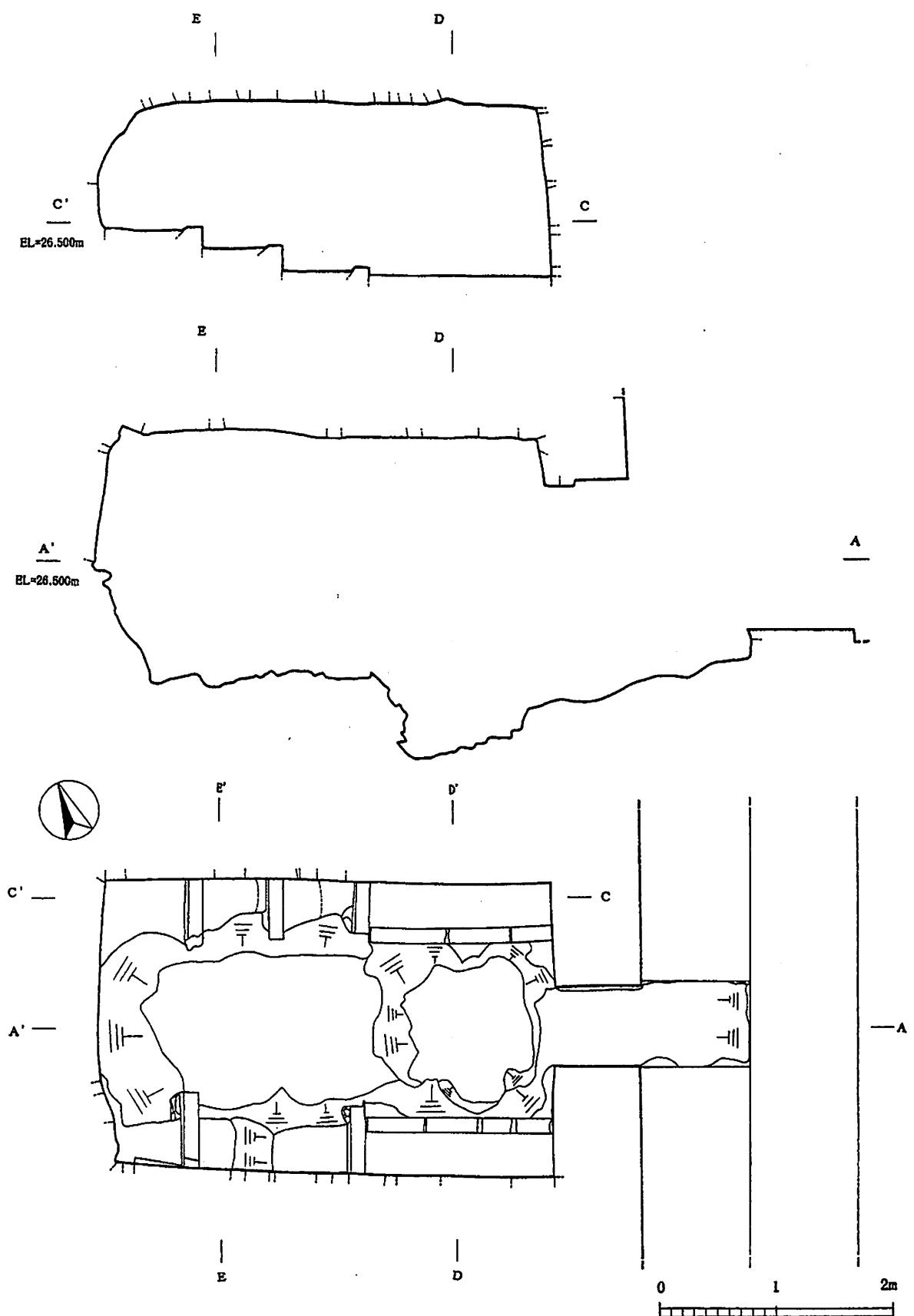
第24図 旧那覇の歴史・民俗地図

[S=1/5 200]



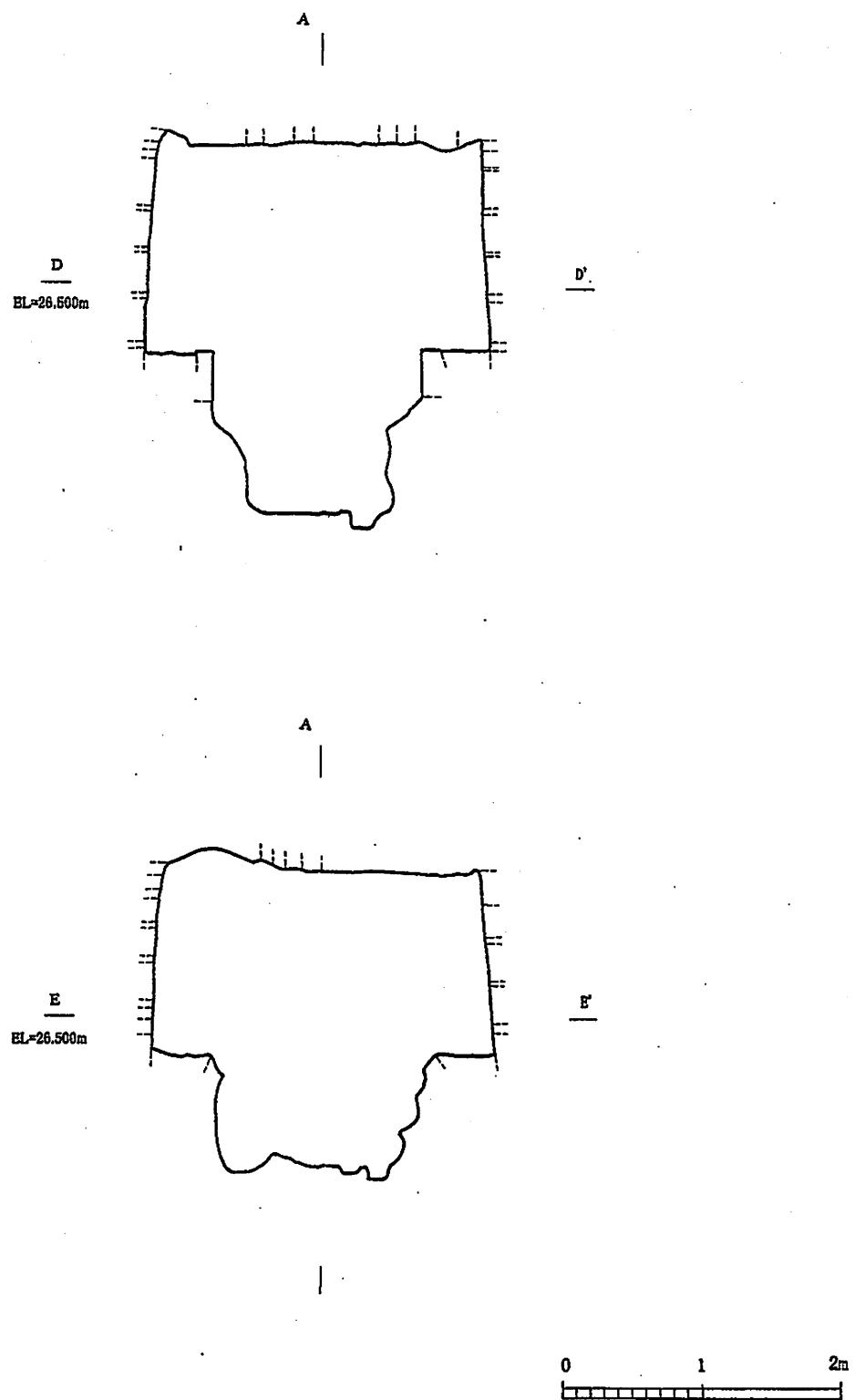
第25図 第13号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 200]



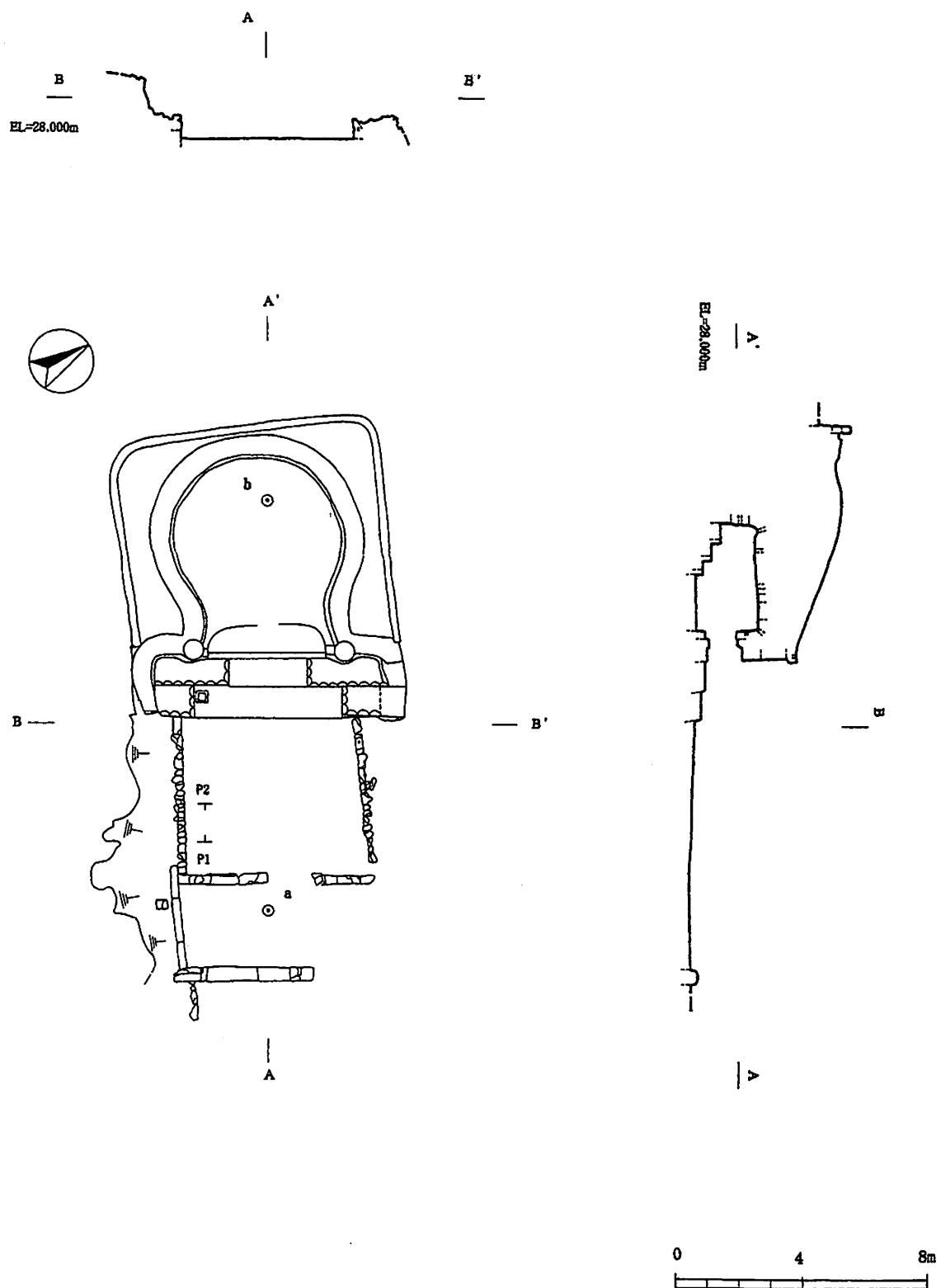
第26図 第13号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



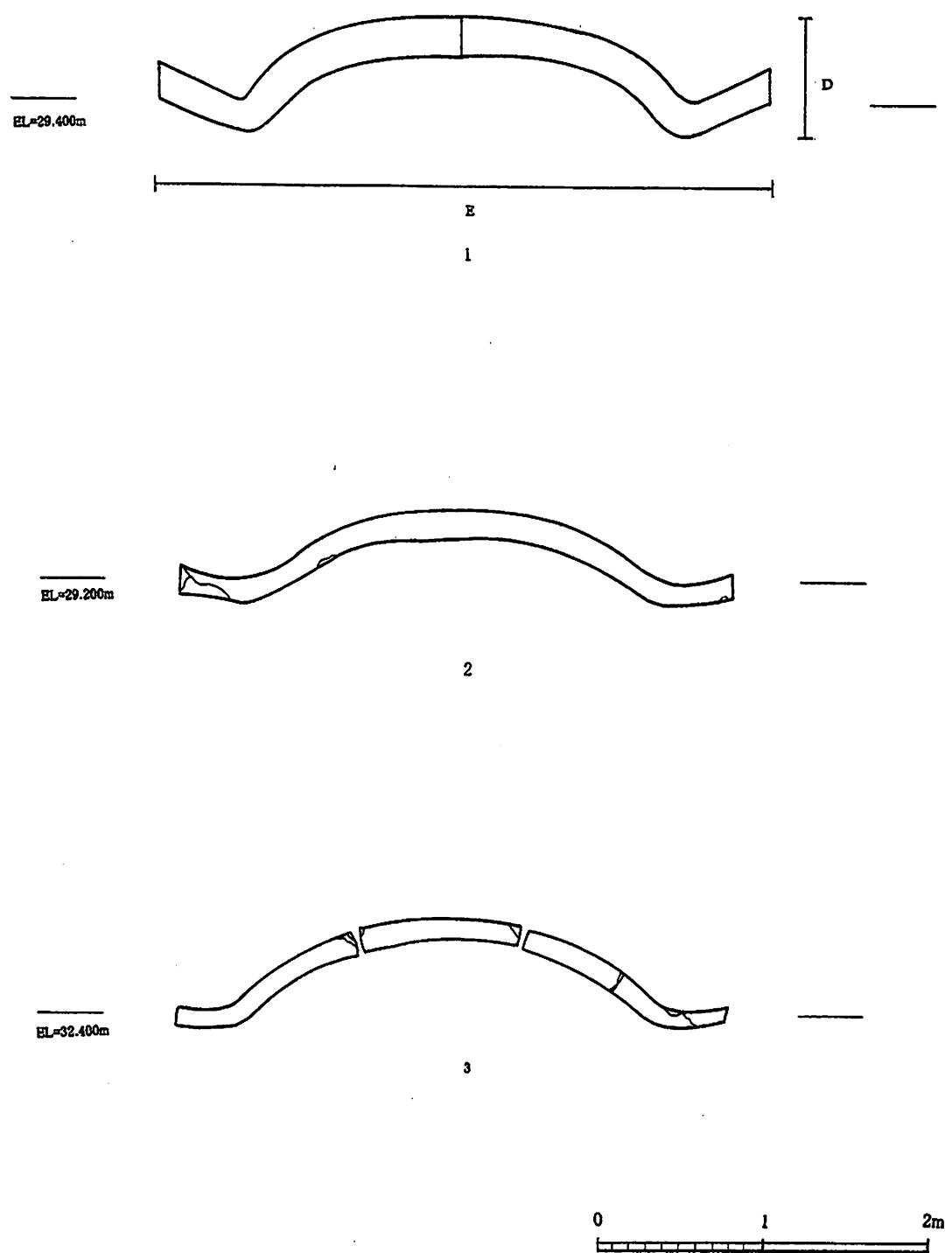
第27図 第13号墓 墓室 断面図

(S = 1 / 50)



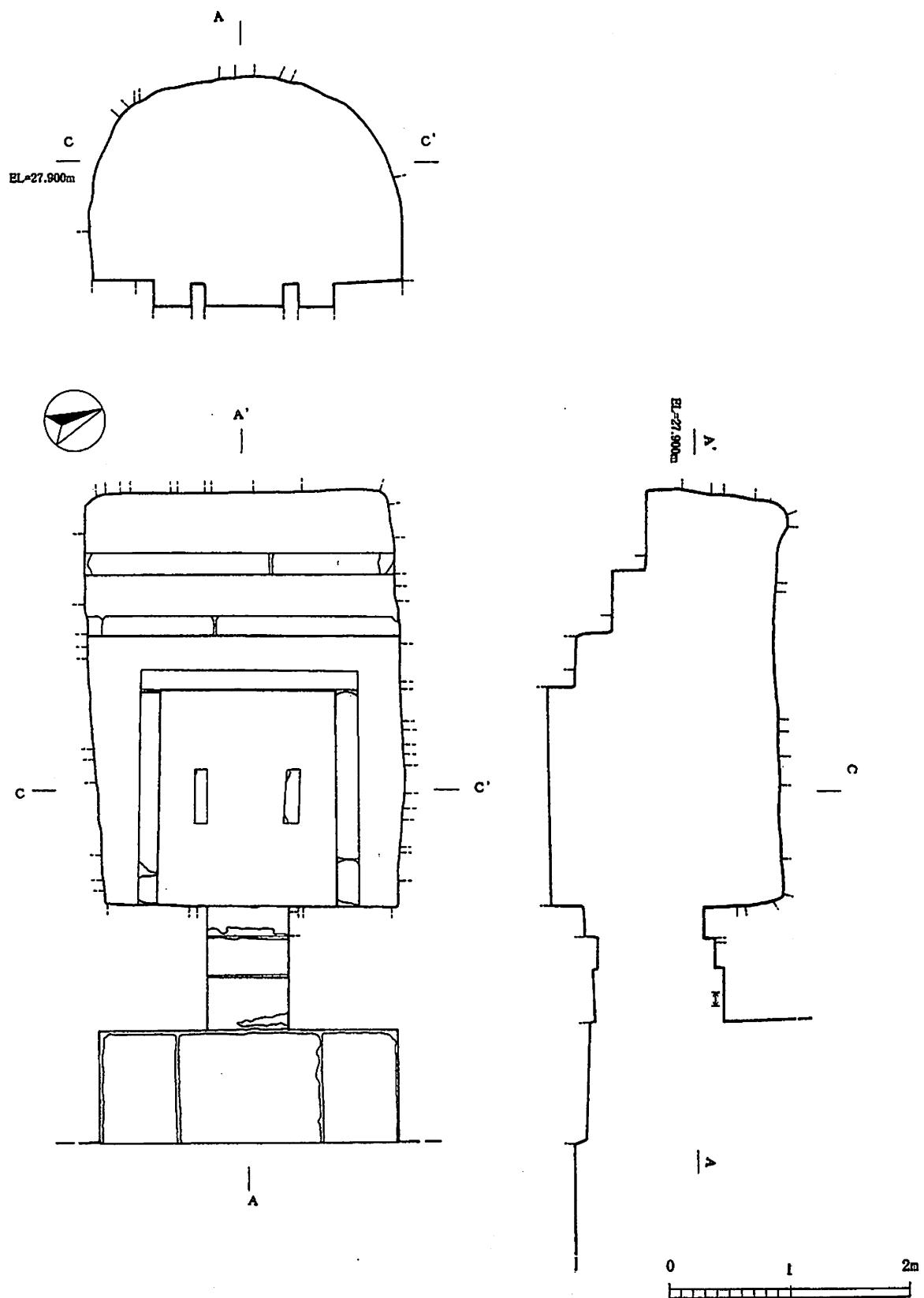
第28図 第14号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 200]



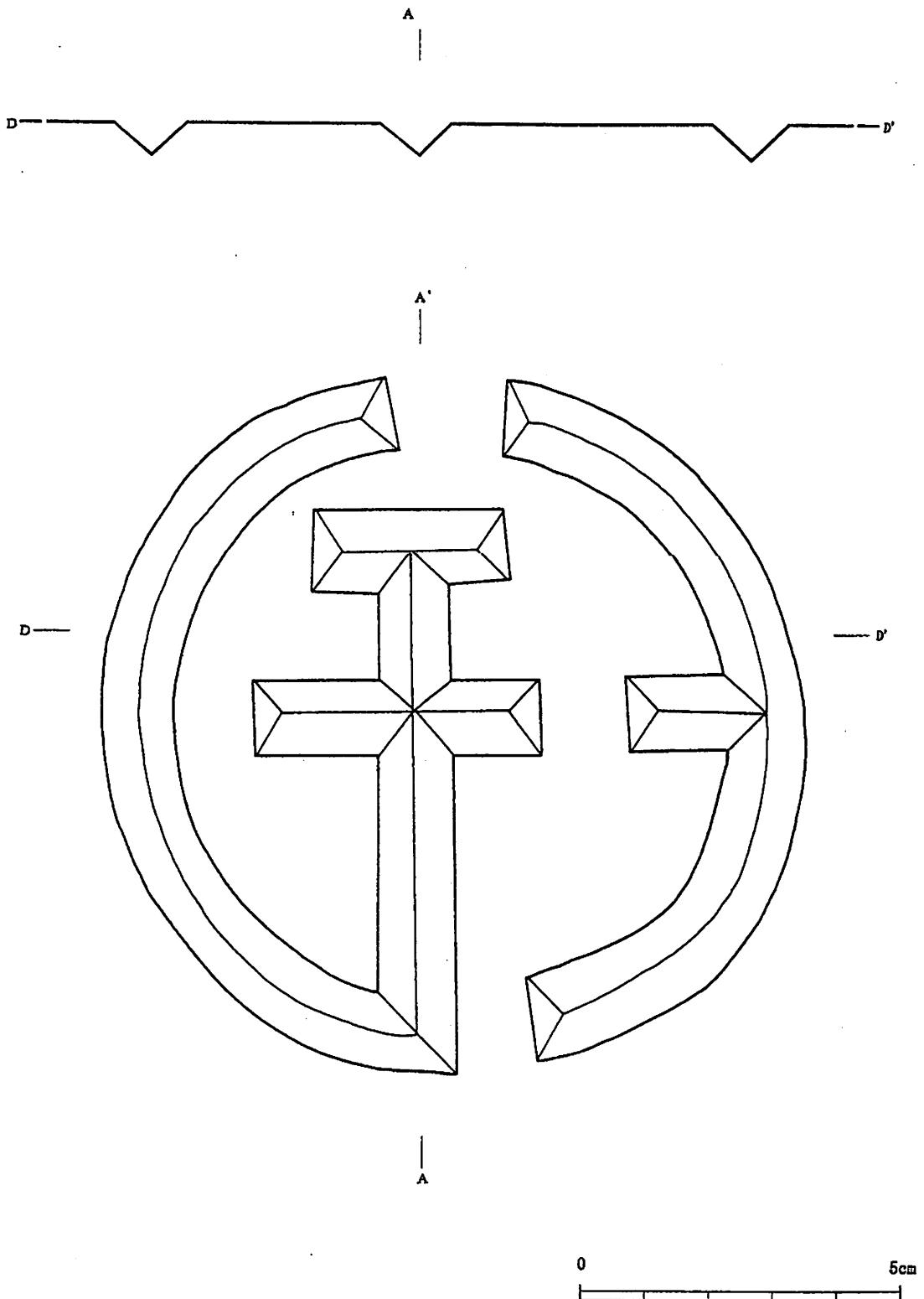
第29図 龜甲墓マユ部分正面図（第14・22・64号）

[S = 1 / 40]



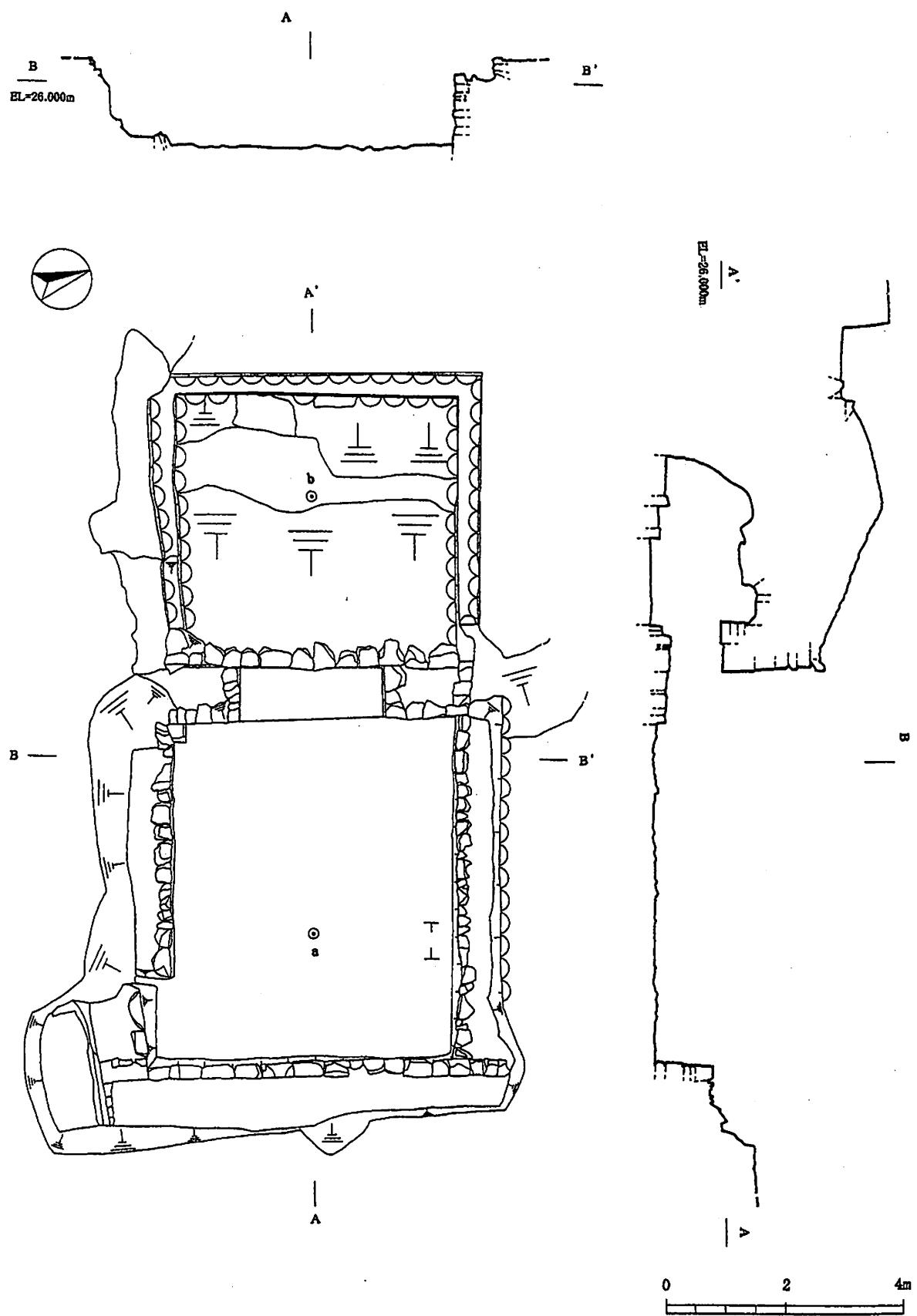
第30図 第14号墓 墓室 平面図・断面図

(S = 1 / 50)



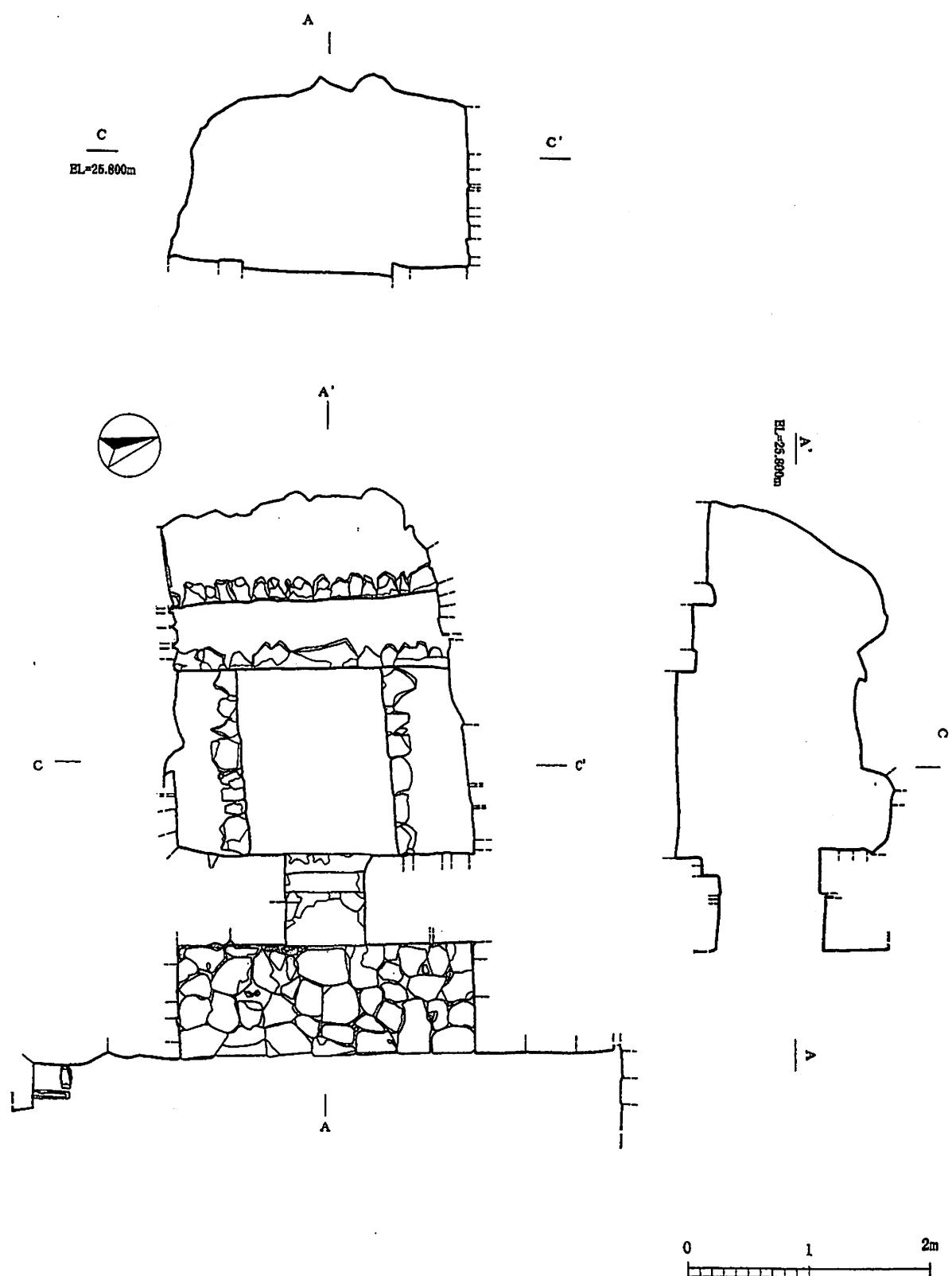
第31図 第14号墓 墓口上面より検出した刻印

(原寸)



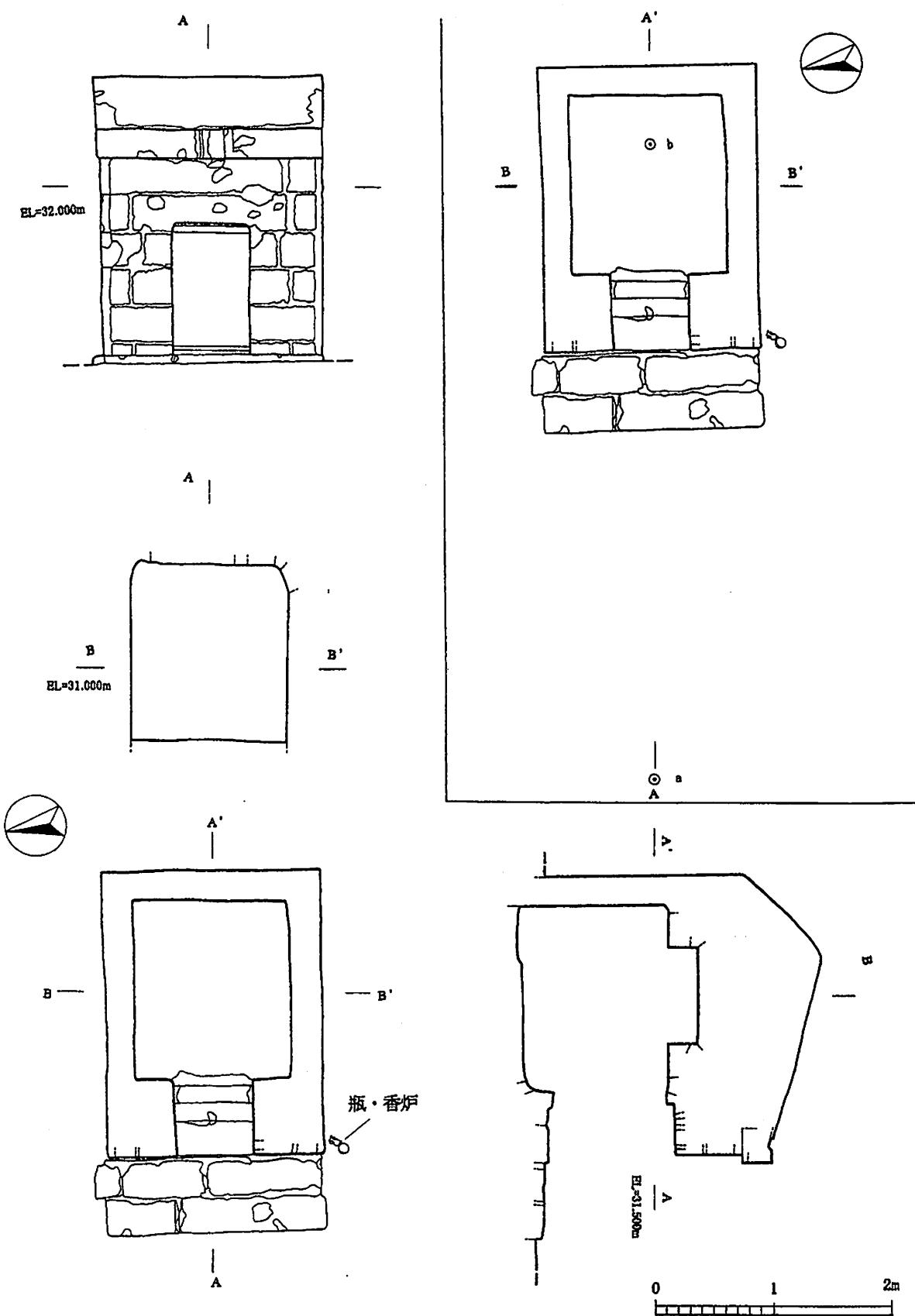
第32図 第18号墓 平面図・断面図

[S = 1 / 100]



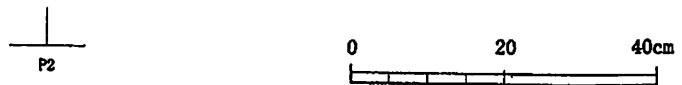
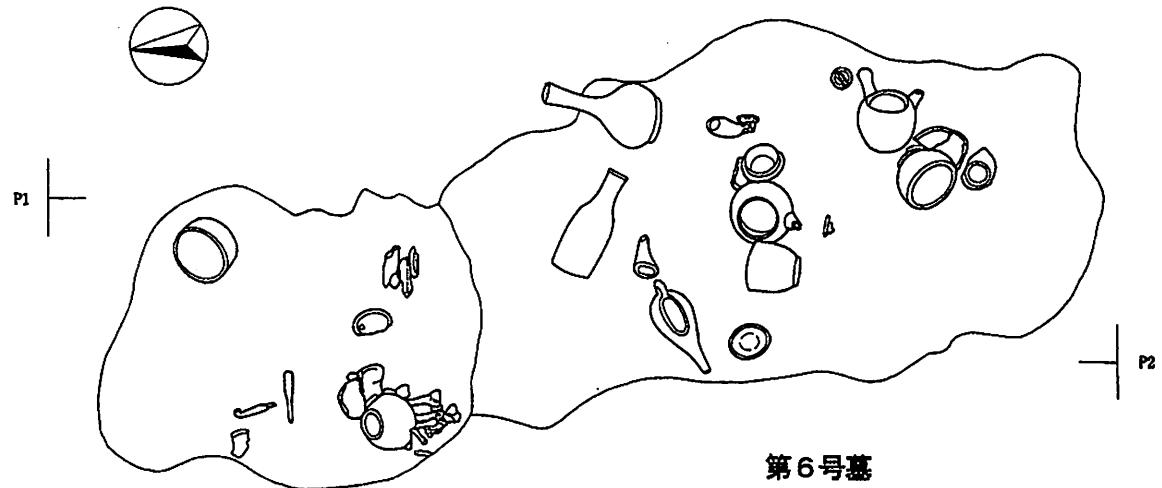
第33図 第18号墓 墓室 平面図・断面図

[S = 1 / 50]



第34図 第23号墓 平面図・正面図・断面図

[S = 1 / 50]



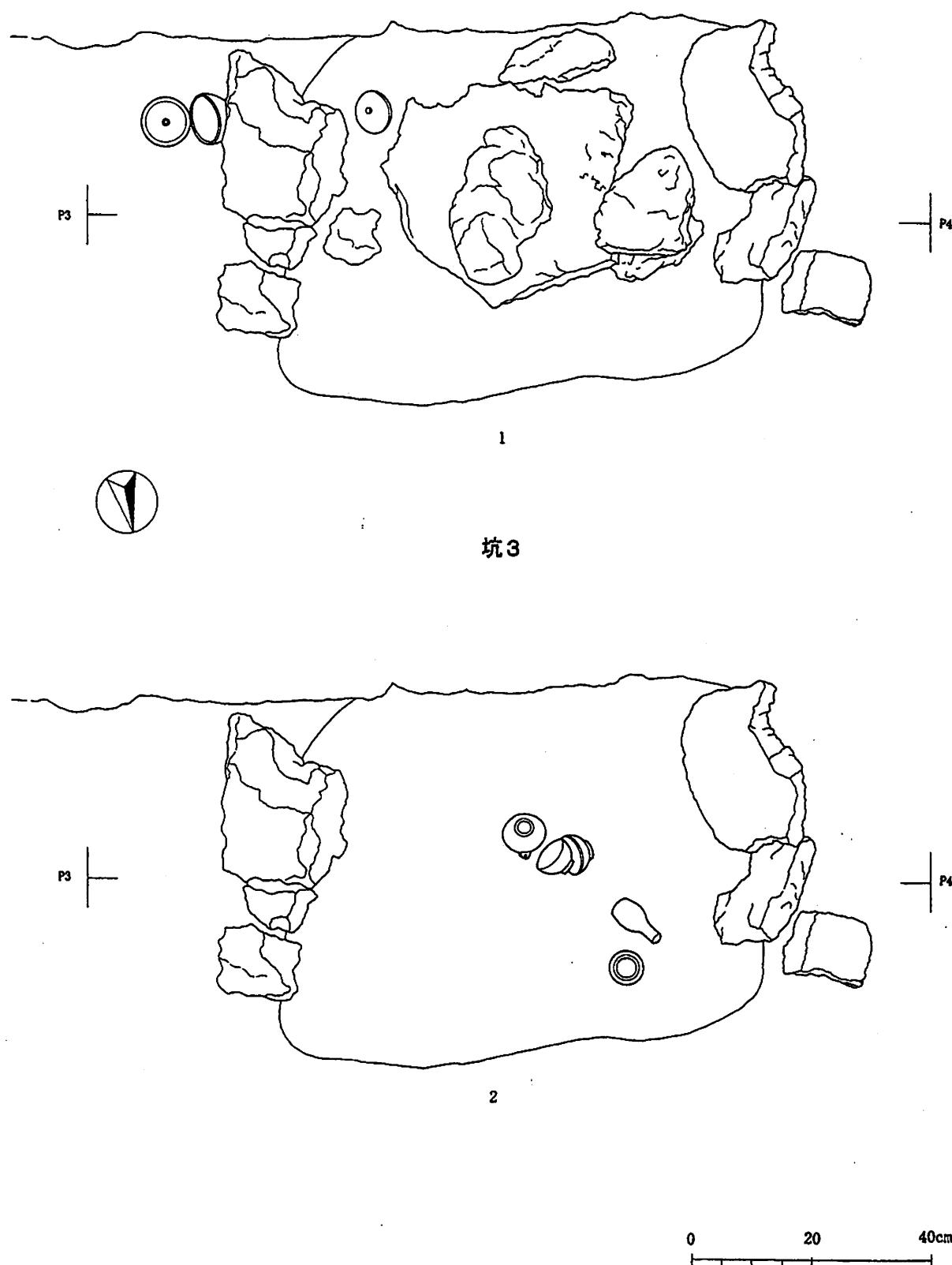
第35圖 第6、7号墓 墓庭坑内遺物検出状況

[S = 1 / 10]



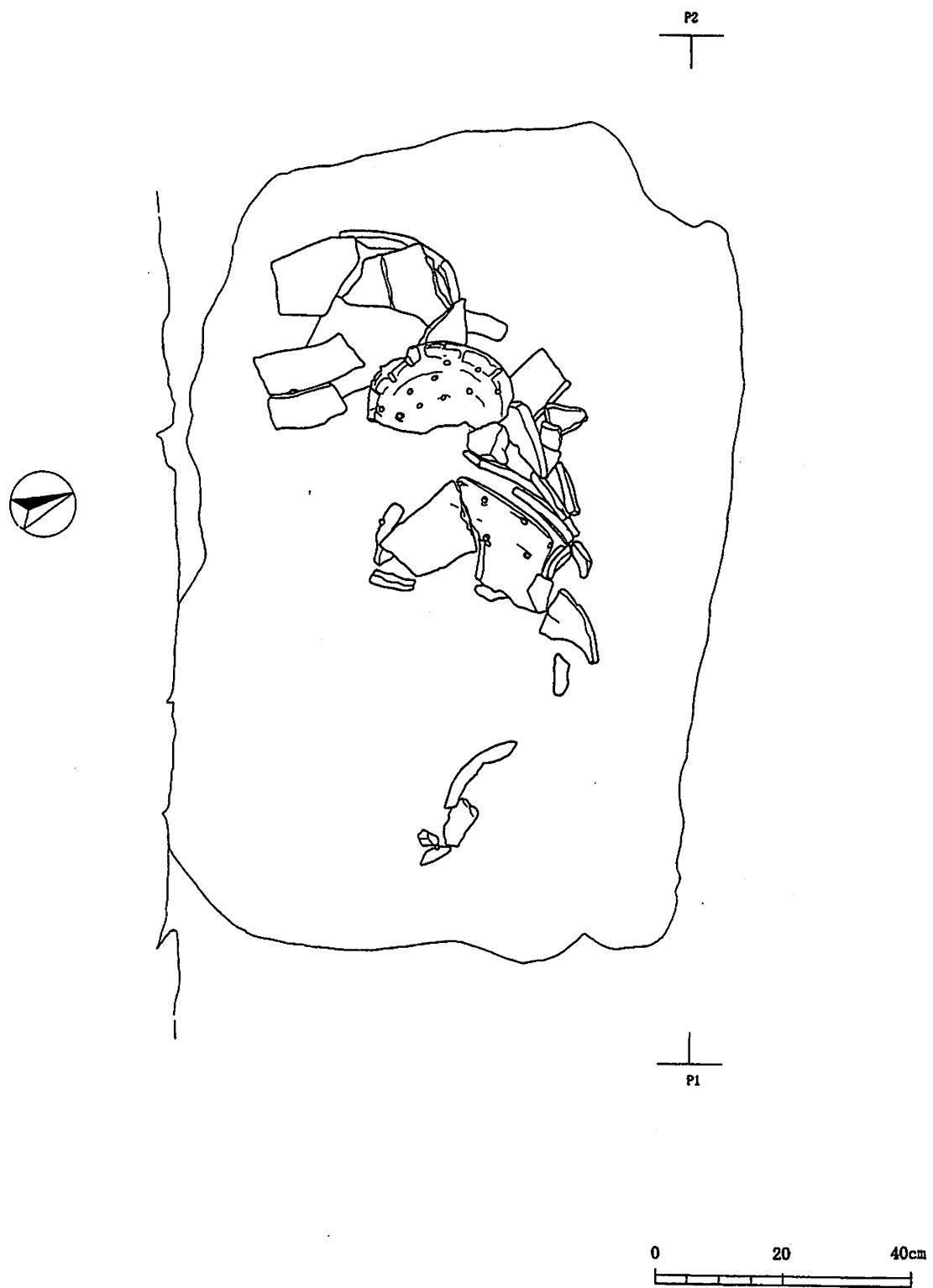
第36図 第8号墓 墓庭坑内遺物検出状況

[S=1/10]



第37図 第8号墓 墓庭坑内遺物検出状況

[S=1/10]



第38図 第12号墓 墓庭坑内遺物検出状況

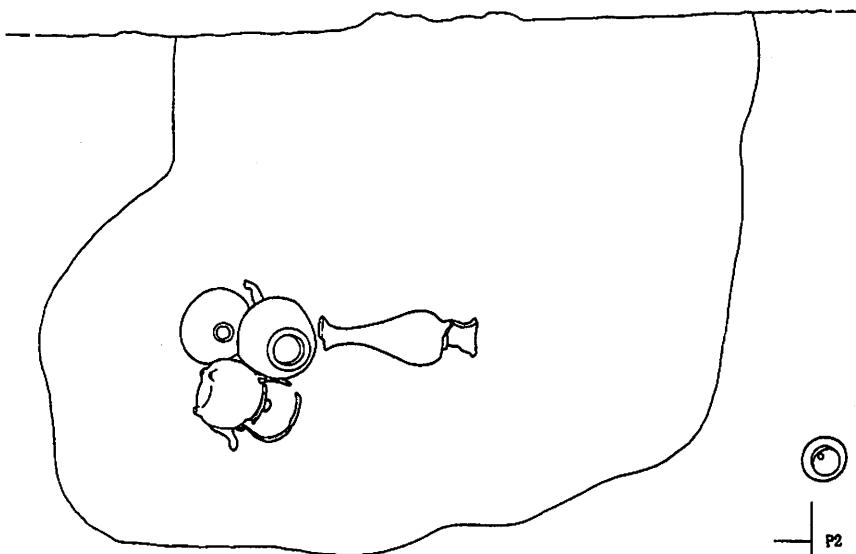
[S = 1 / 10]



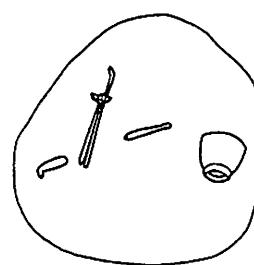
第14号墓

P1

P2

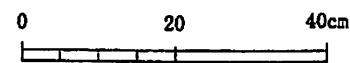


P2



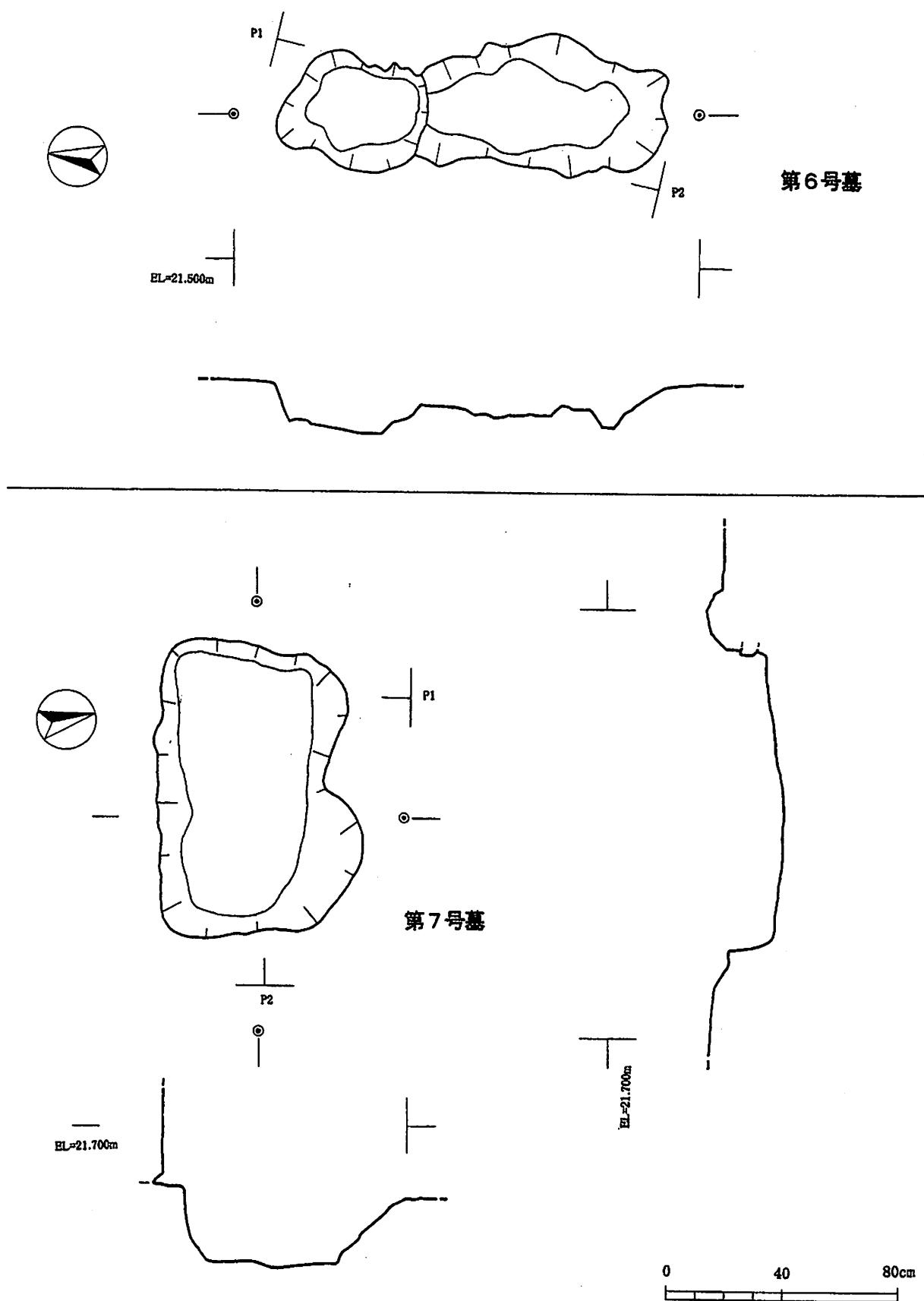
第18号墓

P1



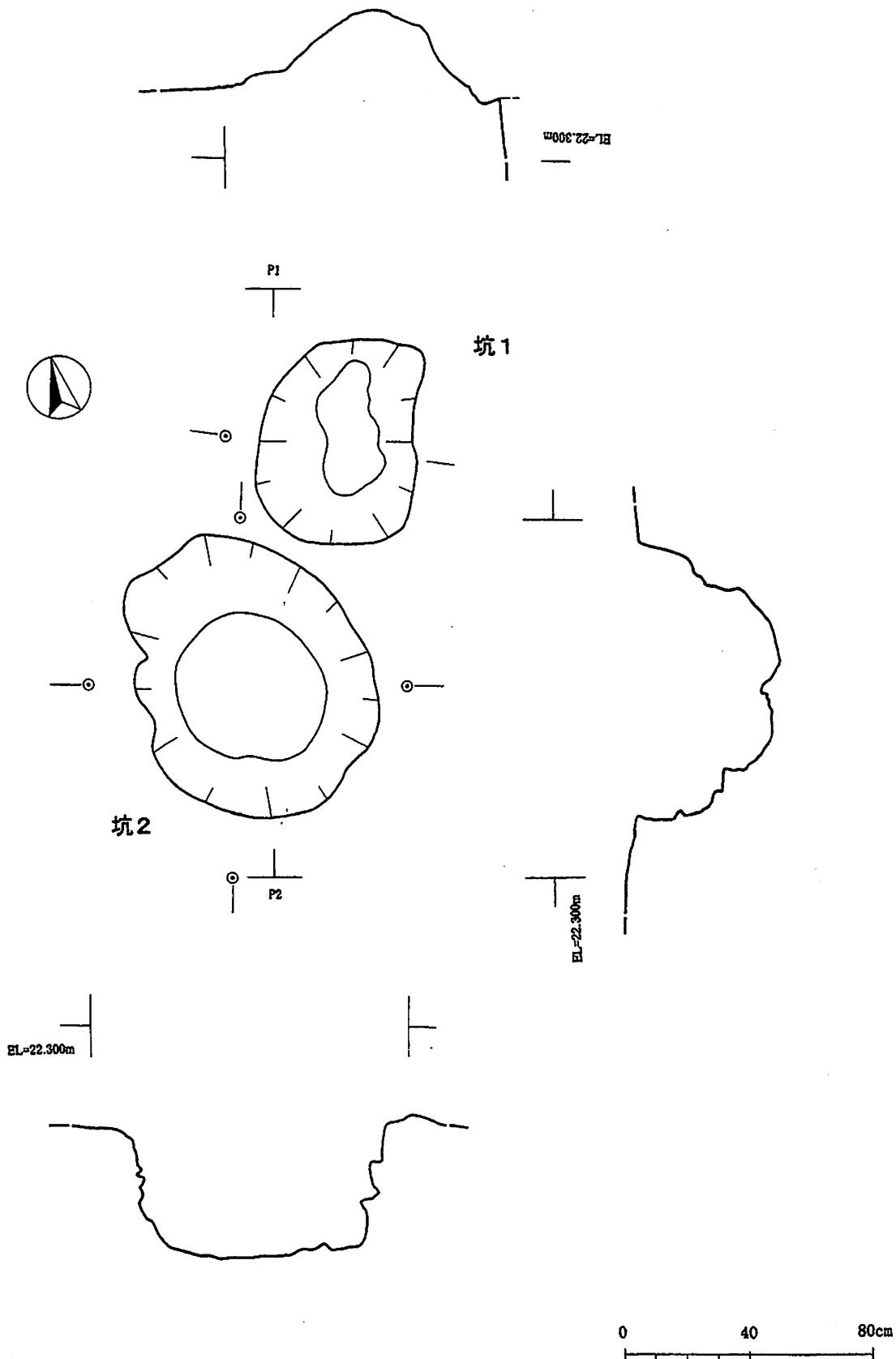
第39図 第14・18号墓 墓庭坑内遺物検出状況

[S=1/10]



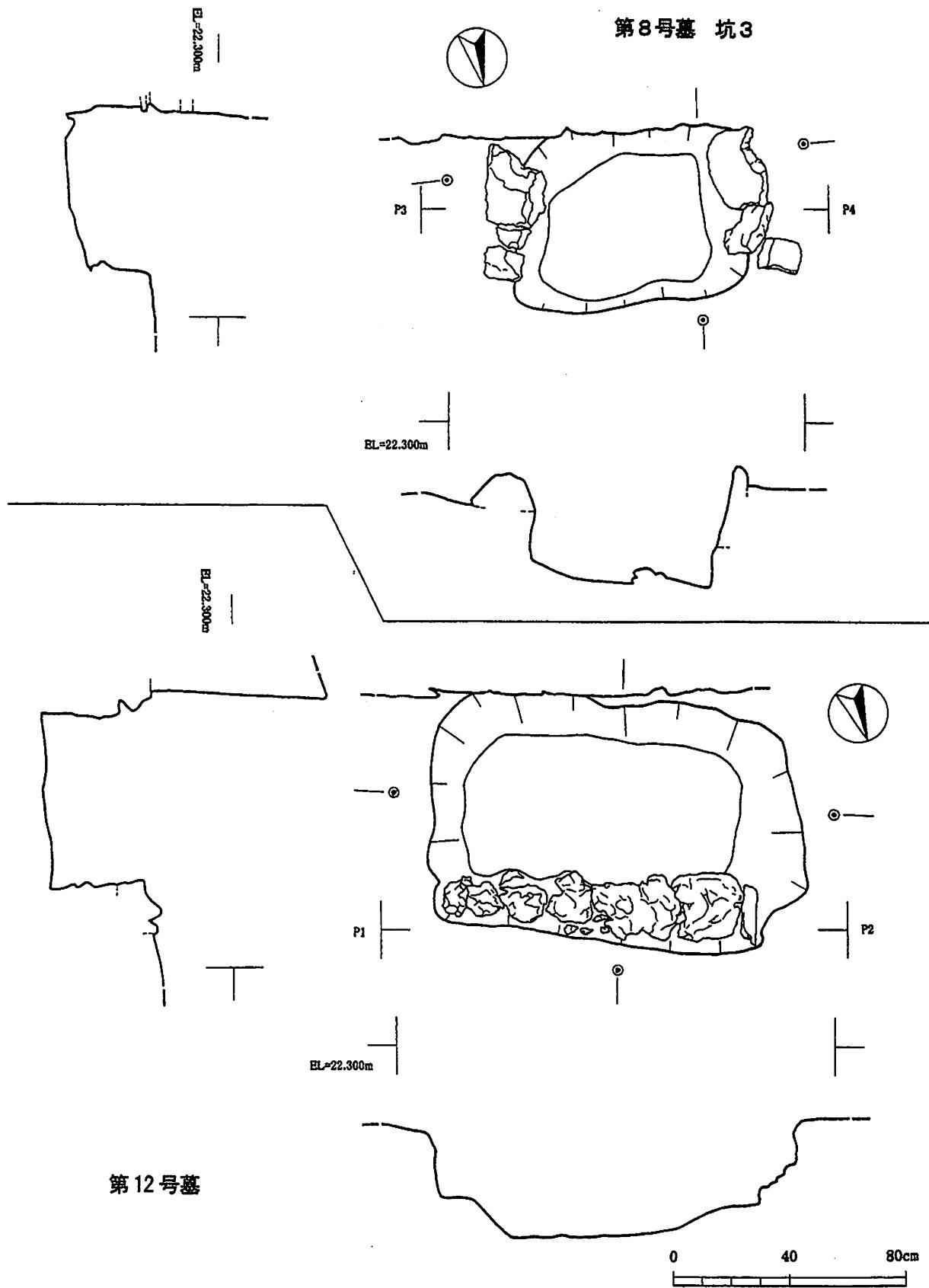
第40図 第6・7号墓 墓庭坑 平面図・断面図

[S = 1 / 20]



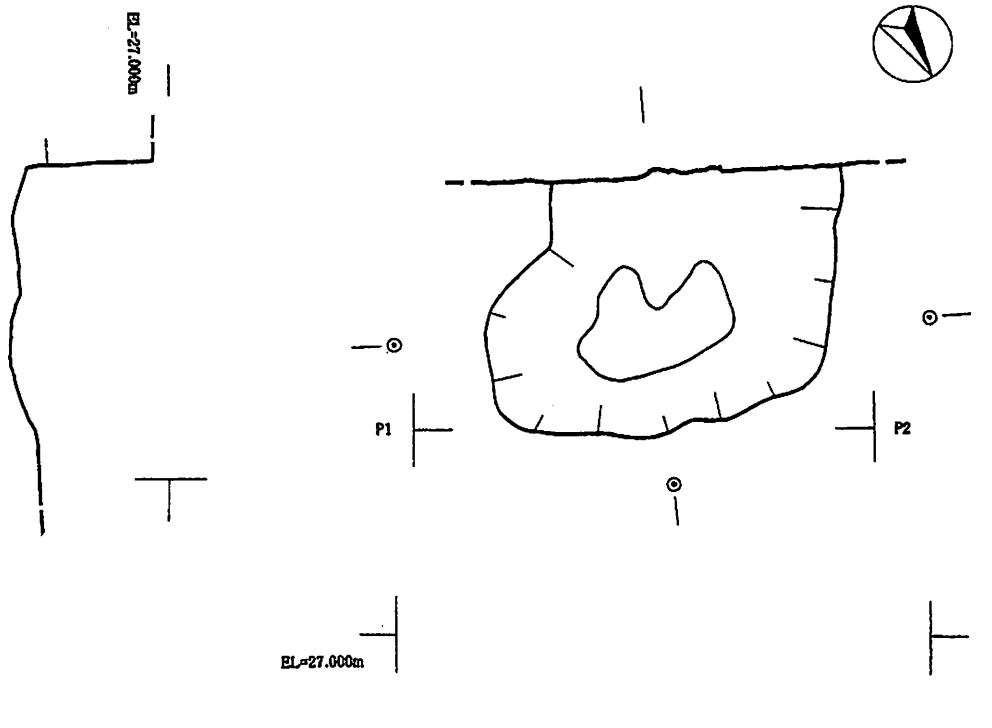
第41図 第8号墓 墓庭坑 平面図・断面図

$[S = 1/20]$

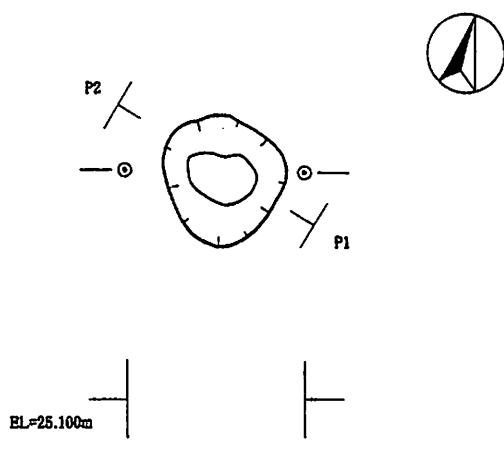


第42図 第8・12号墓 墓庭坑 平面図・断面図

[S = 1 / 20]



第14号墓



第18号墓

0 40 80cm

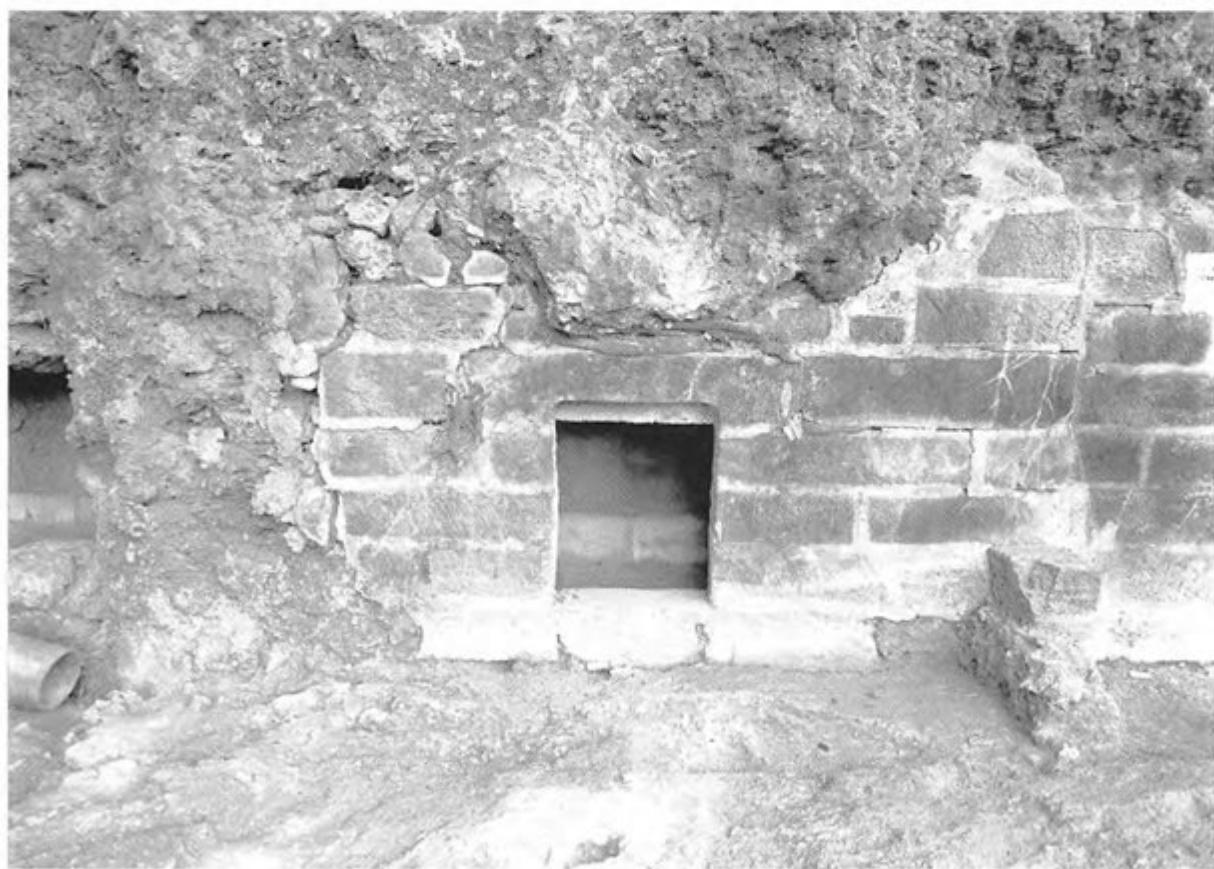
第43図 第14・18号墓 墓庭坑 平面図・断面図

[S = 1 / 20]

図 版



図版1 遺跡一帯の航空写真(2006年撮影、S=1/5,000) 赤で示した範囲が、城岳古墓群 [上が北]



図版2 上：第1号墓正面
下：第2号墓正面



図版3 上：第3号墓正面
下：第4号墓正面



図版4 上：第6号墓正面
下：第7号墓正面



図版5 上：第8号墓正面
下：第9号墓正面



図版6 上：第10号墓正面
下：第11号墓正面



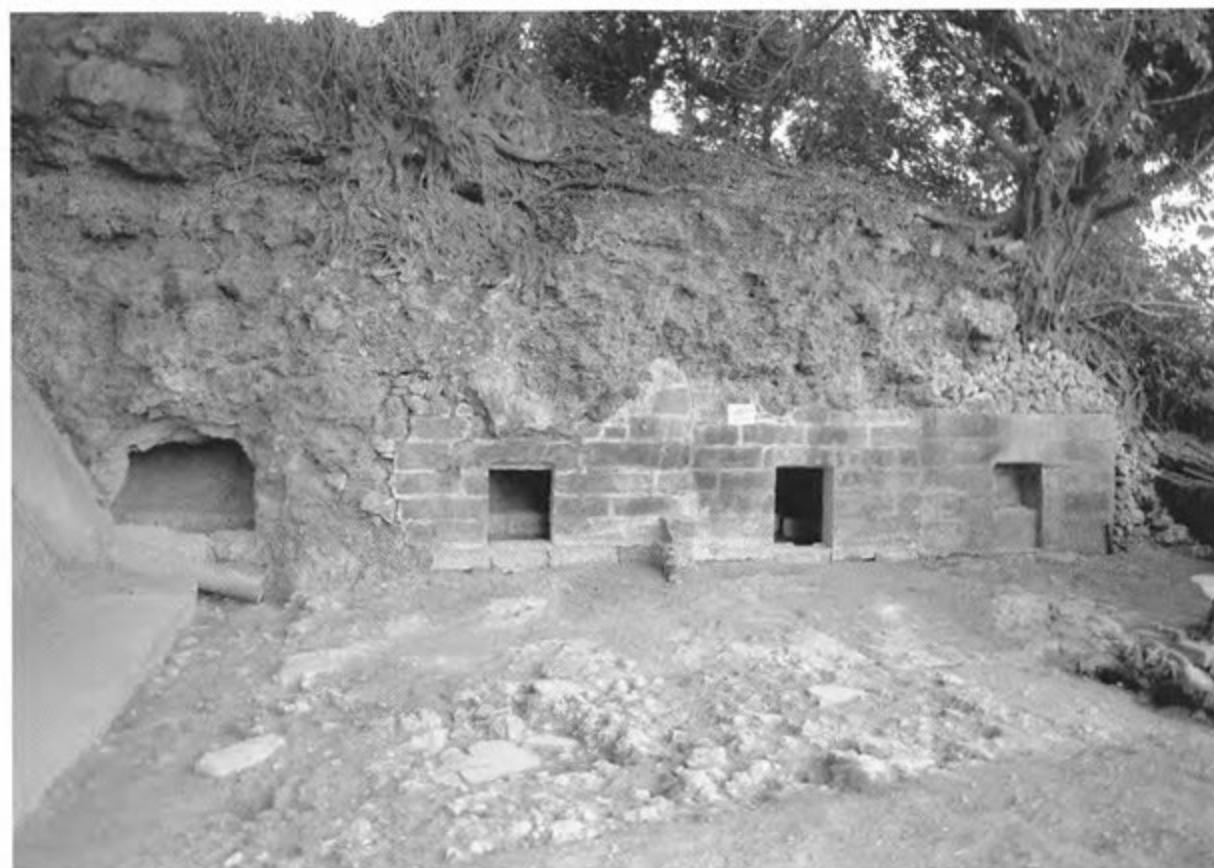
図版7 上：第12号墓正面
下：第13号墓正面



図版8 上：第14号墓正面
下：第18号墓正面



図版9 上：第23号墓正面
下：防空壕入口



図版 10 1段目：第1～4号墓全体の検出状況(南から)
2段目左：第1～4号墓伐採後の状況 2段目右：第1・2号墓伐採後の状況
3段目左：第3・4号墓伐採後の状況 3段目右：第1～4号墓コンクリート除去状況



図版 11

第1号墓

1段目左：墓室内の状況

第2号墓

2段目左：墓室内の状況

3段目左：墓室後壁面

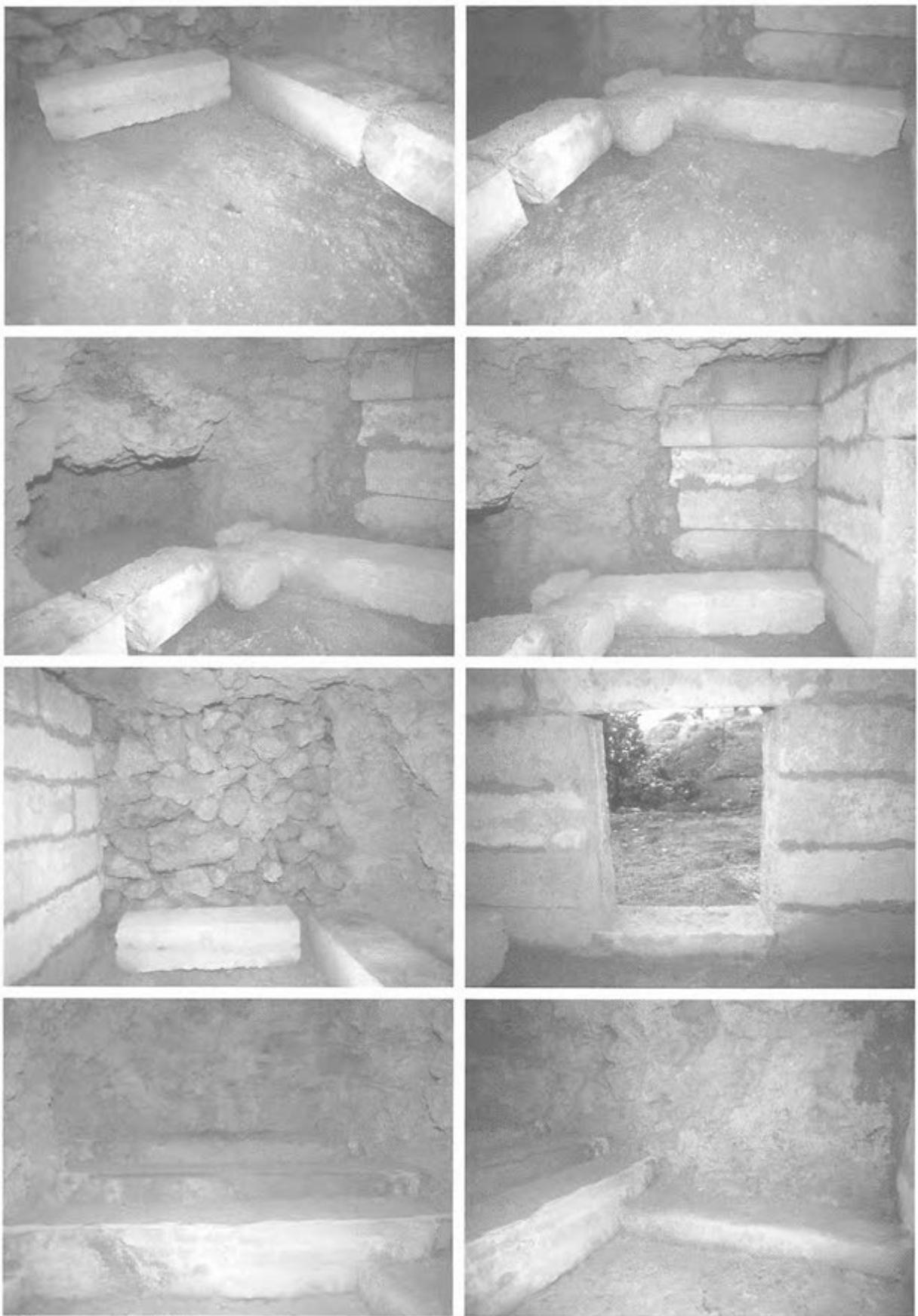
4段目左：墓室左壁面

1段目右：墓室内の状況

2段目右：墓室内の状況

3段目右：墓室右壁面

4段目右：墓室前壁面



図版 12 第3号墓

1段目左：墓室内の状況
2段目左：墓室内の状況
3段目左：墓室左壁面
第4号墓
4段目左：墓室内の状況

1段目右：墓室内の状況
2段目右：墓室右壁面
3段目右：墓室前壁面
4段目右：墓室内の状況



図版 13 第4号墓

1段目左：墓室右壁面
2段目左：墓室シリヒラシドゥクル
第6号墓
3段目左：伐採後の状況
4段目左：墓庭検出状況

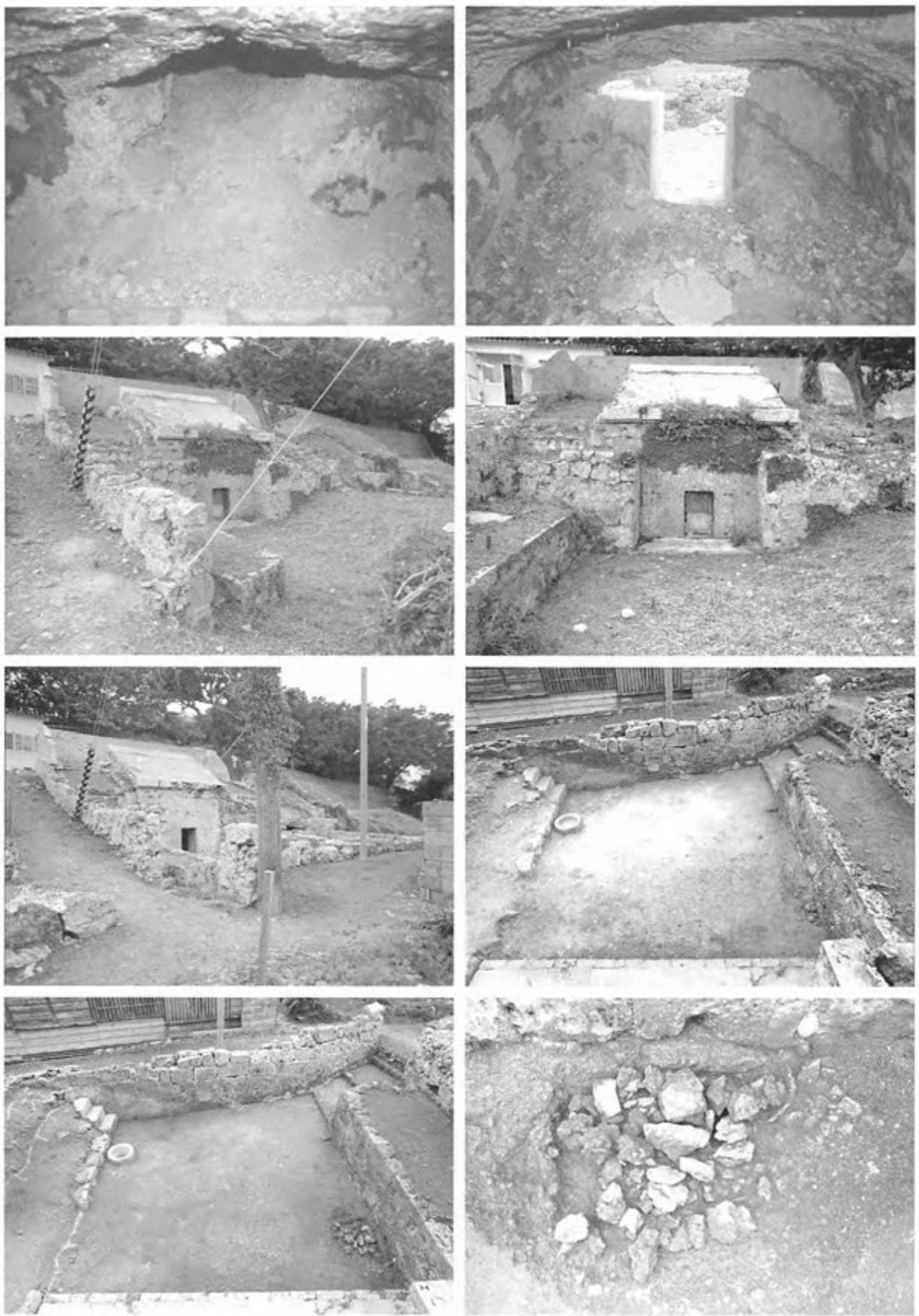
1段目右：墓室左壁面
2段目右：墓室前壁面
3段目右：墓正面
4段目右：墓庭坑内遺物検出状況(上部)



図版 14 第6号墓

1段目左：墓庭坑内遺物検出状況(下部)
2段目左：墓庭坑内人骨検出状況
3段目左：墓庭左石垣
4段目左：墓室内の状況

1段目右：墓庭坑内人骨検出状況
2段目右：墓庭右石垣
3段目右：墓庭前石垣
4段目右：墓室内の状況



図版 15 第6号墓

1段目左：墓室後壁面
第7号墓
2段目左：伐採後の状況
3段目左：全体の検出状況(南東から)
4段目左：墓庭坑検出状況

1段目右：墓室前壁面

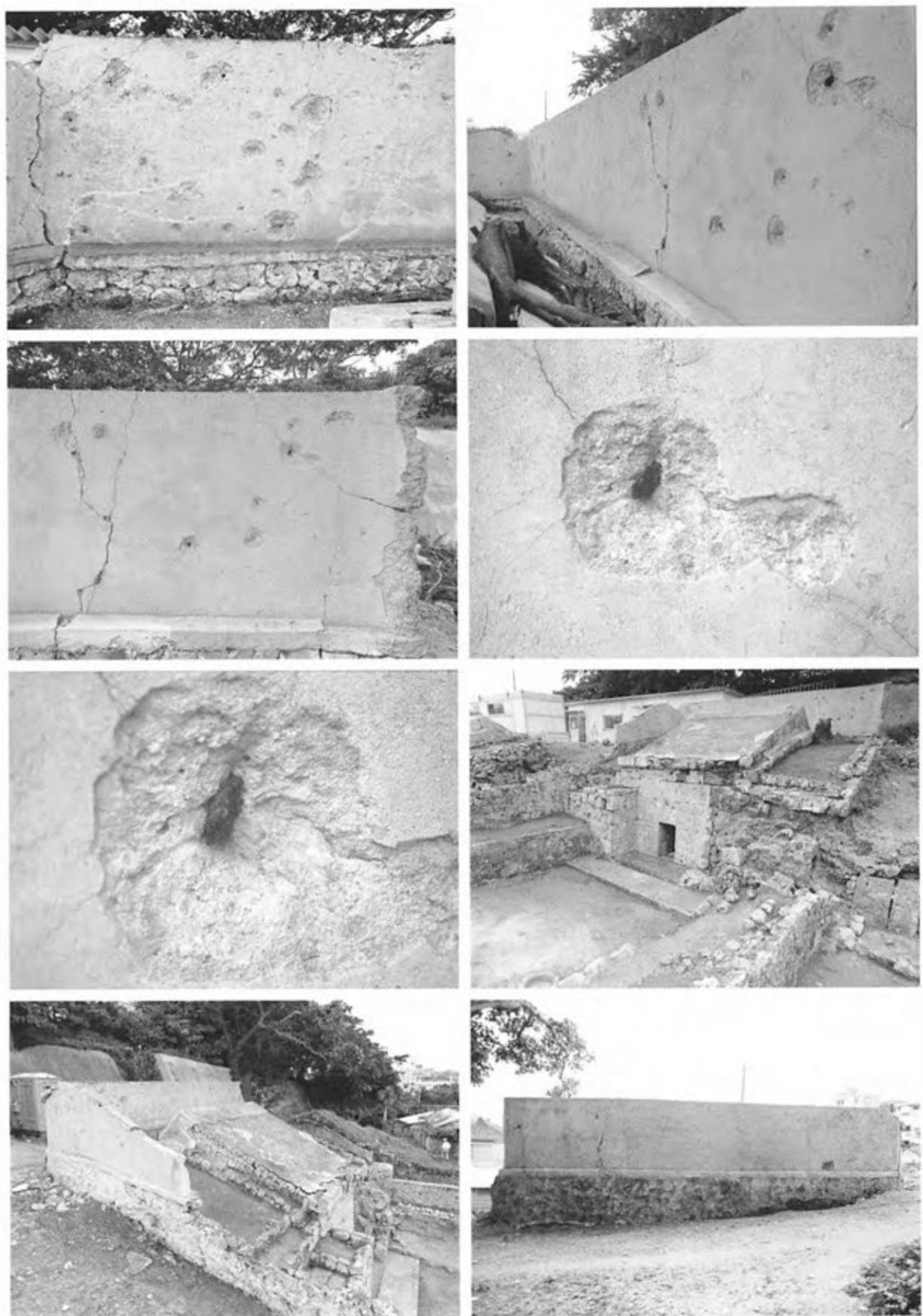
2段目右：伐採後の状況(墓正面)
3段目右：墓庭検出状況
4段目右：墓庭坑検出状況



図版 16 第7号墓

1段目左：墓庭坑内遺物検出状況
2段目左：墓庭石製容器内遺物検出状況
3段目左：墓庭左石垣
4段目左：牆壁内面被弾状況

1段目右：墓庭坑内遺物検出状況
2段目右：墓庭右石垣
3段目右：墓庭前石垣
4段目右：牆壁内面被弾状況



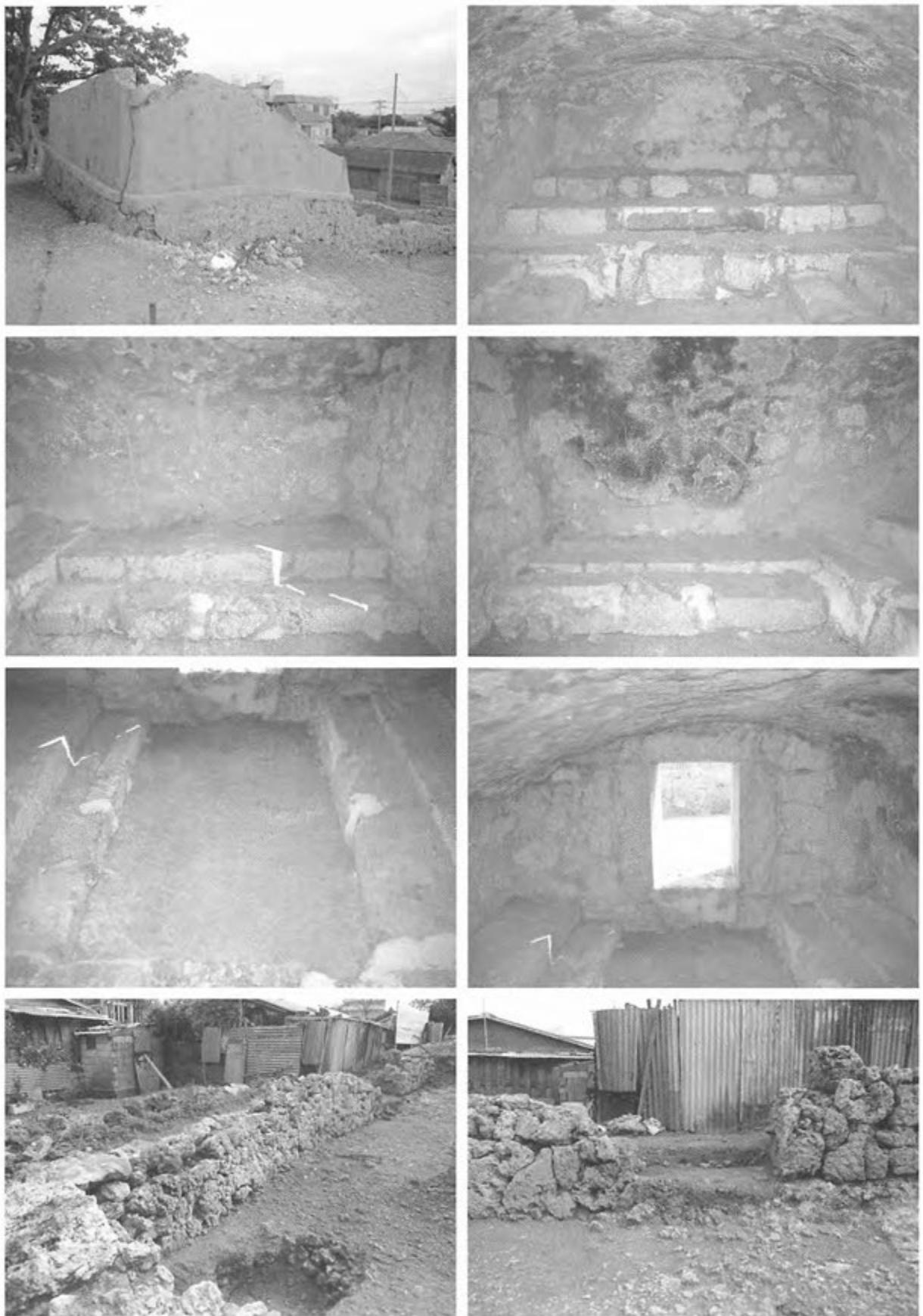
図版 17 第7号墓

1段目左：牆壁内面被弾状況
2段目左：牆壁内面被弾状況
3段目左：牆壁内面被弾痕跡(第1号穴)
4段目左：墓左側面

1段目右：牆壁内面被弾状況
2段目右：牆壁内面被弾痕跡(第1号穴)
3段目右：墓右側面
4段目右：墓背面(牆壁外面)



図版 18(第 13 図) 第 7 号墓 壁面内面被弾痕跡(第 1 号穴)より採取した金属破片



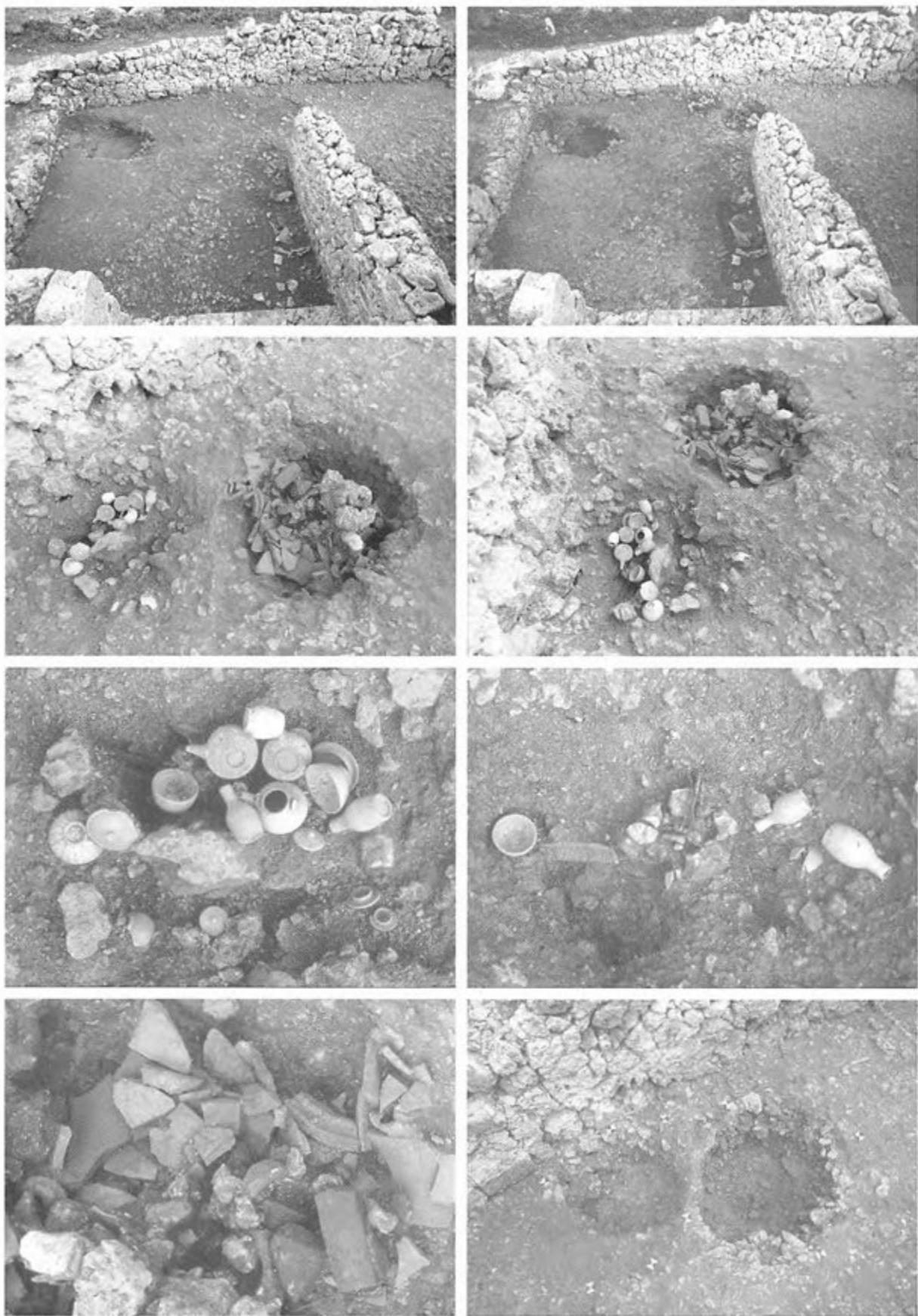
図版 19 第7号墓

1段目左：墓背面(牆壁外面)
2段目左：墓室右壁面
3段目左：墓室シルヒラシドゥクル
第8～10号墓
4段目左：墓庭前石垣

1段目右：墓室内の状況
2段目右：墓室左壁面
3段目右：墓室前壁面
4段目右：墓庭出入口



図版 20 第8～10号墓
上：全体の検出状況(北東から)
下：全体の検出状況(南東から)



図版 21 第8号墓

1段目左：墓庭検出状況
2段目左：坑1・2内遺物検出状況
3段目左：坑1内遺物検出状況(上部)
4段目左：坑2内遺物検出状況

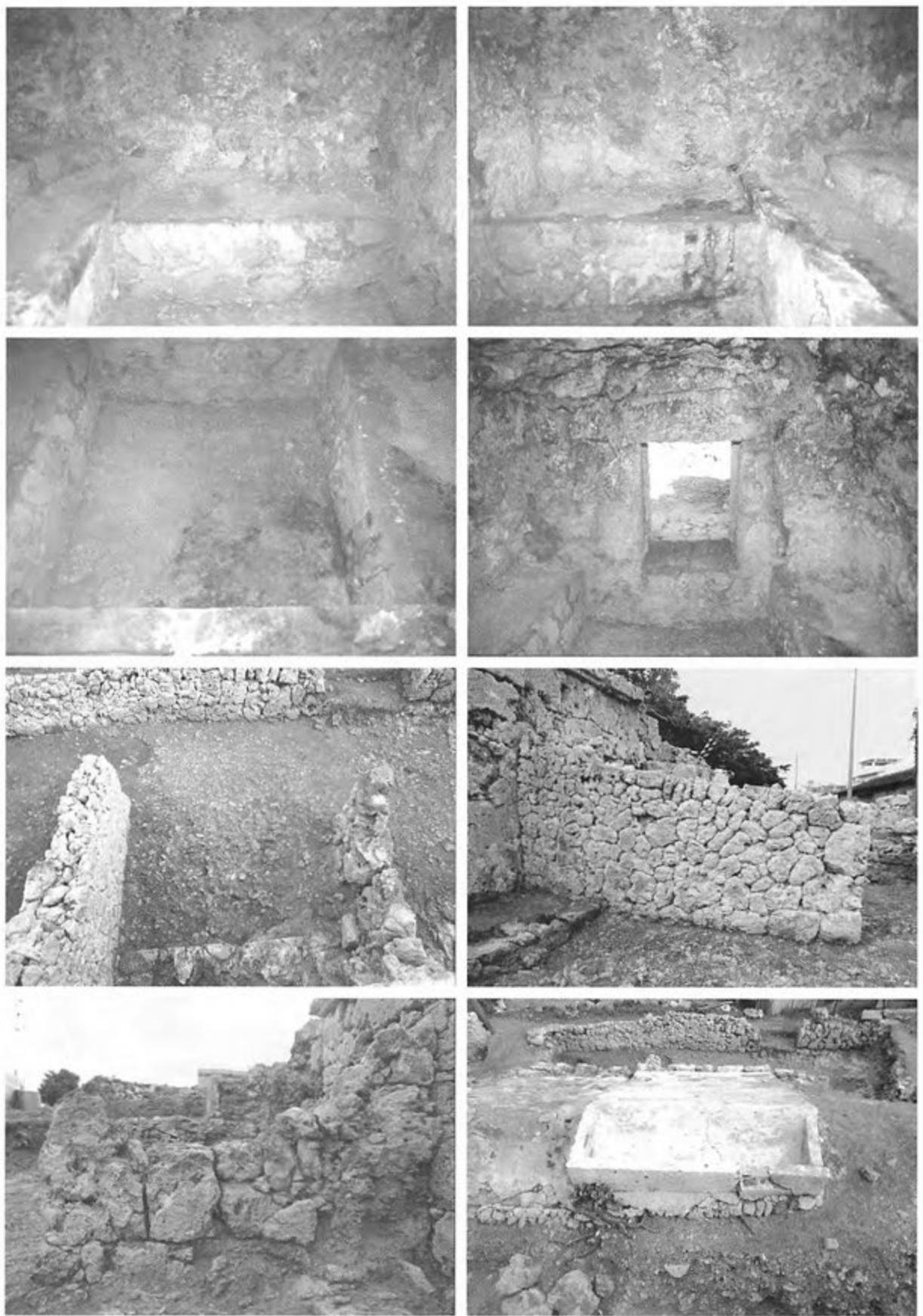
1段目右：墓庭坑検出状況
2段目右：坑1・2内遺物検出状況
3段目右：坑1内遺物検出状況(下部)
4段目右：坑1・2完掘状況



図版 22 第8号墓

1段目左：坑3検出状況
2段目左：墓庭右石垣
3段目左：墓屋根
4段目左：墓室内の状況

1段目右：坑3内遺物検出状況
2段目右：墓庭左右石垣
3段目右：墓右側面
4段目右：墓室後壁面



図版 23 第8号墓

1段目左：墓室右壁面
2段目左：墓室シリヒラシドゥクル
第9号墓
3段目左：墓庭検出状況
4段目左：墓庭左石垣

1段目右：墓室左壁面
2段目右：墓室前壁面
3段目右：墓庭右石垣
4段目右：墓屋根

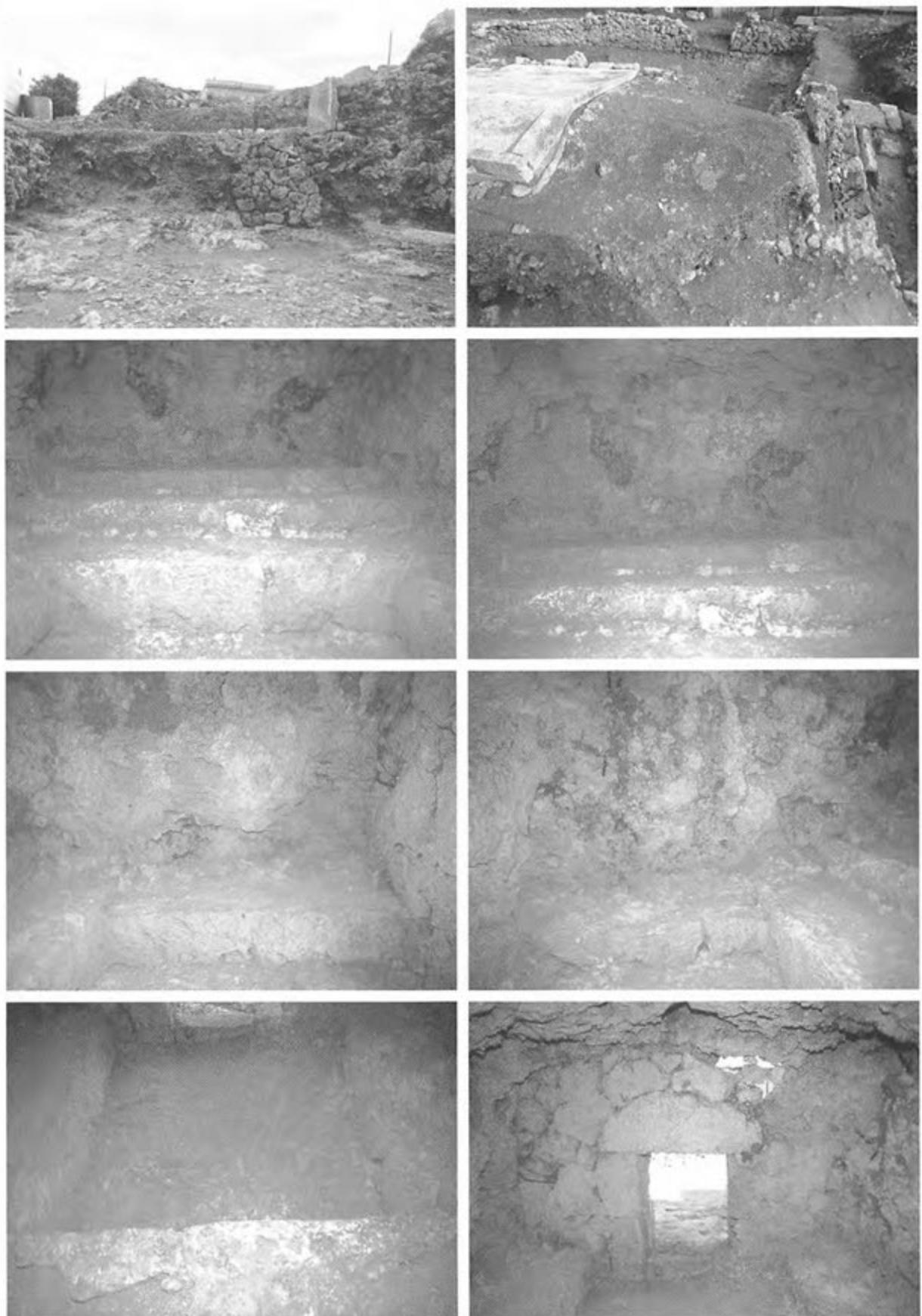


図版 24 第9号墓

1段目左：墓室内の状況
2段目左：墓室右壁面
3段目左：墓室シルヒラシドゥクル
第10号墓
4段目左：墓庭検出状況

1段目右：墓室後壁面
2段目右：墓室左壁面
3段目右：墓室前壁面

4段目右：墓庭右石垣



図版 25 第 10 号墓

1段目左：墓庭左側面
2段目左：墓室内の状況
3段目左：墓室右壁面
4段目左：墓室シリヒラシドゥクル

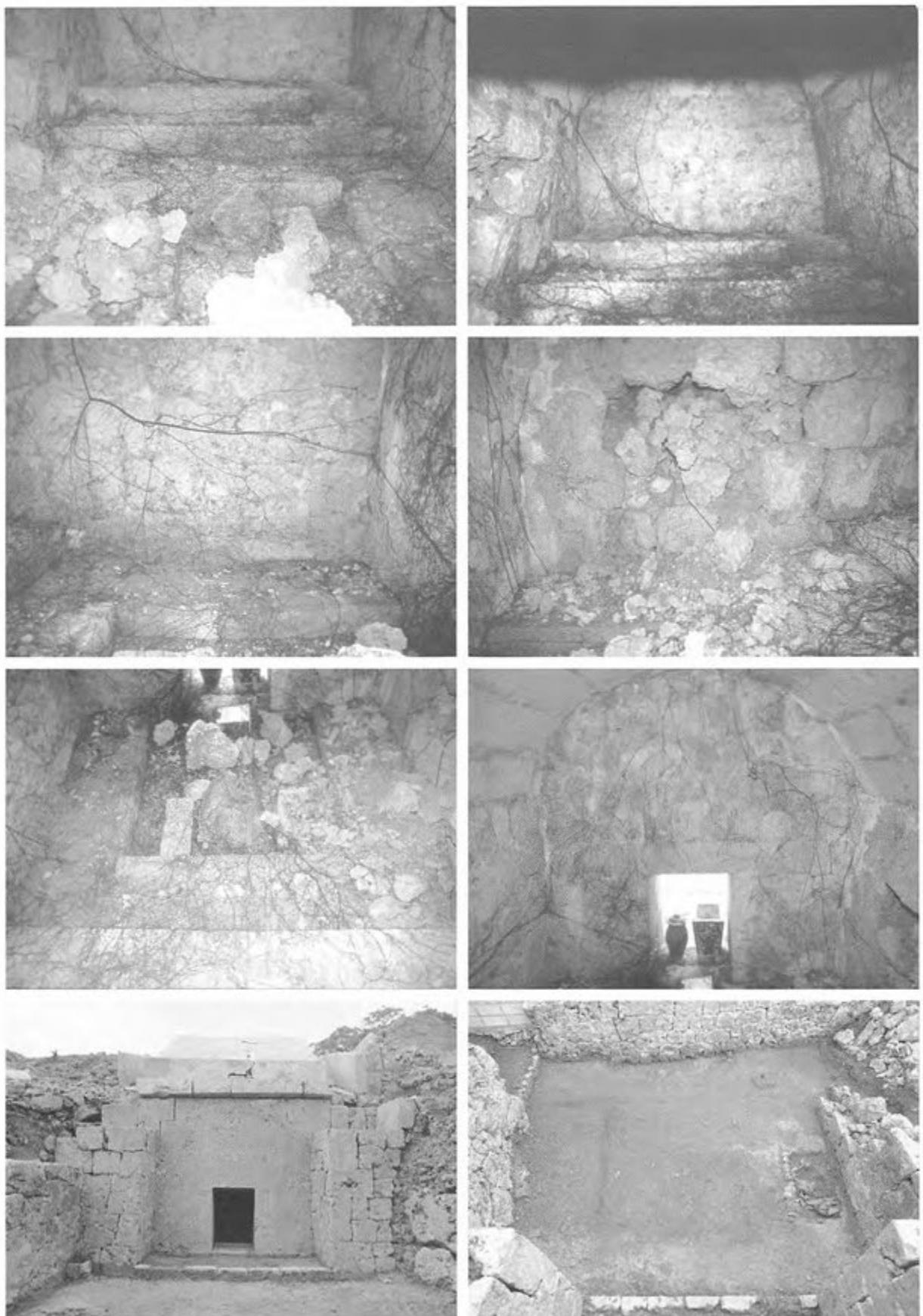
1段目右：墓屋根
2段目右：墓室後壁面
3段目右：墓室左壁面
4段目右：墓室前面



図版 26 第11号墓

1段目左：伐採後の状況
2段目左：全体の検出状況(北西から)
3段目左：墓庭検出状況
4段目左：墓左側面

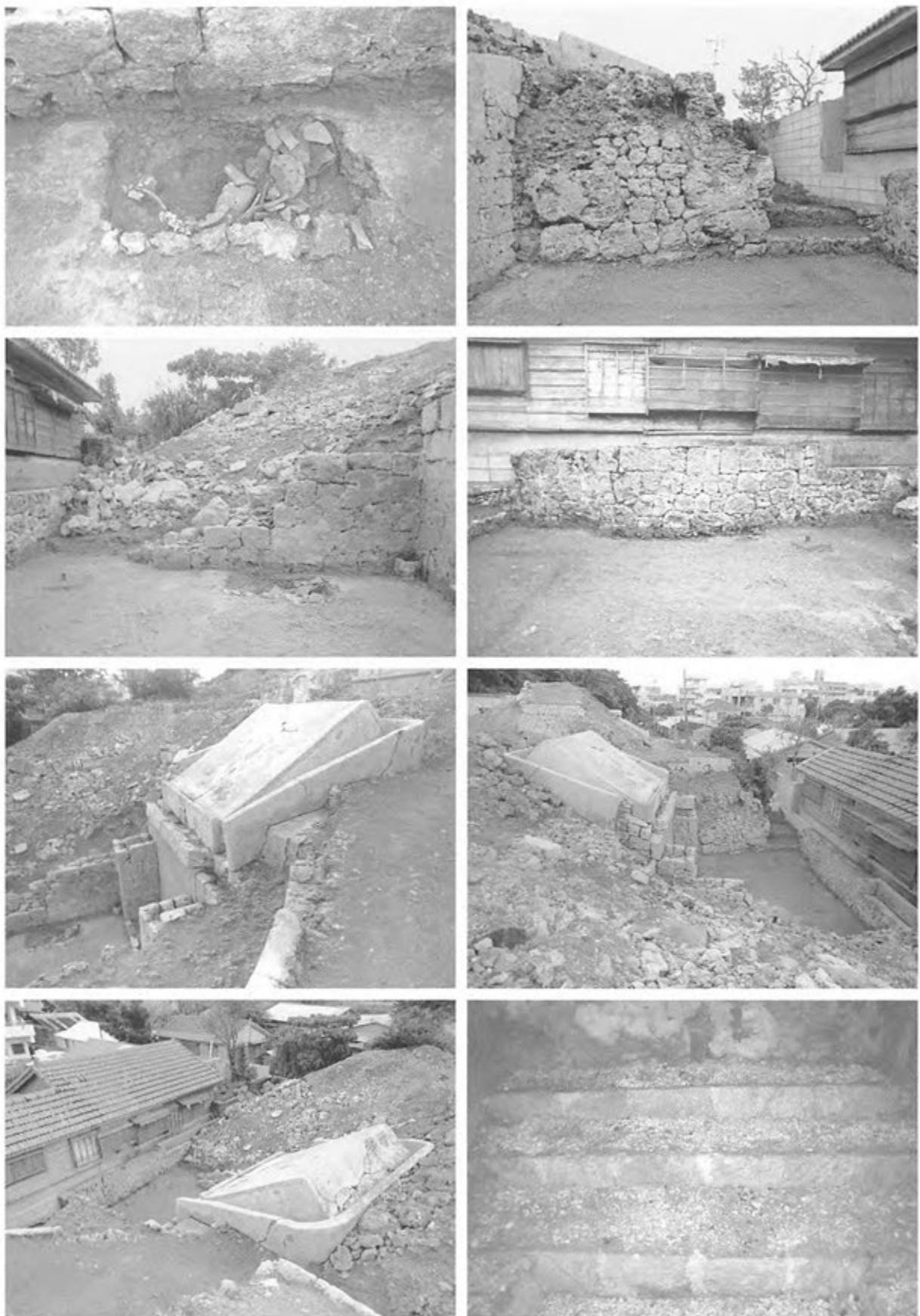
1段目右：コンクリート除去状況
2段目右：墓正面
3段目右：墓右側面
4段目右：墓背面



図版 27 第 11 号墓

1 段目左：墓室内の状況
2 段目左：墓室右壁面
3 段目左：墓室シルヒラシドゥクル
第 12 号墓
4 段目左：墓正面

1 段目右：墓室後壁面
2 段目右：墓室左壁面
3 段目右：墓室前壁面
4 段目右：墓庭検出状況



図版 28 第 12 号墓

1 段目左：墓庭坑内遺物検出状況
2 段目左：墓庭左右石垣
3 段目左：墓右側面
4 段目左：墓背面

1 段目右：墓庭右側面
2 段目右：墓庭前石垣
3 段目右：墓左側面
4 段目右：墓室内の状況



図版 29 第 12 号墓

1 段目左：墓室内の状況
2 段目左：墓室右壁面
3 段目左：墓室シリヒラシドゥクル
第 13 号墓
4 段目左：墓正面

1 段目右：墓室後壁面
2 段目右：墓室左壁面
3 段目右：墓室前壁面
4 段目右：墓庭検出状況



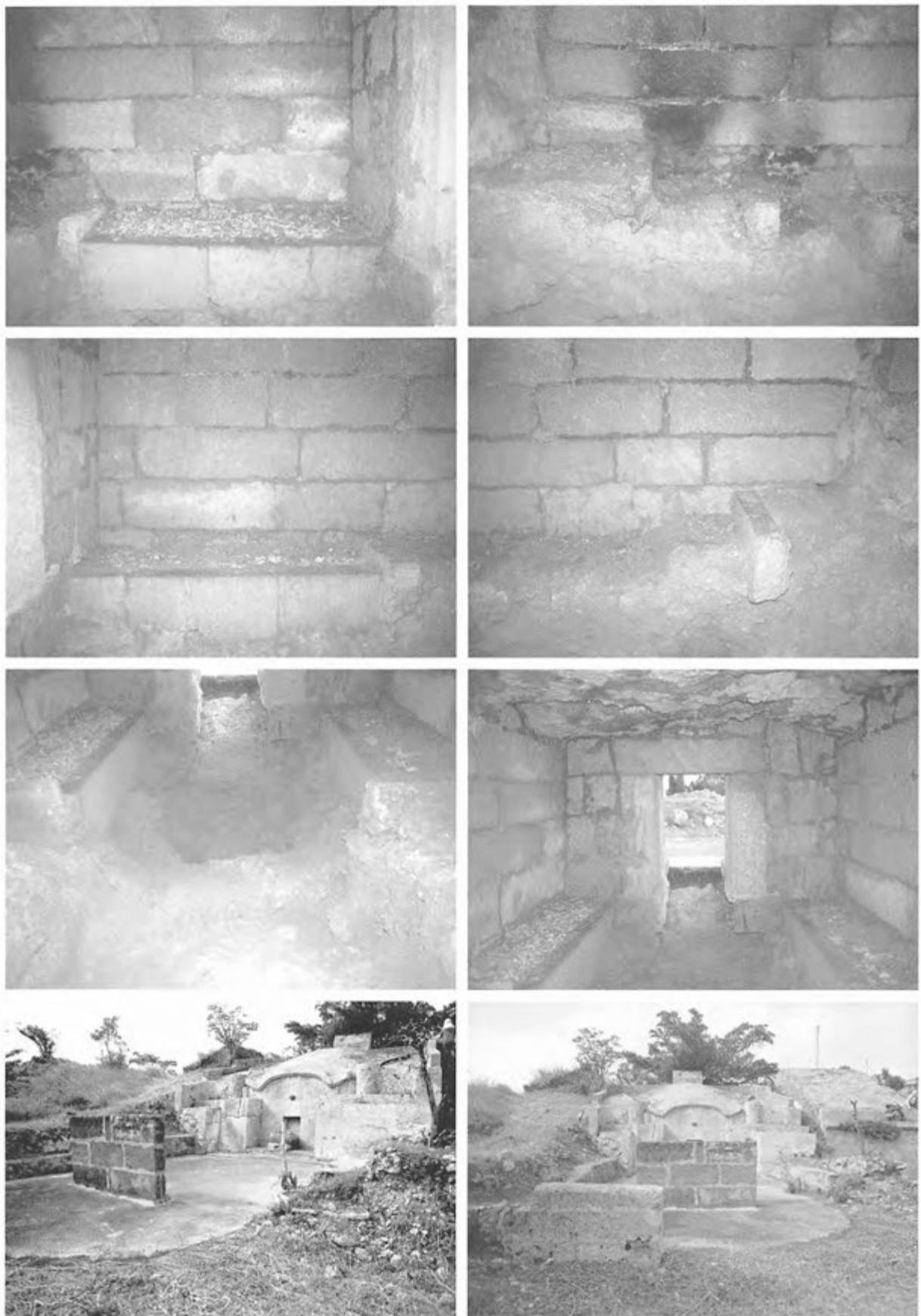
図版30(第23図) 第12号墓 墓室内より検出した煉瓦証文



図版 31 第 13 号墓

1 段目左：墓庭右石垣
2 段目左：墓右側面
3 段目左：墓背面
4 段目左：墓室内の状況

1 段目右：墓庭左石垣
2 段目右：墓背面
3 段目右：墓口検出状況
4 段目右：墓室後壁面



図版 32 第 13 号墓

1 段目左：墓室右壁面(前側)

2 段目左：墓室左壁面(前側)

3 段目左：墓室内の状況

第 14 号墓

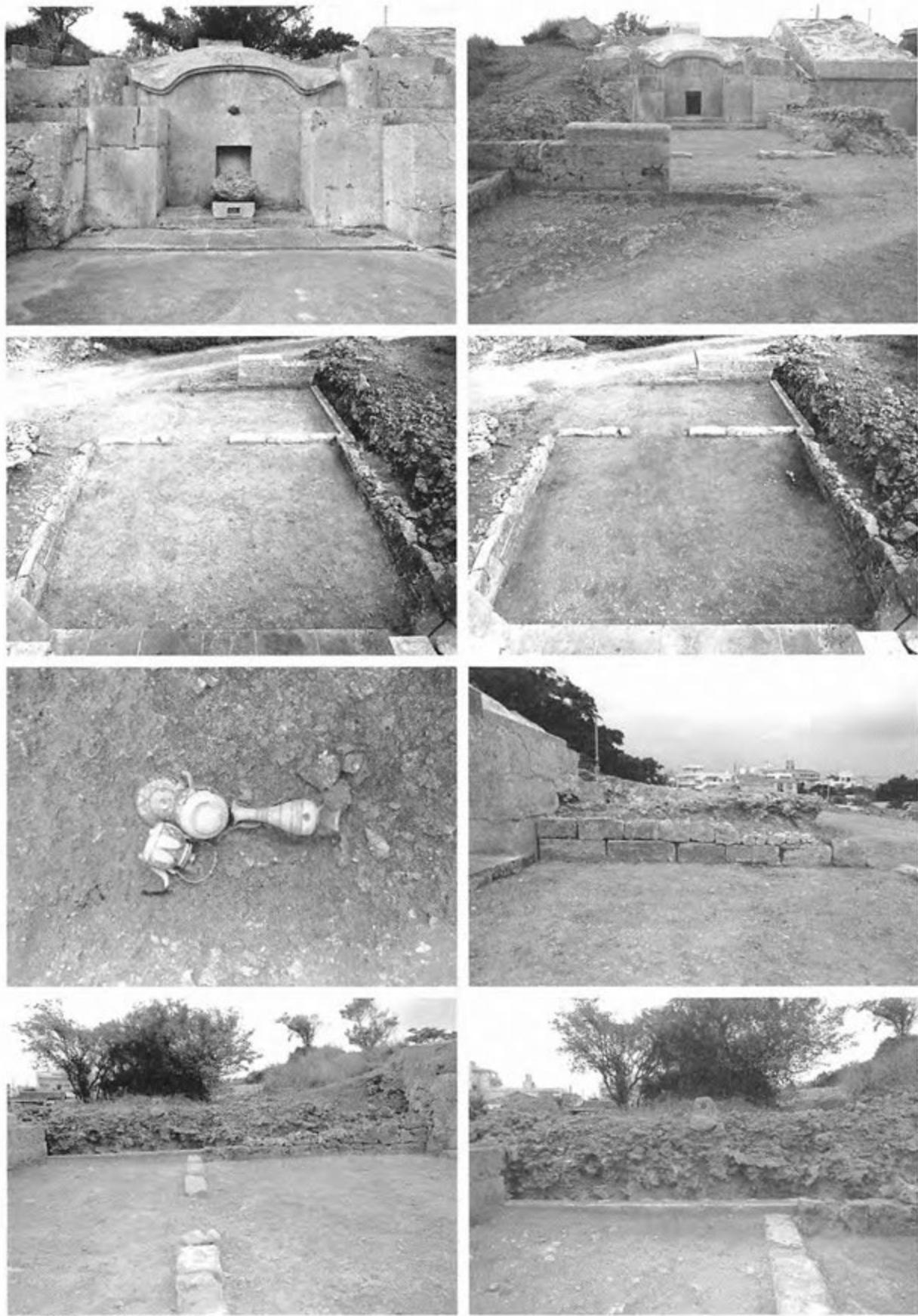
4 段目左：伐採後の状況

1 段目右：墓室右壁面(後側)

2 段目右：墓室左壁面(後側)

3 段目右：墓室前壁面

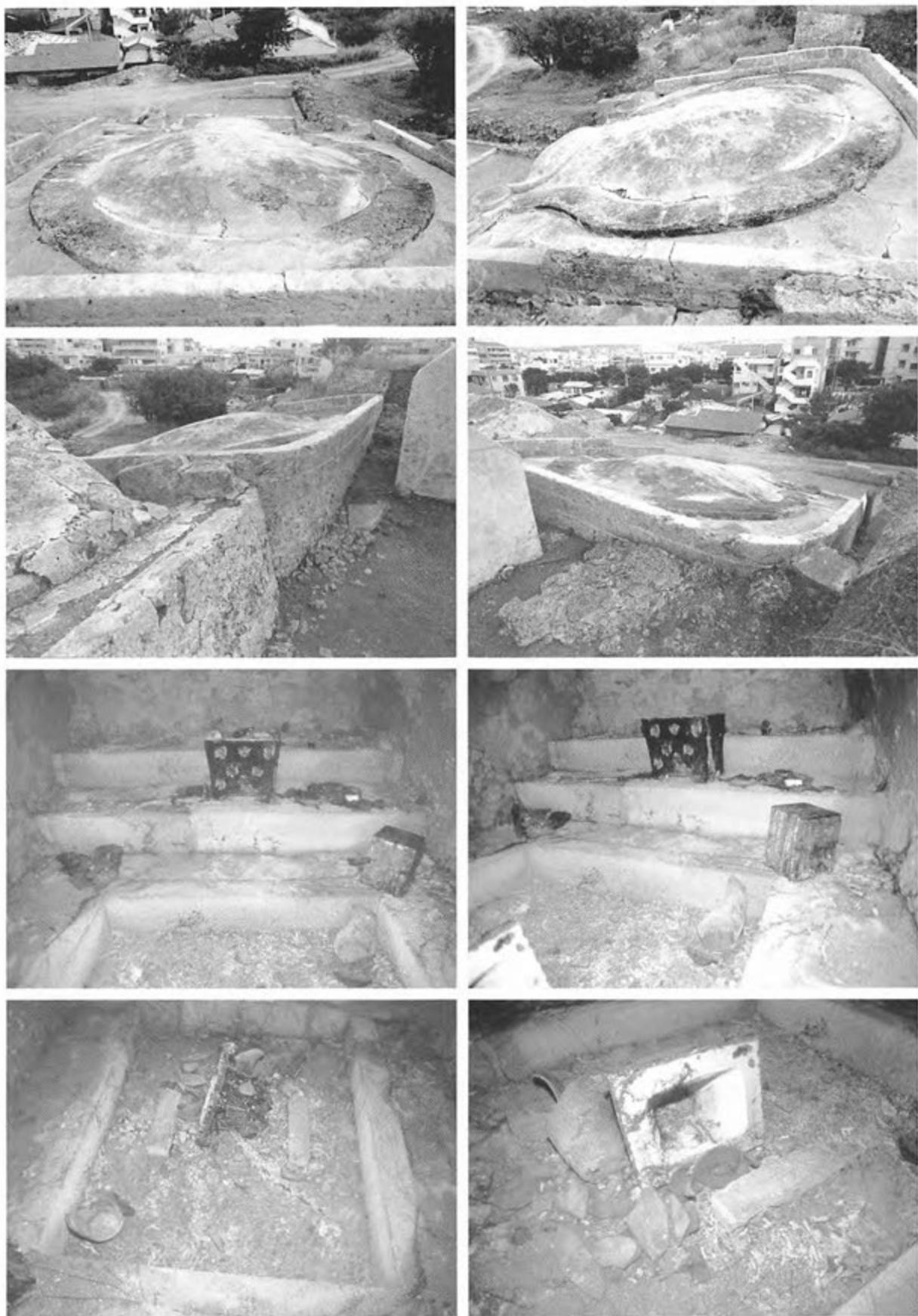
4 段目右：伐採後の状況(墓正面)



図版 33 第 14 号墓

1 段目左：伐採後の状況(墓正面)
 2 段目左：墓庭検出状況
 3 段目左：墓庭坑内遺物検出状況
 4 段目左：墓庭左右石垣

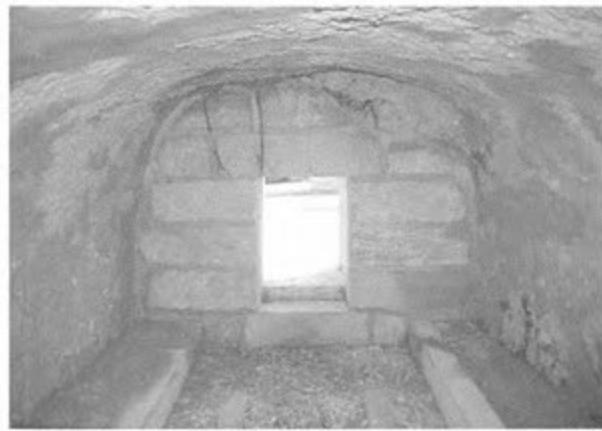
1 段目右：コンクリート除去後の状況(墓正面)
 2 段目右：墓庭坑検出状況
 3 段目右：墓庭右石垣
 4 段目右：墓庭左側面有孔石検出状況



図版 34 第 14 号墓

1 段目左：墓頂部
2 段目左：墓背面
3 段目左：墓室内藏骨器検出状況
4 段目左：墓室内藏骨器検出状況

1 段目右：墓頂部
2 段目右：墓背面
3 段目右：墓室内藏骨器検出状況
4 段目右：墓室内藏骨器検出状況



図版 35 第14号墓

1段目左：墓室内の状況
2段目左：墓室右壁面
3段目左：墓室シリヒラシドゥクル
第18号墓
4段目左：全体の検出状況(北東から)

1段目右：墓室後壁面
2段目右：墓室左壁面
3段目右：墓室前壁面

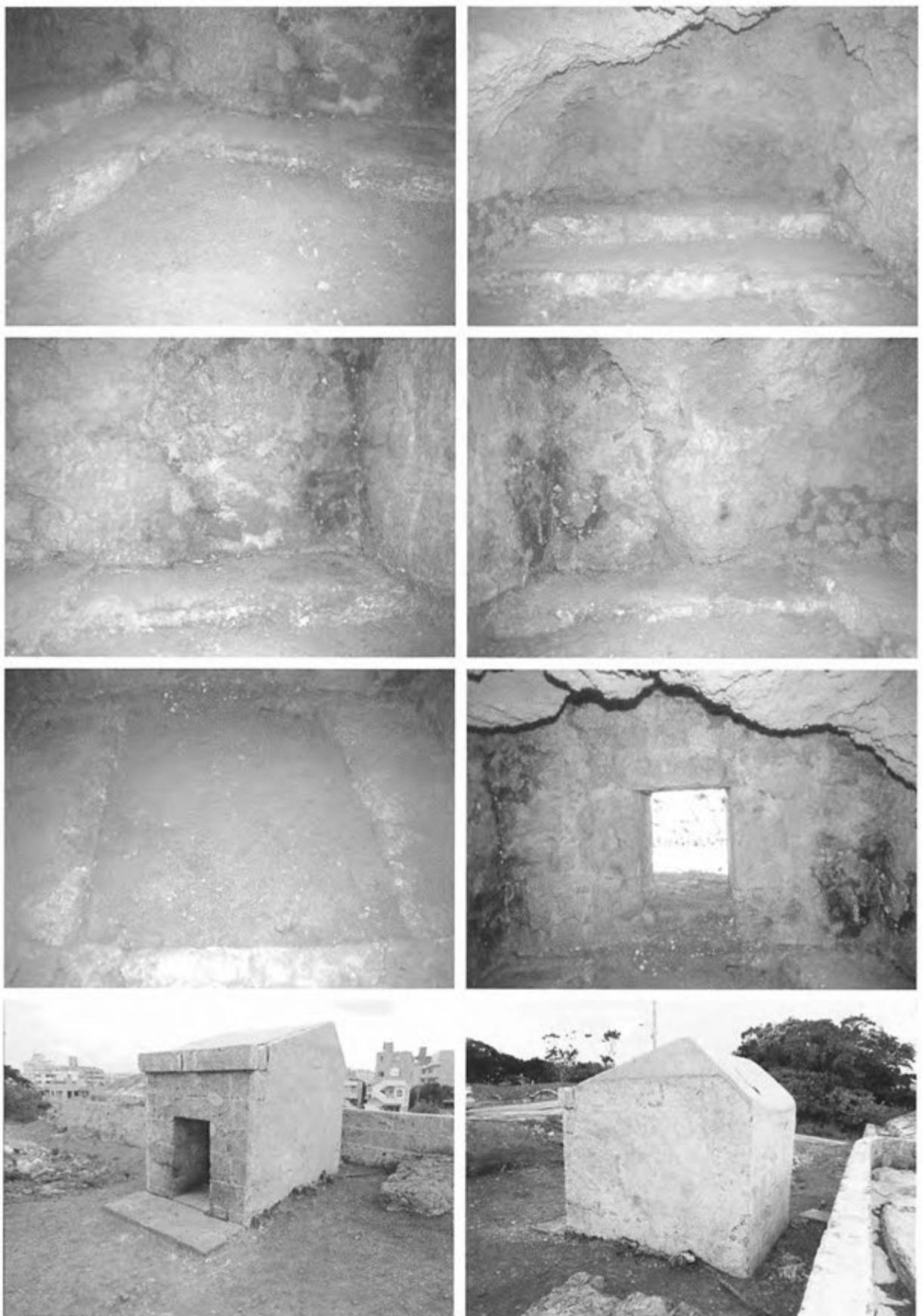
4段目右：全体の検出状況(南東から)



図版 36 第 18 号墓

1段目左：墓正面
2段目左：墓庭坑内遺物検出状況
3段目左：墓庭左右石垣
4段目左：墓背面

1段目右：墓庭検出状況
2段目右：墓庭右石垣
3段目右：墓庭前石垣
4段目右：墓左側面



図版 37 第 18 号墓

1 段目左：墓室内の状況
2 段目左：墓室右壁面
3 段目左：墓室シリヒラシドゥクル
第 23 号墓
4 段目左：墓右側面

1 段目右：墓室後壁面
2 段目右：墓室左壁面
3 段目右：墓室前壁面
4 段目右：墓右側面・背面



図版 38 第 23 号墓

1 段目：墓近景(北西から)
2 段目左：墓室内の状況
3 段目左：墓室前壁面上部

2 段目右：墓室右壁面上部
3 段目右：墓正面右側遺物検出状況

報告書抄録

ふりがな	ぐすぐだけこ ほ ぐん						
書名	城岳古墓群(II)						
副書名	城岳公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅱ						
巻次							
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第76集						
編著者名	當銘由嗣						
編集機関	那覇市教育委員会 文化財課						
所在地	〒900-8553 沖縄県那覇市樋川2-8-8 TEL 098-891-3501						
発行年月日	2008(平成20)年2月20日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号	北緯東經	調査期間	調査面積	調査原因	
ぐすぐだけこ ほ ぐん 城岳古墓群	なはし 那覇市 おおあざ 大字 楚辺	47201	26度 12分 34秒	127度 41分 04秒	2002.11 ~ 2003.03	約752m ²	城岳公園 整備事業 に伴う緊 急発掘調 査
所収遺跡名	種別遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
城岳古墓群	古墓群	近世・近代	破壊 風 墓 墓 甲	煉瓦証文 金属破片			

那覇市文化財調査報告書 第76集

城 岳 古 墓 群 (II)

— 城岳公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告 II —

発行 2008(平成20)年2月20日
那覇市教育委員会
〒900-8553 沖縄県那覇市樋川2-8-8

編集 那覇市教育委員会 文化財課
TEL 098-891-3501
FAX 098-891-3523

印刷 株式会社 平山印刷
〒901-1111 沖縄県南風原町字兼城270-1
TEL 098-889-8748
FAX 098-889-8749
